



LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN - MADISON

Hiroshige ten : seitan nihyakunen kinen :

Furanku Roido Raito ga hakkutsushita

shirarezaru meihin, Nihon hatsukōkai \=

広重展 : 生誕二百年記念 :

**フランク・ロイド・ライトが発掘した知られざる名品,
日本初公開.**

Andō, Hiroshige, 1797-1858 et al.

[Japan]: Bun'yūsha, 1996

<https://digital.library.wisc.edu/1711.dl/S67J7TFAF7N328G>

<https://rightsstatements.org/vocab/InC/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

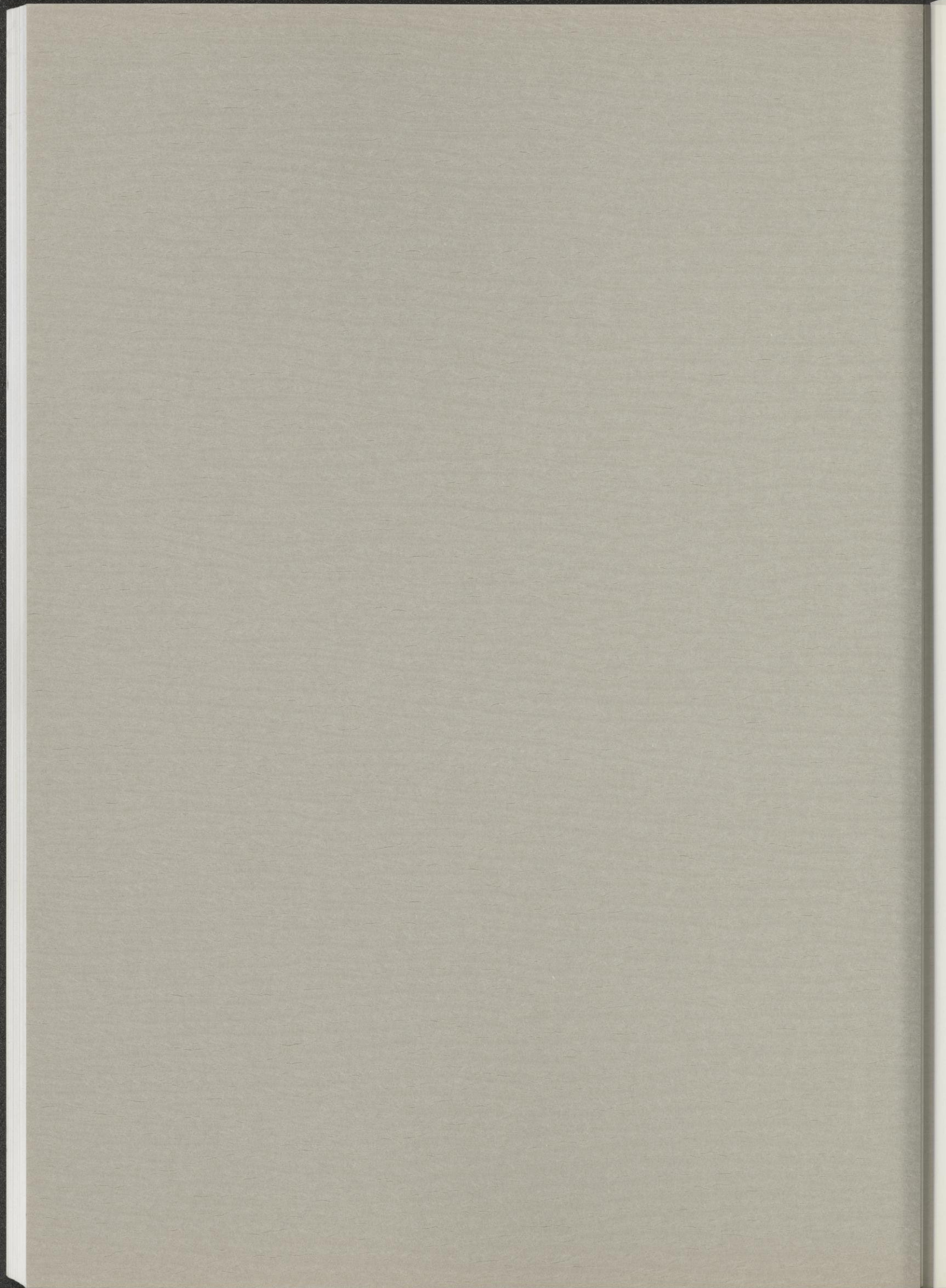
When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

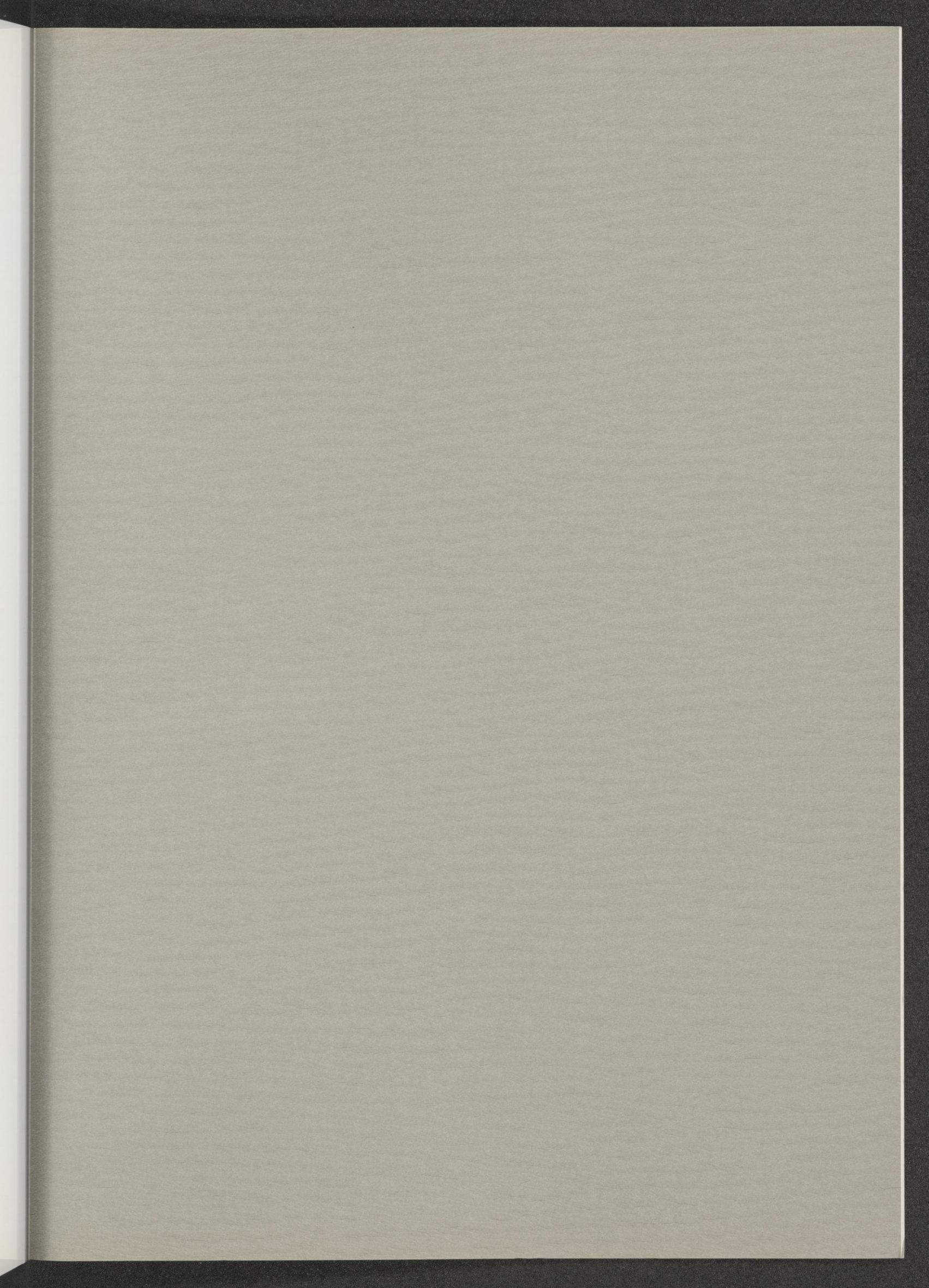
フランク・ロイド・ライトが
発掘した知られざる名品

展重広









生誕二〇〇年記念

広重展

1996

This exhibition has been organized by the Elvehjem Museum of Art,
University of Wisconsin-Madison
Madison, Wisconsin, U.S.A.

いあいさつ

この広重展は、生誕二〇〇年を記念し、これまでわが国では全く知られていなかったアメリカ・ウイスコンシン大学マディソン校エルヴィエム美術館が秘蔵するエドワード・ヴァン・ヴレック・コレクションの中から、特に厳選した二五〇余点の作品を展覧するものです。

同美術館のコレクションは、帝国ホテルの設計者としても有名なフランク・ロイド・ライトが蒐集した作品が基礎になっており、広重作品だけでも三、〇〇〇点に近い名品が収蔵されており、今回初めて日本で紹介、一般公開されるものです。

広重の名声は海外においてもきわめて高く、ゴッホ、モネなどフランス印象派の画家たちをはじめとする欧米のアーチストの心を強烈に捉えました。特に、アメリカでの広重評価は、明治の初めから熱烈な蒐集の対象になっております。画業四〇年にわたる広重の作品は、古きよき日本の自然や風俗の美しい結晶であり、今なお人々の情感に深く訴え続けています。

今回の帰国展は、広重の多彩な才能を紹介するため、風景画はもとより、多面的、かつユニークな張交絵、戯画、花鳥画、団扇絵など、ふだん見ることの稀な作品をも多数まじえて、幅広い広重の世界を展示するものです。

なお、今回はアリゾナ州フェニックスにあるフランク・ロイド・ライト財団から、ライトが日本から持ち帰った新発見の広重の「江戸名所張交図会」の版本も特別出品されます。本展開催にあたって、ご協力下さった関係各位に深く感謝申し上げます。

主 催 者

Foreword

The University of Wisconsin in Madison established the Elvehjem Museum of Art in 1970 to collect, preserve, interpret, and exhibit works of art and to present related educational programs in support of the teaching, research, and public service missions of the university. The Elvehjem's goal is to share works of art with a broad public in order to enrich individual human experience through knowledge of art and understanding of diverse cultures, past and present. The museum serves as an active educational and cultural center for the campus and surrounding communities and is named for the late Conrad A. Elvehjem, president of the University from 1958-1962.

Over 16,000 works of art ranging from 2300B.C. to the present comprise the museum's collection. These holdings include European and American paintings, sculpture, drawings, prints, photographs, decorative art objects, an extensive collection of the arts of Asia, and of African and Native American art. In addition to presenting works from the permanent collection, the Elvehjem organizes and presents temporary exhibitions of exceptional art collections and artists from across the country and around the world.

Edward Burr Van Vleck, who collected the prints in this catalog, and his son John Hasbrouck Van Vleck who generously bequeathed them to the museum were both pioneers of science with a deep appreciation of the arts and interest in Japanese culture. They often invited scholars and students to use the collection. The prints continue to be studied by scholars of Japanese art and university classes. Popular exhibitions such as this one also satisfy the broader public's interest in these jewels of printmaking.

It is a special privilege to provide Japanese audiences with a glimpse into this collection, bringing Hiroshige's beautiful works of art back to their place of origin in a full circle.

Russell Panczenko

Director

Elvehjem Museum of Art

University of Wisconsin-Madison

いあいさつ

一九七〇年、ウイスコンシン大学（米国ウイスコンシン州マディソン所在）はエルヴィエム美術館を創設いたしました。設立趣旨は、美術作品の蒐集、保存、研究、展示を行い、さらに当大学の教育、調査、及び公的サービスという使命を達成するための教育的プログラムに寄与することにあります。美術館の最終的な目標は、過去から現在までの芸術知識と異文化への理解を通じて、各人の人間的経験を豊かにすることといえましょう。美術館は大学内外、大学を取り囲む地域社会において教育・文化センターとして積極的な役割をもつものであり、一九五八年から六二年まで学長を務めた故コンラッド・A・エルヴィエムの名を冠しています。

美術館のコレクションは、紀元前三三〇〇年から今日までの範囲の一六、〇〇〇点を越える美術作品から構成されており、収蔵品はヨーロッパおよびアメリカの絵画、彫刻、素描、版画、写真、美的価値の高い装身具、さらにはアジア美術、アフリカ美術、アメリカ先住民美術まで、広範な分野にわたります。当館はこれらの所蔵品を展示公開するほか、国内および全世界を対象として時宜に即した各種美術コレクションおよび作家の特別展を企画し、開催しております。

本図録に掲載された版画を蒐集したエドワード・バー・ヴァン・ヴレック、そしてその蒐集品を惜しげなく当館に寄贈したご子息ジョン・ハスブローク・ヴァン・ヴレックは、ともに美術に対して深い知識をもち、日本文化に関心をいだいた学術上の先駆者でありました。二人ともしばしば研究者や学生を招いてはコレクションを見せました。それらの浮世絵版画は現在も、日本美術の研究者や大学の在校生によって研究され続けています。今回のような一般公開展もまた、版画制作の珠玉の作品群への幅広い公衆の関心に応えようとするものです。

広重の美しい美術作品群がめぐりめぐってその生誕の地に里帰りし、日本の皆様の鑑賞に供せられる機会を得たことは、まことに喜ばしい限りであります。

ウイスコンシン大学マディソン校

エルヴィエム美術館

館長 ラッセル・パンチエンコ

Frank Lloyd Wright and Hiroshige

The print is more autobiographical than you may imagine. If Japanese prints were to be deducted from my education I don't know what direction the whole might have taken. The gospel or elimination preached by the print came home to me in architecture as it came home to the French painters who developed "Cubisme" and "Futurisme." Intrinsically it lies at the bottom of all this so-called "modernisme." Strangely unnoticed, uncredited. (FLLW, *An Autobiography*)

Frank Lloyd Wright's fascination with Japanese prints began early in his career and maintained its hold throughout his long creative life. In his autobiography, he writes it was in pursuit of the print that he made his first trip to Japan in 1905. As evidence for this, he purchased among other objects, a large collection of Hiroshige prints that he exhibited at the Art Institute of Chicago following year. This was not only the first exhibition of Japanese prints at the Art Institute, it was the first retrospective of Hiroshige's work anywhere.

As a collector and future dealer, Wright was very active over the next two decades. In 1908, in collaboration with Frederick Gookin, the distinguished print connoisseur, he mounted an even larger exhibition of prints drawn from his own and other important Chicago collections. In 1913, Wright returned to Japan, in all likelihood to claim the commission for the new Imperial Hotel, but also to procure more prints. During this visit the architect purchased thousands of prints for himself and the Boston collector, William Spaulding, a man who shared Wright's passion.

[Spaulding would eventually donate his collection, one of the world's finest, to the Boston Museum of Fine Arts] . It was also during this 1913 sojourn that Wright purchased the set of wood blocks for Hiroshige's *Edo Meisho Harimaze Zue* included in this exhibition.

Wright's fascination with and acquisition of Japanese prints lasted until his death in 1959. Perhaps he described this passion best in the catalog for a 1917 exhibition when he wrote: "But still the precious original is all too sacred to the few who, chosen by it, are enslaved by it ; because it is no secret that the prints choose whom they love and there is then no salvation but surrender."

Bruce Brooks Pfeiffer

Director

The Frank Lloyd Wright Foundation, Archives

フランク・ロイド・ライトと広重

版画はあなた方が想像しているよりもはるかに自伝的な存在だ。かりに日本の浮世絵版画が私の教育から差し引かれるべきものだったとしたら、私の教育の総体はどのような方向に導かれたかわからない。版画によって説かれた消去法という福音は、「キュービズム（立体派）」や「フューチャリズム（未来派）」を発展させたフランスの画家たちにとってそうであったように、建築学という分野での私にはつきりと理解された。本来的にいうなら、この考えはいわゆるすべての「モダニズム（近代主義）」の底辺に横たわっている。不思議に気づかれていず、信じられていないことだが。

（ライト『自伝』）

フランク・ロイド・ライトの浮世絵版画への傾倒はその生涯のごく早い時期に始まり、以後、長い創造的な人生の全期間を通じて保たれ続けた。彼はその自伝の中で、一九〇五年の日本への最初の旅行が浮世絵版画を求めてのものであったことを書いている。その証拠に彼はこの時、広重版画の大コレクションを他の品々と共に購入しており、翌年、シカゴ美術館で展覧に供している。この展覧会は、同美術館における浮世絵版画の初の展覧会であったばかりでなく、他に先駆けての最初の広重の画業の回顧展であった。

蒐集家であると同時に後年の仲買人として、ライトは以後二〇年以上にわたり極めて意欲的だった。一九〇八年には、版画鑑定家として著名なフレデリック・グリーンと共同して、自らのコレクションおよび他のシカゴにあったコレクションを集め、前回は勝るとも劣らない大規模な展覧会を実現した。一九一三年、ライトは新帝国ホテルの建築委嘱を十中八九まで確信し、同時にさらなる浮世絵版画の取得をめざして、日本に帰って返した。この日本滞在中、建築家は自らのため、そして併せて、ライトの情熱に共鳴したボストンの蒐集家ウイリアム・スポールディングのために、数千枚の浮世絵版画を購入した。「スポールディングは最終的に、世界最高のものの一つとされるそのコレクションをボストン美術館に寄贈することになる」。今回の展覧会に出品される広重の「江戸名所張交図会」の版木のセットを買い入れたのも、この一九一三年からの滞在期間のことであった。

ライトの浮世絵版画取得への傾倒は、一九五九年の死去の時まで持続した。おそらく彼のこの情熱は一九一七年に開かれた展覧会のために執筆した次の文章に最もよく表れている。「だがしかし、真に貴重な初版（オリジナル）はすべて、その版画そのものによって選びぬかれ、その下に隷属させられた少数者にひたすら捧げられている。なぜならば、浮世絵版画というものは自らを愛するものを選び出し、その時そこには愛に対する屈服のほか救済の道はないということは公然の秘密なのであるから」。

フランク・ロイド・ライト財団・記念館

館長 ブルース・ブルックス・ファイファー

会期・会場

一九九六年四月二十九日(月)～五月十二日(日)

東京・日本橋三越本店七階ギャラリー

主催Ⅱ日本浮世絵協会

後援Ⅱアメリカ大使館、エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団

日本風俗史学会、(財)アダチ伝統木版画技術保存財団

協力Ⅱ日本航空、ヤマト運輸(株)

企画協力Ⅱブニー社

一九九六年七月二十六日(金)～八月十八日(日)

沖縄・浦添市美術館

主催Ⅱ浦添市美術館、日本浮世絵協会、沖縄テレビ放送

共催Ⅱ琉球新報社、週刊レキオ社

後援Ⅱアメリカ大使館、エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団

日本風俗史学会、(財)アダチ伝統木版画技術保存財団

沖縄県教育委員会、浦添市、浦添市教育委員会

協力Ⅱ日本航空、ヤマト運輸(株)

企画協力Ⅱブニー社

一九九六年九月十九日(木)～九月二十五日(水)

静岡・静岡伊勢丹

主催Ⅱ日本浮世絵協会

後援Ⅱアメリカ大使館、エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団

日本風俗史学会、(財)アダチ伝統木版画技術保存財団、東海道広重美術館

静岡県文化協会、静岡市、静岡市教育委員会、(財)静岡市文化振興財団

協力Ⅱ日本航空、ヤマト運輸(株)

企画協力Ⅱブニー社

一九九六年十月二日(水)～十月七日(月)

愛知・名古屋三越栄本店

主催Ⅱ日本浮世絵協会

後援Ⅱアメリカ大使館、エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団

日本風俗史学会、(財)アダチ伝統木版画技術保存財団

協力Ⅱ日本航空、ヤマト運輸(株)

企画協力Ⅱブニー社

一九九六年十月十六日(水)～十月二十二日(火)

新潟・新潟伊勢丹

主催Ⅱ日本浮世絵協会、新潟日報社

後援Ⅱアメリカ大使館、エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団

日本風俗史学会、(財)アダチ伝統木版画技術保存財団

協力Ⅱ日本航空、ヤマト運輸(株)

企画協力Ⅱブニー社

一九九六年十月二十七日(日)～十二月八日(日)

山梨・櫛形町立春仙美術館

主催Ⅱ櫛形町立春仙美術館、日本浮世絵協会、山梨日日新聞社、山梨放送

後援Ⅱアメリカ大使館、エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団

日本風俗史学会、(財)アダチ伝統木版画技術保存財団、NHK甲府放送局

協力Ⅱ日本航空、日本通運(株)

企画協力Ⅱブニー社

会場の都合により、一部作品の展示替えがあります。

図

版

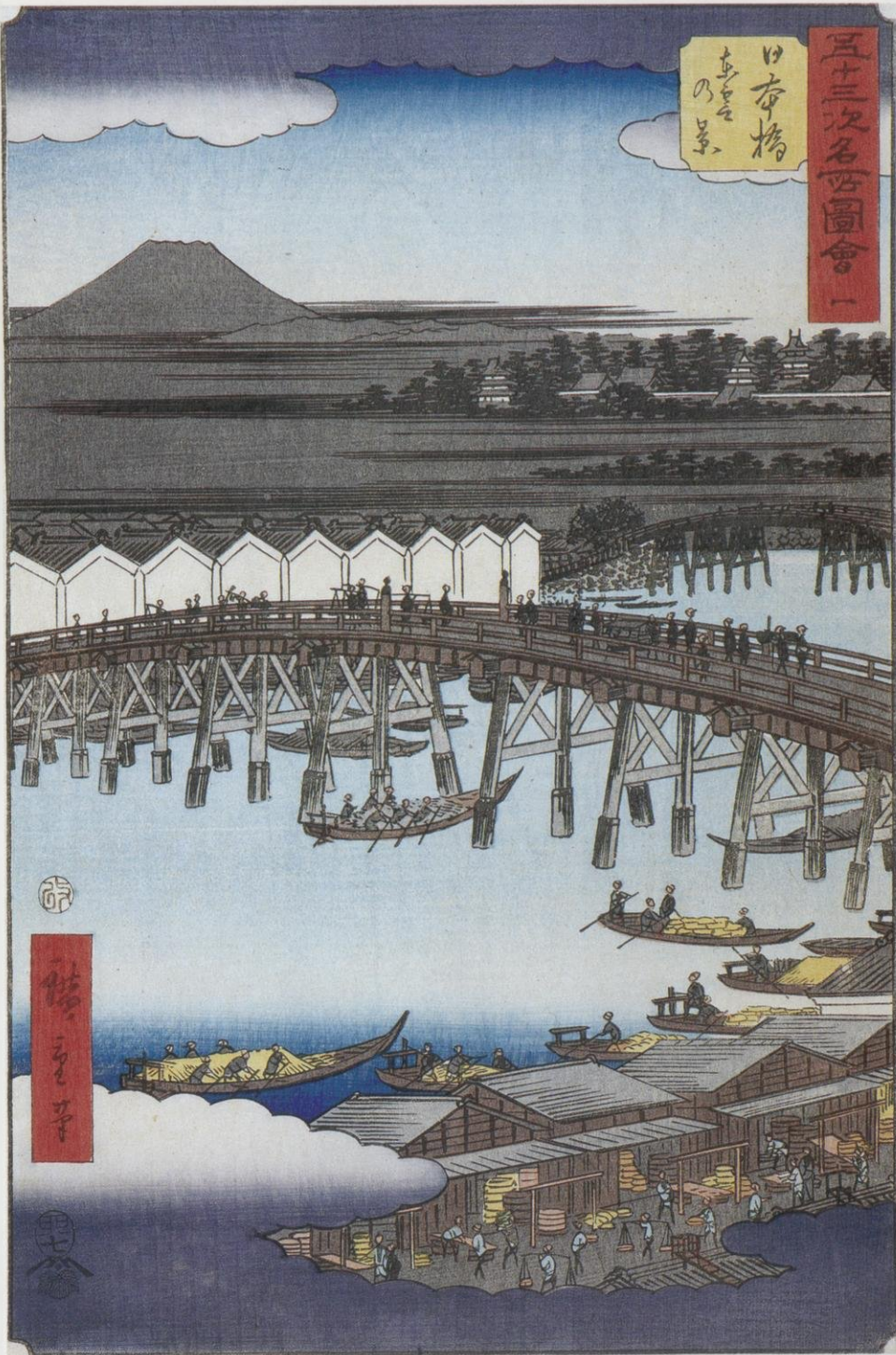


288 歌川広重 (三代豊国画)

寛政九年—安政五年 (1797—1858)

辞世の歌は「東路へ筆をのこして旅のそら 西
のみ国の名ところを見舞」

東海道五十三次



広重の「東海道五十三次」といえば誰もが知る代表作だが、広重には二十数種の「五十三次」があつて、そのそれぞれが違った趣向の作品になつていて、似た絵はない。ここでは有名な保永堂版のほか、隸書（丸清版）、行書（江崎屋版）、堅絵（葛吉版）、狂歌入り（喜鶴堂版）、人物（村市版）の六種の東海道シリーズから、同じ宿場十か所を描いた作品を取り上げてみた。

作品注解 染矢清一郎



2



3

○日本橋

日本橋は東海道の出発点だが、江戸からの五街道（東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道）の起点はすべてここ。江戸にとっては水陸交通の要であり、川岸には蔵が並んで海上經由の各地の物資を受け入れ、橋近くの魚河岸では朝早くから魚屋の声がやかましい。

1 五十三次名所図会（竪絵東海道）・日本橋 東雲の景
大判

手前下に見えるのが魚河岸。

2 東海道五拾三次之内（保永堂版東海道）・日本橋 朝之景 大判

橋の右側に見えるのが高札場。右の犬の前方が罪人の晒場だった。

3 五十三次（人物東海道）・日本橋 中判



4



5



6

4 東海道五十次 (隸書東海道) ・ 日本橋 大判

5 東海道五十次之内 (行書東海道) ・ 日本橋 曙旅立の

図 間判

青く摺られた部分は石の意味。

6 東海道五拾三次 (狂歌入り東海道) ・ 日本橋 中判

「日本橋ただ一すじに都まで 遠くて近きはるがすみかな
河のや幸久」

挟箱と毛槍を先頭に大名行列が進む。

7 東海道五十次 (隸書東海道) ・ 程ヶ谷 大判

帷子川にかかる帷子橋。

8 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・ 大磯 虎ヶ雨

虎ヶ雨とは五月二十八日に降る雨。この日は曾我の仇討
が成った日。虎御前が十郎祐成を偲んでの涙雨というわ
け。



7



8



9



10

○大磯

なんの変哲もない宿場が大磯。見るべきものといっても
 虎御前と西行法師の旧跡ぐらい。虎御前は『曾我物語』
 に出てくる大磯の遊女で、曾我十郎祐成と深い契りを結
 び、祐成が目出度く敵を討って死ぬと、尼になって菩提
 を弔ったという。歌舞伎の人気番組曾我物の女主人公だ
 から、当時は誰もが知っていた。



11

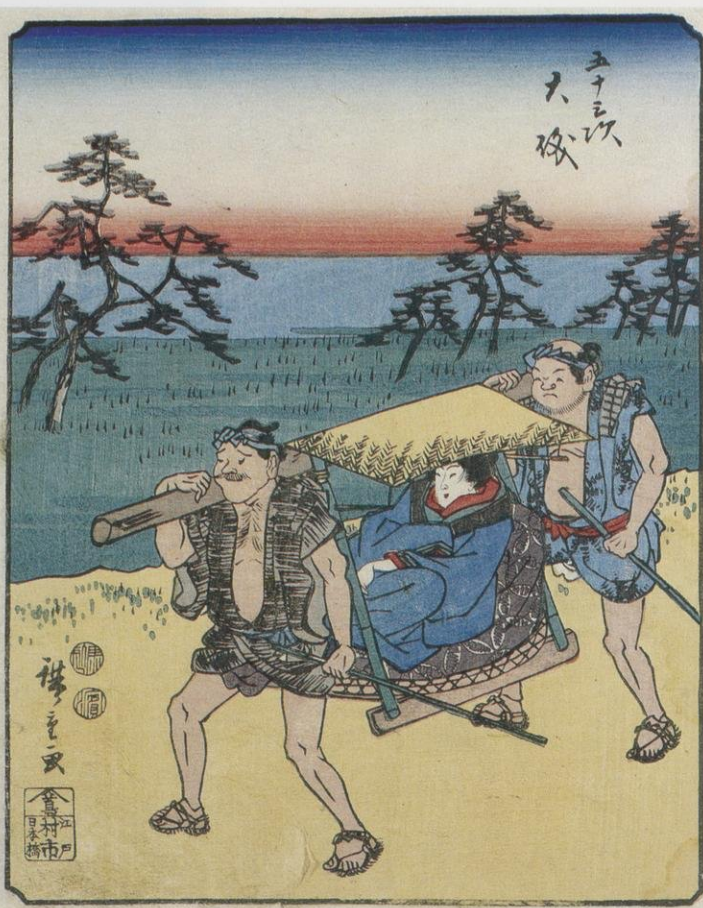


12

- 9 東海道五十三次（隸書東海道）・大磯 大判
 右側の建物は鳴立沢の西行庵。西行が「心なき身にもあはれは知られけり 鳴立つ沢の秋の夕暮」と詠んだ場所に元禄時代に建てられた庵室。
- 10 東海道五十三次之内（行書東海道）・大磯 間判
 弓・鉄砲を持ち江戸へ向かう武士の一行。
- 11 東海道五十三次（狂歌入り東海道）・大磯 中判
 「うかれ女の真心よりぞうそおける とらといふ名はいしに残れり 富有亭満成」
- 12 五十三次名所図会（堅絵東海道）・大磯 鳴立沢西行庵 大判
 庵室のほか山の中腹に多数の記念碑。
- 13 五十三次（人物東海道）・右…大磯 左…小田原 大判 二丁がけ
 「小田原」は酒匂川の川渡り。水が涸れる冬は橋がかかる。



13



15



14

○箱根

「箱根の山は天下の険」とは後世の歌だが、事情は当時も同じ。箱根八里は東海道随一の難所で、小田原からの上りが四里、頂上の湖のほとりに関所があつて厳重な取調べがあり、さらに三島までの下りが四里ある。関所がどの絵にも描かれていないのは、浮世絵出版物は検閲下にある、公儀にかかわる建物や人をはばかったため。

14 五十三次名所図会（堅絵東海道）・はこね 山中夜行の図 大判

15 東海道五拾三次之内（保永堂版東海道）・箱根 湖水図 大判

湖は芦ノ湖、周囲の岩山は誇張。

16 東海道五十三次（隸書東海道）・箱根 夜中松明登り 大判

中央の荷物に版元丸屋清次郎の商標。



15



16



17



18



19



18

17 東海道五十三次之内 (行書東海道) ・箱根 間判
伊豆・相模の国境を示す道標が見え、関所を過ぎての三
島への下り。

18 東海道五拾三次 (狂歌入り東海道) ・箱根 中判
「ことわざに雲ともいへる人なれや かかる山路を夜るも
越ゆく 富黄園満春」

19 五十三次 (人物東海道) ・右…箱根 左…三嶋 大判二
丁がけ
「箱根」は湯治場から白糸ノ滝を眺める。「三嶋」は三島
大社の鳥居と旅籠街。



20

20 五十三次名所図会（竪絵東海道）・沼津 足柄山 不二

雪晴 大判

足柄山は愛鷹山の別名。
あしたかやま

21 五十三次（人物東海道）・右：沼津 左：原 大判二丁

がけ

「沼津」で母子が干しているのは鯉節。
かつおおし



21





22



23



24

○原

このあたりでの一番の印象は、富士山が大きく身近にせまること。ほかに適当な画題もないから、広重はもっぱら富士に焦点を合わせて画面を構成せざるを得ない。海岸沿いの千本松原も富士と一緒に描かれてはみじめ。



25



26

- 22 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・原 朝之富士
大判
残念ながら富士山頂の杵の上の部分が切断されている。
- 23 東海道五拾三次 (狂歌入り東海道) ・原 中判
「けふいくか足よ腰よとあゆみ来て 見あぐるはらの不二
の大きさ 数寿垣」
- 24 東海道五十三次 (隸書東海道) ・原 大判
- 25 東海道五十三次之内 (行書東海道) ・原 柏原立場ふじ
の沼 間判
立場というのは街道の宿場の間で人足や駕籠かきが杖を
立てて休む場所。
- 26 五十三次名所図会 (堅絵東海道) ・原 あし鷹山 不二
眺望 大判
富士の手の凸凹した山が愛鷹山 (足柄山)。



27

27 五十三次名所図会（豎絵東海道）・吉原 不二の沼 浮
鳴が原 大判

富士沼は淵れ、浮島で原が広がる。

28 東海道五拾三次之内（保永堂版東海道）・蒲原 夜之雪
大判

この初摺りでは空の黒いぼかしが上部にあるが、文字が
読みにくいため後摺りでは文字の下に移る。

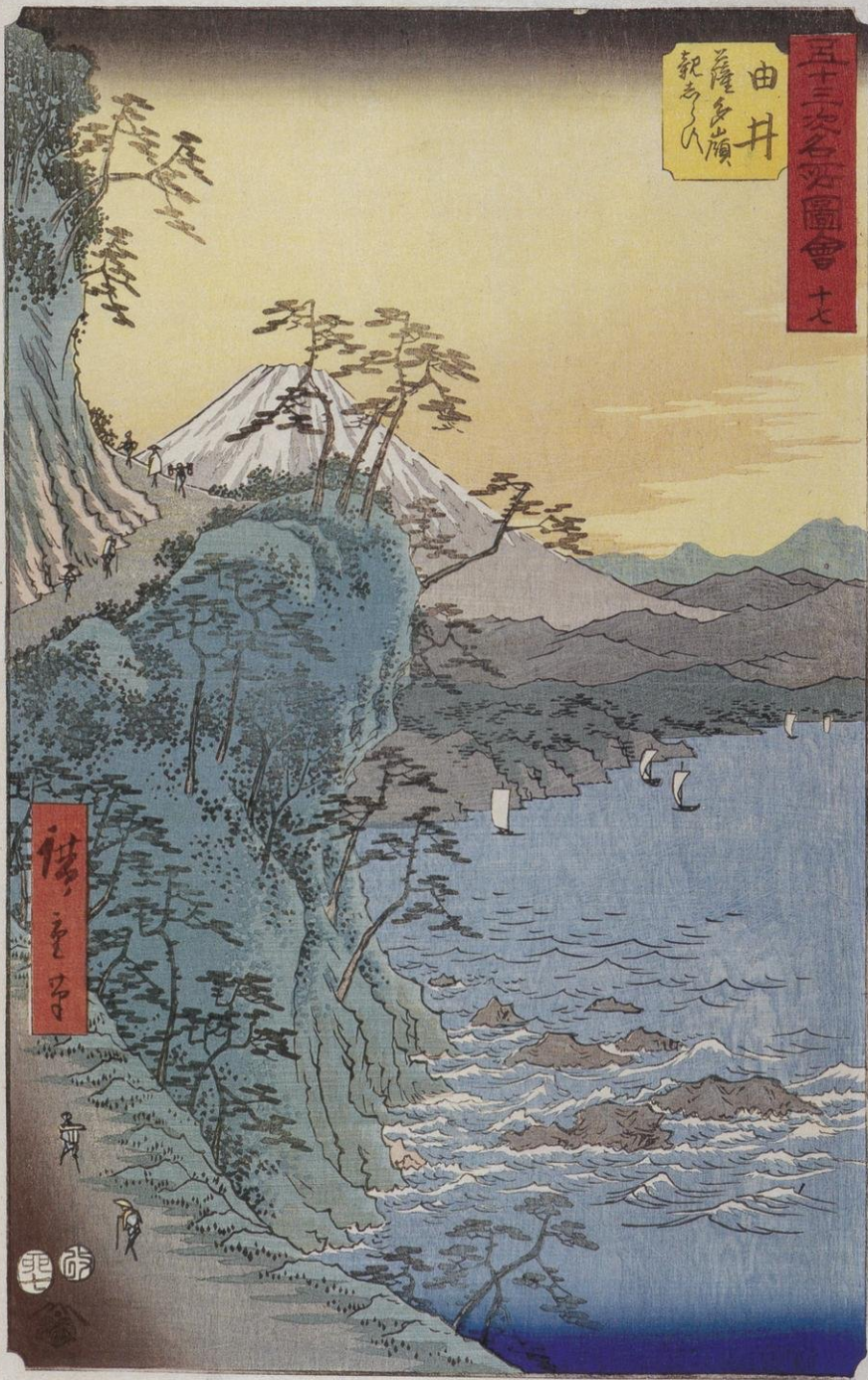




29



30



31

○由井

今は由井といえは由井正雪の名が思い出されるが江戸時代はご法度。東海道に山と海が迫ってくる場所だから、広重は主として薩埵峠を画題に取り上げる。險阻といえなくもない程度の峠であるから、どの絵も明るく名所絵に近くなる。

29 東海道五拾三次之内（保永堂版東海道）・由井 薩埵嶺

大判

街道薩埵峠からの眺め。

30 東海道五十三次（隸書東海道）・由井 大判

峠の手前、倉沢の茶屋。

31 五十三次名所図会（豎絵東海道）・由井 薩多嶺 親し

らず 大判

親不知とは波が荒くて危険な海岸。



32



33



34

32 東海道五十三次之内 (行書東海道) ・ 由井 かつ渡りゆ

ひ川の図 間判

33 東海道五拾三次 (狂歌入り東海道) ・ 由井 中判

「ふみ込は草臥足も直るかや 三里たけなる由井川の水
結城亭雛機」。(三里は膝の下にある灸のツボ)

34 五十三次 (人物東海道) ・ 右…由井 左…興津 大判二
丁がけ

「由井」は雨乞いの倉沢踊り。「興津」は浜の塩づくり。

35 東海道五十三次之内 (行書東海道) ・ 鞠子 間判

茶店で名物とろろ汁を食べる弥次喜多道中の二人。芭蕉
の句「梅若菜丸子の宿のとろろ汁」に因み梅も描いてあ
る。

36 東海道五十三次 (隸書東海道) ・ 鞠子 大判





37



38



39

○浜松

浜松は東海道のほぼ中間点、城下町だがその規模は小さい。広重は主として海岸の名所、松を取り上げるが、これは当時の酒宴で「浜松の音はざざんざ」と歌うのが流行していたかららしい。

37 五十三次（人物東海道）・右…見附 左…浜松 大判二丁がけ

「見附」は天龍川の舟渡し。「浜松」は海岸漂着物のたきぎ集め。

38 東海道五拾三次（狂歌入り東海道）・浜松 中判

「春の日のあゆみもおそきあしたづのかすむすがたやちよの浜まつ 紀広持」。「あしたづ」は鶴の異名

浜松城と宿場町。

39 東海道五十三次之内（行書東海道）・浜松 ざざんざの松 間判

40 東海道五十三次（隸書東海道）・はま松 大判
何を悩むか宗匠姿。

41 東海道五拾三次之内（保永堂版東海道）・浜松 冬枯ノ

図 大判



40



41



42



43

- 42 五十三次名所図会（豎絵東海道）・浜松 名所ざんざの松 大判
足利義敏の故事。
- 43 五十三次名所図会（豎絵東海道）・藤川 山中の里旧名
宮路山 大判



44



45

44 五十三次（人物東海道）・右…鳴海 左…宮 大判二丁

がけ

「鳴海」は名産有松絞りの店。「宮」は渡し場。

45 東海道五拾三次之内（保永堂版東海道）・宮 熱田神事

大判

熱田神宮、六月二十一日の馬追い祭。

46 五十三次名所図会（豎絵東海道）・宮 熱田の駅七里の

渡口 大判

47 東海道五十三次之内（行書東海道）・宮 熱田浜之鳥居

問判

○宮

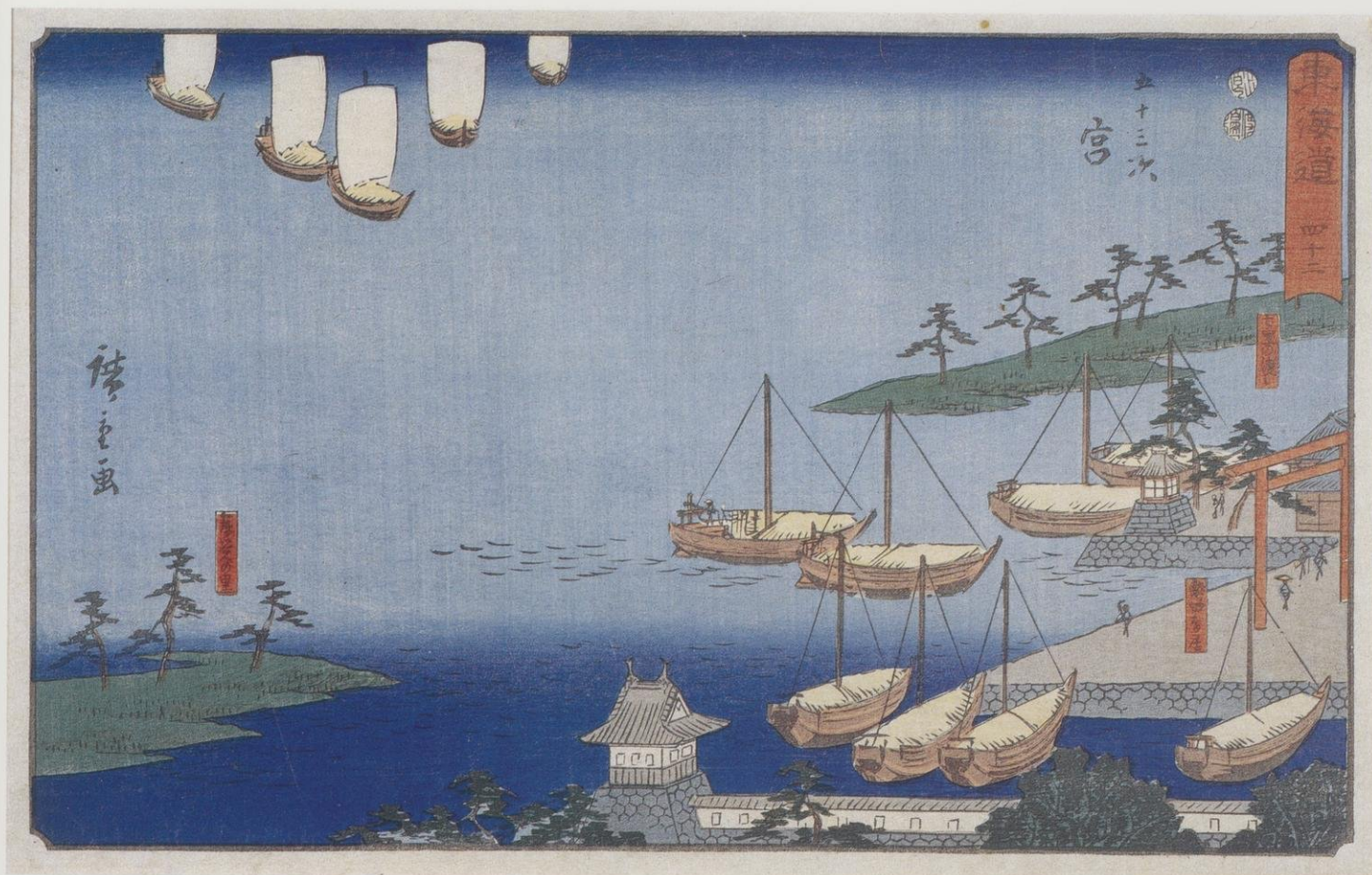
東海道は宮から桑名までは海の旅。この七里ノ渡しの乗船場が熱田神宮のすぐ前で、大きな鳥居が立っている。ふだんはのどかな船旅で、景色がよいから足の疲れ休めにはもってこいだったとか。



46



47



48



49

48 東海道五十三次 (隸書東海道) ・宮 大判

想像力を駆使して描いた俯瞰図。手前中央は灯台。

49 東海道五拾三次 (狂歌入り東海道) ・宮 中判

「わだつみを守る神のみやの船 なみちゆたかにこぎかへるみゆ 松の屋満俊」。「わだつみ」は渡津海、海のこと

50 五十三次 (人物東海道) ・右…桑名 左…四日市 大判
二丁がけ

「桑名」は七里ノ渡しの船着き場。鳥居の背後に桑名城の一部が見える。

51 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・四日市 三重
川 大判



50



51



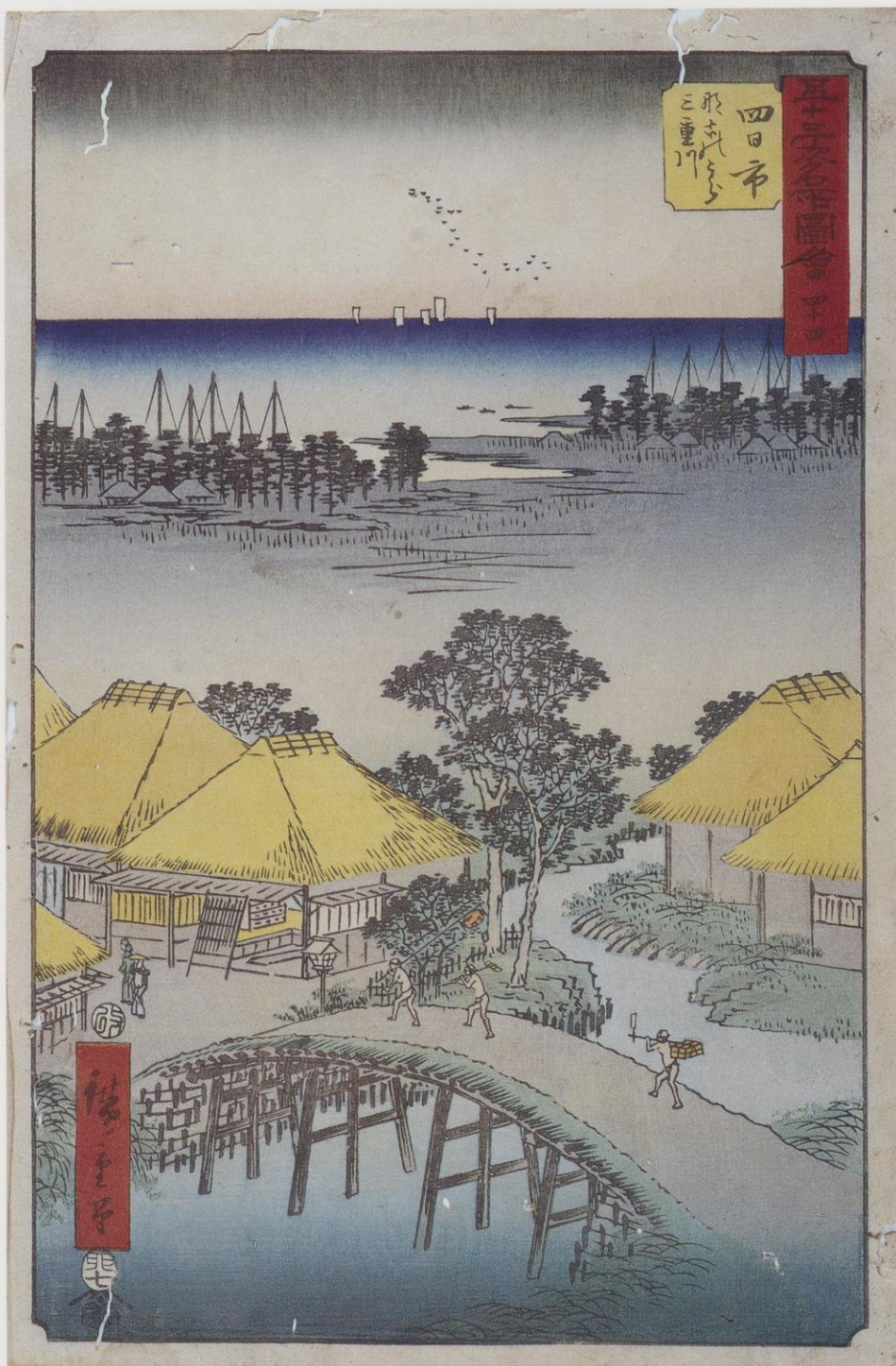
52



53



54



55

○四日市

長く見慣れた海と別れてここからは山に向かって行くことになる。江戸末期はお伊勢参りの最盛期だから、多くの旅行者が京へ向わずに南の伊勢神宮へ。ほかの画題には乏しい場所である。

52 東海道五拾三次（狂歌入り東海道）・四日市 中判

「梅が香に袖ふりあふて泊り村 つえつき坂をのぼる旅人 緑庵松俊」

53 東海道五十三次（隸書東海道）・四日市 大判

「日永村追分」で、追分とは道が二方にわかれる分岐点。

鳥居は伊勢神宮の二ノ鳥居。両側の茶店は饅頭が名物。

54 東海道五拾三次之内（行書東海道）・四日市 参宮道追

分之図 間判

55 五十三次名所図会（豎絵東海道）・四日市 なごの浦

三重川 大判



56



57



58

- 56 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・庄野 白雨
大判
白雨とは夏の明るい空の下での夕立。
- 57 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・亀山 雪晴
大判
- 58 五十三次名所図会 (豎絵東海道) ・亀山 風雨雷鳴 大判



59



60



61

○ 亀山

亀山は石川家六万石の城下町。よほど城の印象が強いのかほかに画題がないのか、広重は城を主題に画面をつくる。保永堂版「雪晴」は名だたる傑作だが、広重が東海道を旅したのは夏のこと。五十三次を統絵として描くにあたって適宜に雪景色に変えて変化をつけた結果がこれ。

59 東海道五十三次之内（行書東海道）・ 亀山 間判

街道筋の荷物の運搬はかつぐのが原則。起伏の多いところでも破損させないため。

60 東海道五拾三次（狂歌入り東海道）・ 亀山 中判

「さへぎりて長閑に見ゆる亀山の 松に羽をのす鶴の」

系 三巴亭静山

61 東海道五十三次（隸書東海道）・ 亀山 大判

62 五十三次（人物東海道）・ 右・ 亀山 左・ 関 大判二丁

がけ

63 東海道五十三次（隸書東海道）・ 関 大判

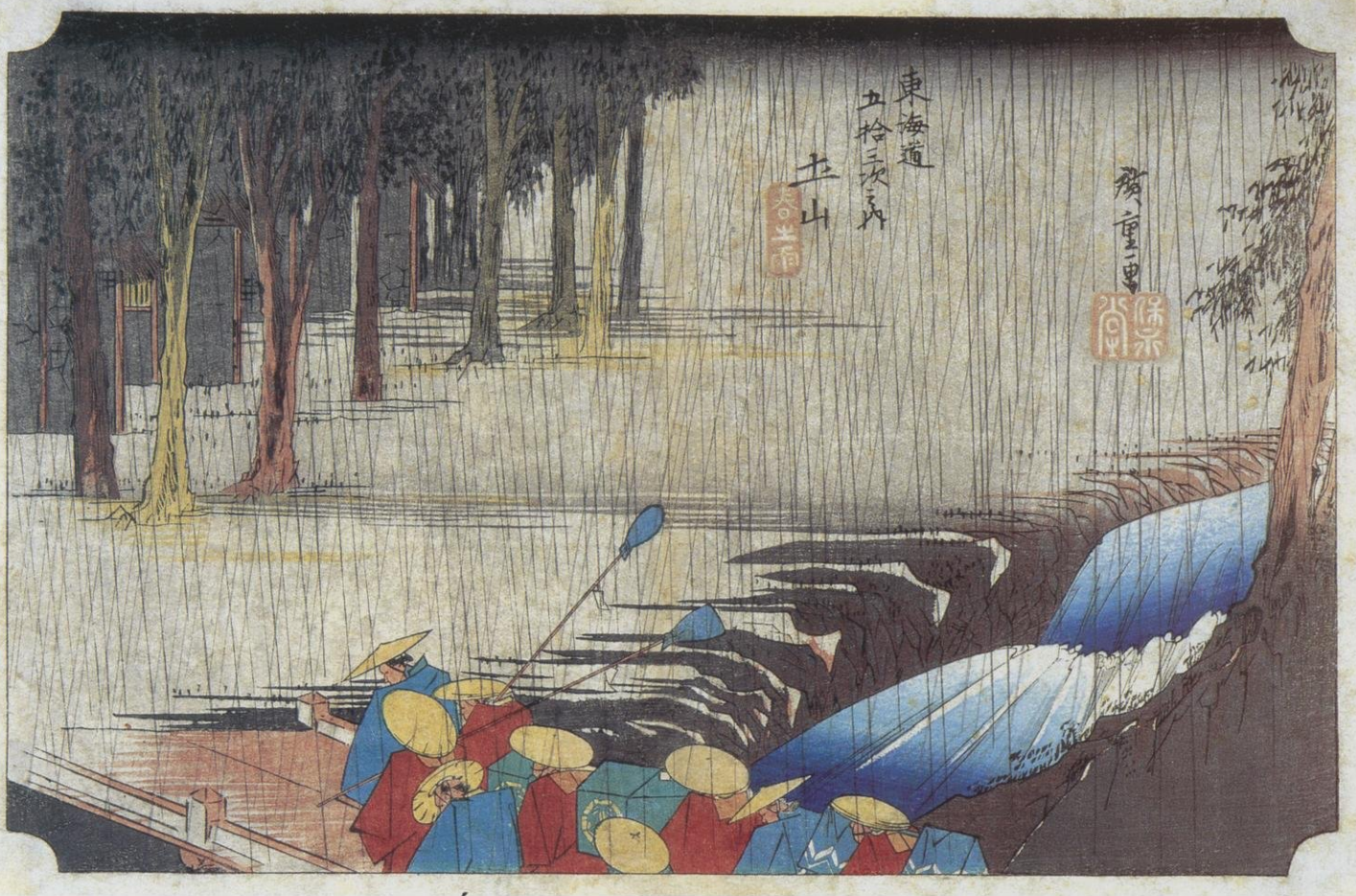
宿場の東入口。鳥居から下へ行く道は伊勢神宮へ。



62



63



64



65

64 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・ 土山 春之雨

大判

65 東海道五拾三次 (狂歌入り東海道) ・ 京 三条大橋ノ図

中判

「鳴神の音にきこえし大橋は 雲の上ふむこちこそすれ
鶴の屋松門」。鳴神とは雷のこと。

市街の背後に東山の山並み、その奥に比叡山。

66 東海道五拾三次之内 (保永堂版東海道) ・ 京師 三条大

橋 大判

67 東海道五十三次之内 (行書東海道) ・ 京 三条大橋之図

間判

頭上に黒木 (木炭) を頭上に乗せた大原女、茶筌売り
(空也寺の僧) など京独特の風俗。



66



67



68

68 五十三次名所図会（堅絵東海道）・京 三條大はし 大

判

雲状のものは大和絵で使われる「すやり霞」。

69 東海道五十三次（隸書東海道）・京 大判

衣被をかぶるのは公家の婦女。

70 五十三次（人物東海道）・右…京三條橋 左…四条涼

大判二丁がけ

「四条涼」の行灯に版元村田屋市五郎を意味する「むらし」の文字がある。

○京

東海道の旅もようやく大尾（終了）。ふつうは十五日、駕籠を乗り継いでも十日はかかったという。江戸で売る浮世絵だから広重はなるべく京の雰囲気を出そうと、江戸では見られぬ姿の人々を歩かせる。五十三次をいかに変化をつけて見せるか、それが広重の腕の見せどころ。



69



70

諸国名所

東海道シリーズで名をあげた広重は、名所絵（風景画）の広重として江戸市内をはじめとする各地の絵をきわめて大量に描き残す。交通事情が現在とまったく異なる当時、江戸近辺以外は何らかの資料に基づいて描くよりないのだが、広重の場合はそのためかえって理想の絵に近いものになっている。



71



72



73



74



75

○木曾海道六拾九次之内 大判 錦樹堂版
木曾海道とは中山（仙）道のこと。江戸と京を結ぶ街道のうち、東海道が海沿いの道であるのに対し、山の中を通る道だから中山道。なのに広重は「東海道五拾三次」にならって海がないのに「木曾海道」。

71 輕井沢
明治中期まではまったくの寒村。煙の背後は浅間山か。
72 上ヶ松
滝は木曾川にそそぐ小野ノ滝。
73 須原
74 高宮
75 守山
川は野洲川で琵琶湖にそそぐ。



76



77

○近江八景之内 大判 栄久堂版
76 唐崎夜雨
からさきのやう

「夜の雨に音をゆづりて夕風を よそに名立つるからさきのまつ」

唐崎の一ツ松に夜の雨が降る。
77 矢橋帰帆
やばせのきはん

「真帆引て矢橋にかへるふねはいま 打出の浜をあとの追かぜ」

矢橋に帆船が戻る。山は比叡山。



79

○近江八景 中判 有永堂版
 78 比良暮雪
 「雪くれて道の^{すべ}に^{おろし}るや比叡
 おろし 万葉園貞花」
 79 矢橋帰帆
 「さざ波や春風乗せる渡し
 船 新樹園貞月」



78

○近江八景 大判 魚栄版
 80 堅田落雁
 「峯あまたこへて越路にまづ
 ちかき かただになびき落
 つる雁がね」
 浮見堂に雁の群れがおり
 る。
 81 瀬田夕照
 「露時雨^{しぐれ}もり山遠くすぎ来つ
 つ 夕日のわたるせたの長
 はし」
 瀬田の唐橋の夕景



81



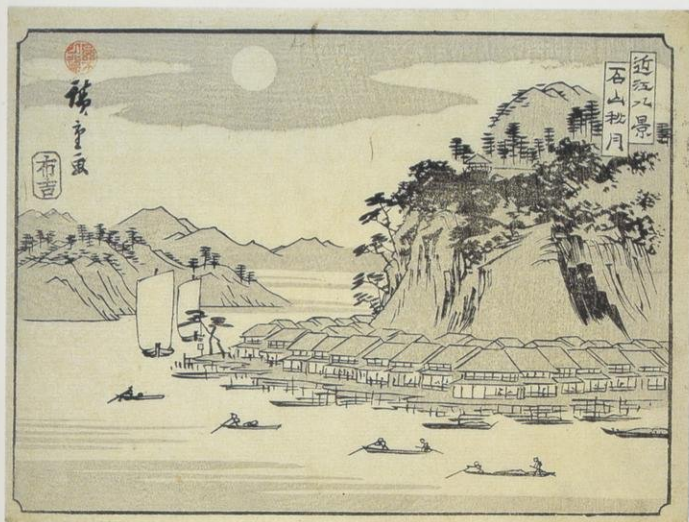
80



84



82



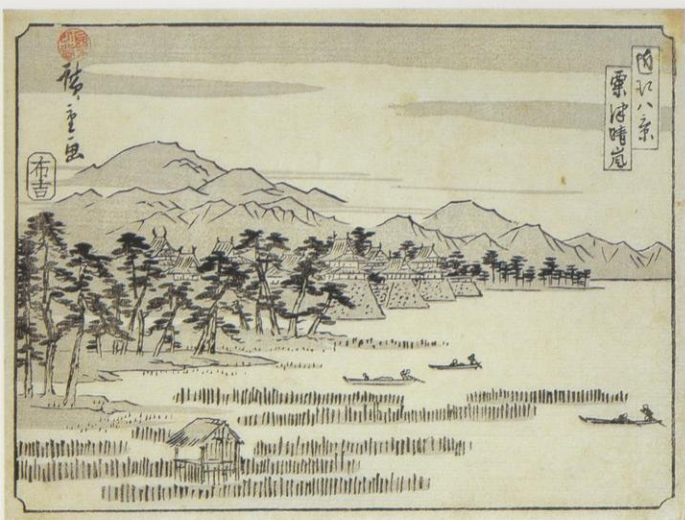
85



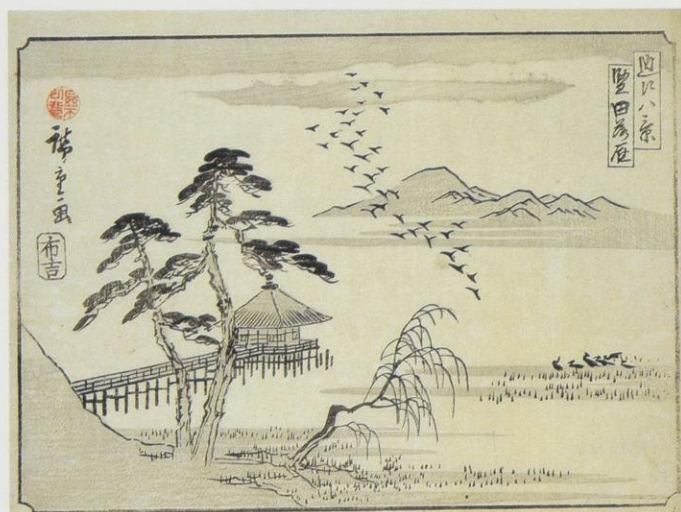
83

○近江八景

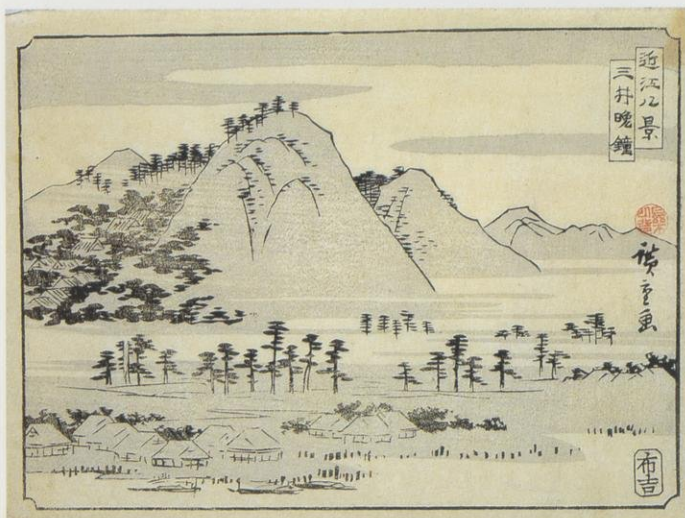
中国の画題「瀟湘八景」(洞庭湖内外の八か所の景勝)にならって近江琵琶湖から選ばれた八か所の景勝が近江八景。それぞれに決まりの和歌がつく。



88



86



89



87

- 近江八景 中判 墨二色摺
布吉版 薄墨と濃墨の二色
摺り。北斎の読本挿絵にも
よく使われた手法。
- 82 唐崎夜雨
 - 83 比良暮雪
 - 84 矢橋帰帆
 - 85 石山秋月
 - 86 堅田落雁
 - 87 瀬田夕照
 - 88 粟津晴嵐
 - 89 三井晚鐘



90



91



92



93

○京都名所之内 大判 栄川堂版

90 淀川

大型の船は伏見から大坂へ淀川を下る定期旅客船。近づく小舟はその客に食べ物売りつける「くらわんか舟」。

91 通天橋ノ紅楓

東福寺の境内で楓の名所。

○浪花名所図会 大判 栄川堂版

92 道とんぼりの図

大阪の道頓堀は芝居小屋が五座も並ぶ盛り場。

93 しん町九けん丁

新町は大坂の遊廓。江戸の吉原、京の島原とともに全国三か所の幕府公許の遊廓。図は花魁道中。



94



95



96

○本朝名所 大判 松原堂版

94 拙州布引之滝

生田川上流にある攝津の名勝（現神戸市）。

95 相州七里ヶ浜

鎌倉の海岸。沖に満潮時の江ノ島。

96 駿州清見ヶ関

清見ヶ関とは興津にあつたとされる古関。今の清水市
清見寺がその跡とされる。右側、山の中腹に見えるのが
清見寺、中央で海にのびるのが三保ノ松原。



97



98



99

- 山海見立相撲 大判 山田屋版
- 97 讃岐象頭山 さぬきぞうずさん
 金比羅さんの名で親しまれる金刀比羅宮をその中腹に鎮座させるのが象頭山。社殿を目に、左側の愛宕山を鼻に見立ててこの名がある。川は土器川。
- 98 相模大山 さまおやま
 大山は丹沢山系の霊山で滝は良弁ノ滝。江戸からの参詣客は頂上の本社参拝前にこの滝で水垢離をとる。
- 99 越中古国府湊 こしくみ
 古国府とは高岡のこと。湊は伏木浦。



100

○六十余州名所図会 大判 越平版

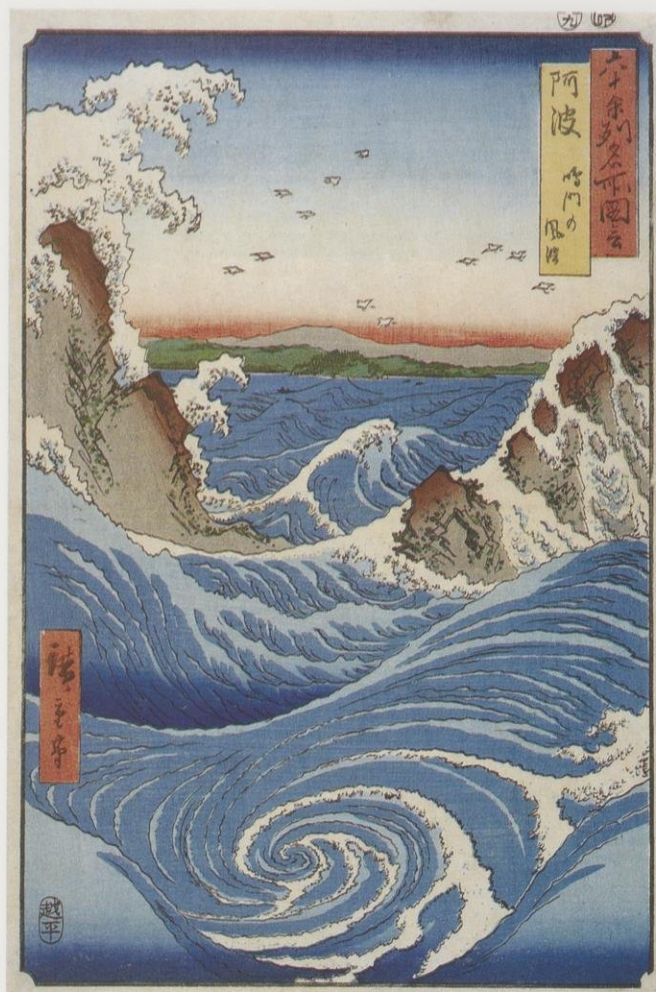
100 美作 山伏谷

101 美濃 養老ノ滝

102 阿波 鳴門の風波

103 紀伊 和歌之浦

鶴が飛ぶのはここで山部赤人が詠んだ「若の浦に潮満ち
来れば濁を無み 芦辺をさして鶴鳴き渡る」に因む。



102



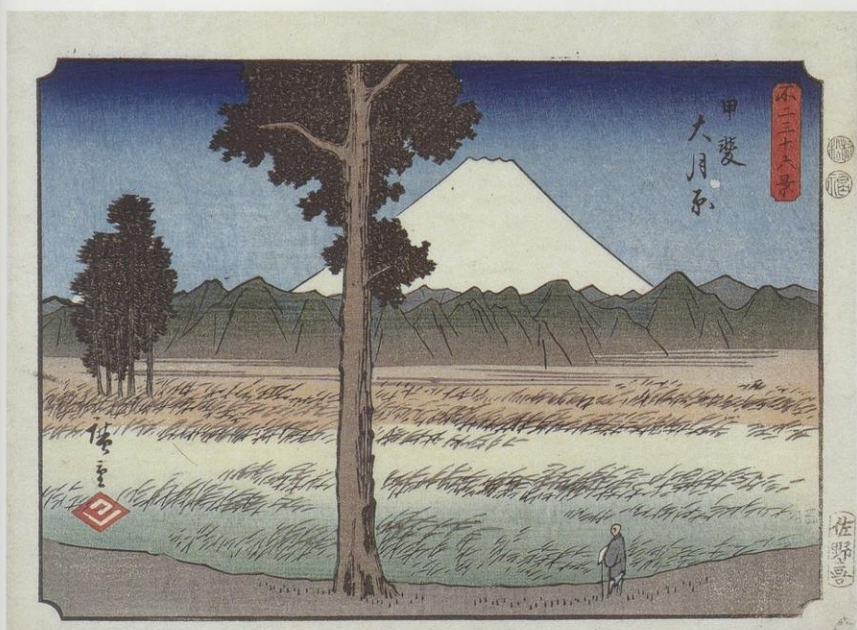
103



101



104



105



106



107

- 不二三十六景 中判 佐野喜版
- 104 武蔵野
- 105 甲斐大月原
- 106 相模大山来迎谷
- 富士三十六景 大判 蔦吉版
- 107 甲斐大月の原



109



108



111



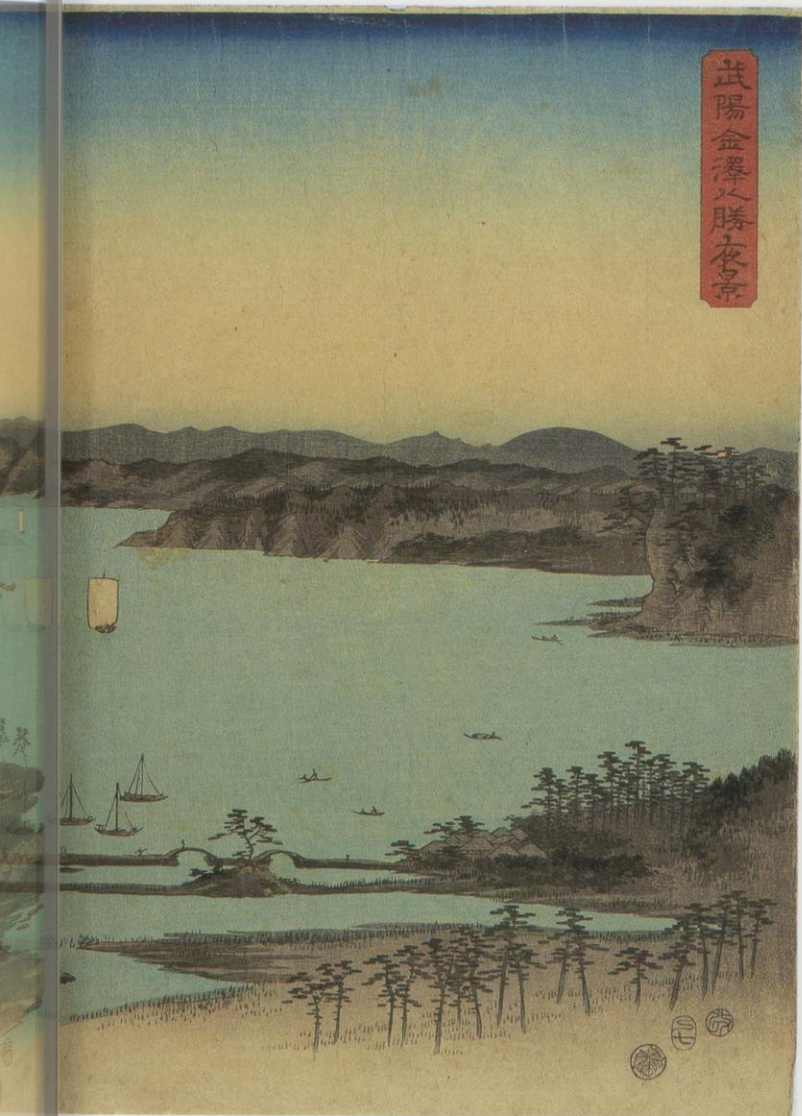
110

- 富士三十六景 大判 蔦吉版
- 108 房州保田ノ海岸
- 109 東都数寄屋河岸
- 110 伊豆の山中
- 111 武蔵越がや在

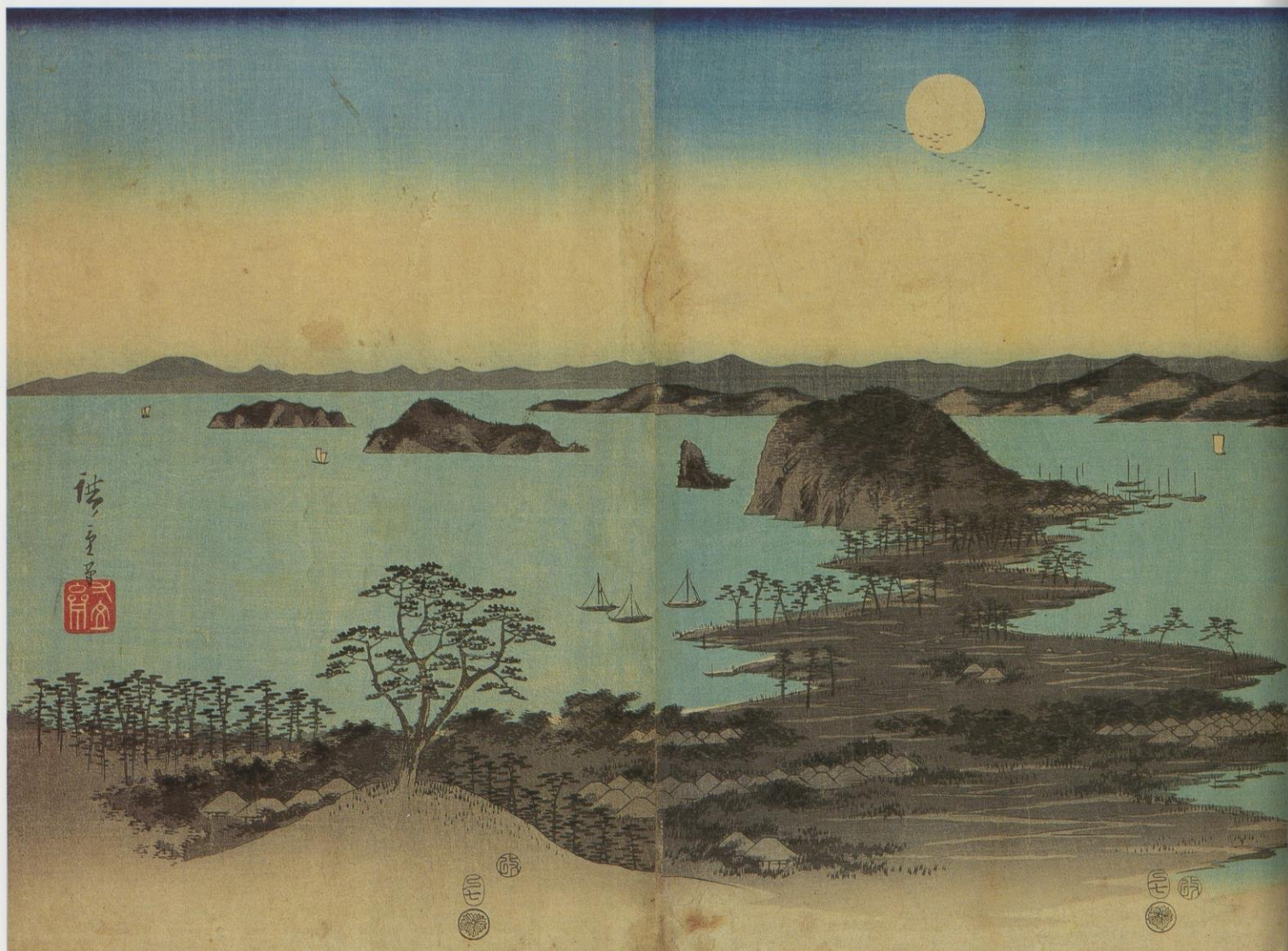


112 相州江の鳴弁才天開帳詣 本宮岩屋の図 大判三枚続
 住吉屋版
 縁日は己巳つちのへだから六十日ごとに開催。





113 武陽金沢八勝夜景 大判三枚続 葛吉版
 三浦半島の付け根にある金沢は鎌倉幕府以来の景勝地。
 ここでも金沢八景が選ばれ江戸の風流人に親しまれたが、
 現在は横浜八景島シーパラダイス。



113

江戸名所

江戸で売られるものだけに、江戸の名所絵では現実を大きく逸れるわけにいかない。想像力を発揮し、細かな工夫を凝らしていつて、はじめて絵になる。江戸の名所は、今はまったく様変わりしてしまい、広重の絵によって偲ぶしかなくなった。

114 四季江都名所・夏 両国之月 中短冊判 川正版

「橋のうへへ人かきわけてのぞきけり からくり花火あぐる両ごく 八陣亭」
小舟は西瓜売り。



114



115

○東都名所 中短冊判 松原堂版

115 霞が関夕景

坂を上ったところに辻番所がある。道の両側は大名屋敷。

116 浅草金龍山下東橋雨中望

東橋（吾妻橋）からの眺望。

117 洲崎海浜 汐干狩之図

中央に見える社殿が洲崎弁天。

118 新吉原衣紋阪秋月

道路脇の柳が吉原名物「見返り柳」。

119 東都名所・本郷御茶の水 中短冊判

神田川の上に水道橋がかかる。

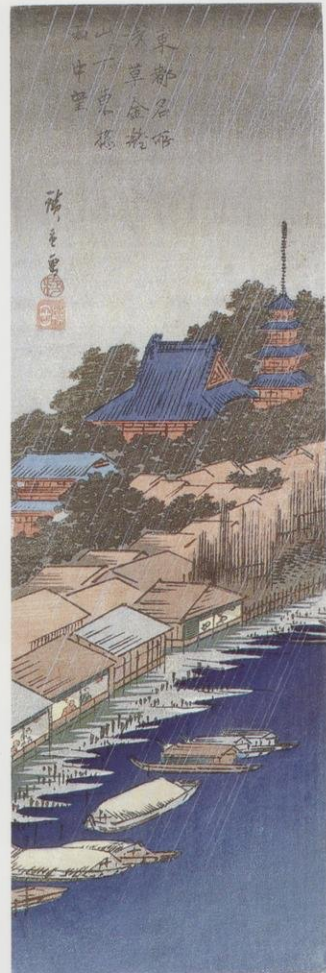
川正版



118



117



116



121



120

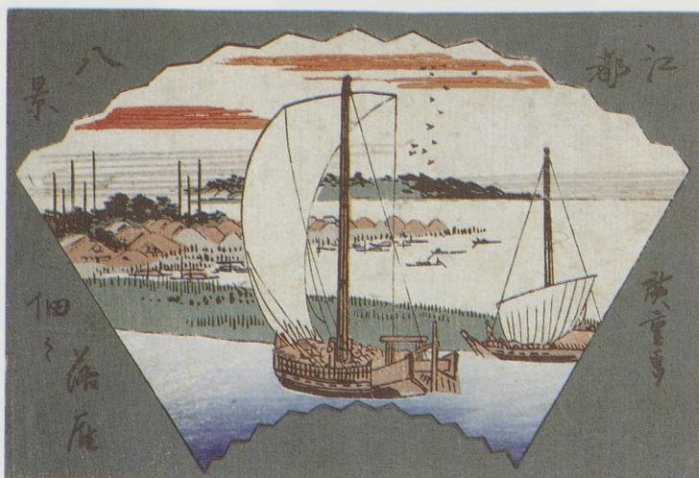


119

○江戸名所 中短冊判 若与版
120 隅田川
桜の横に見えるのは筑波山。
121 芝浦日の出
左端は潮の干満を知らせる水標。



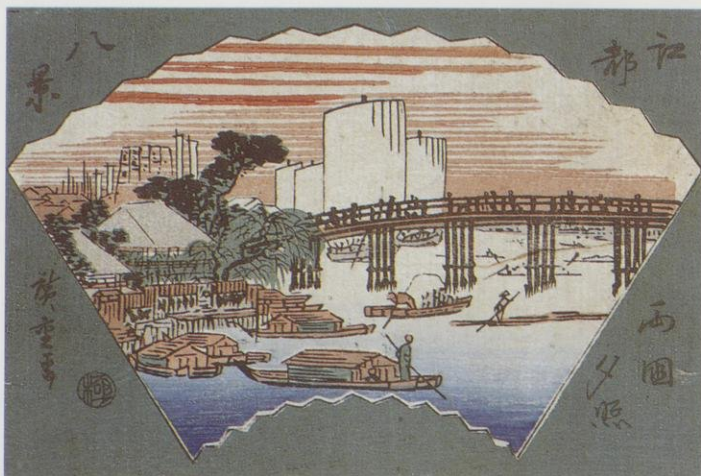
122



123

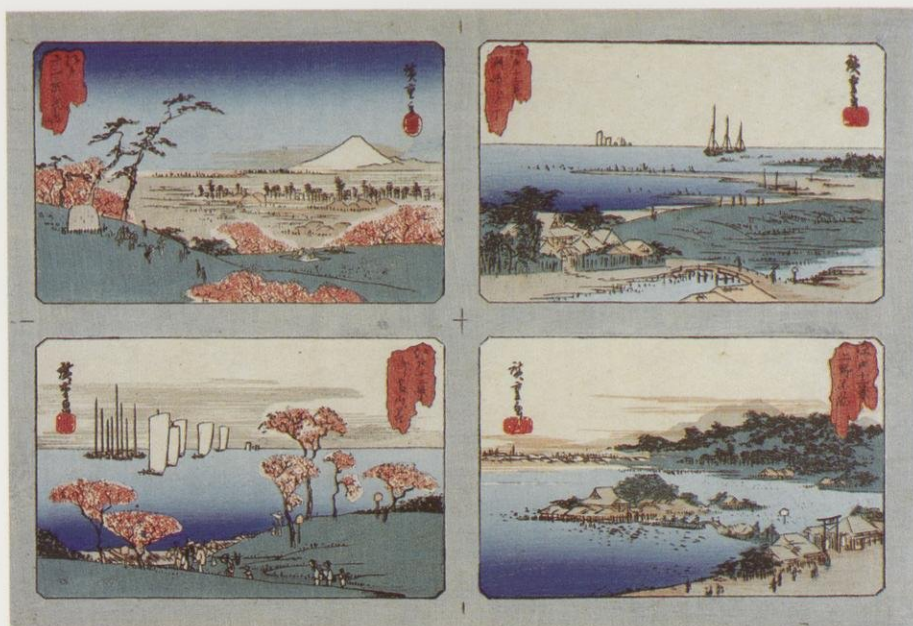


124



125

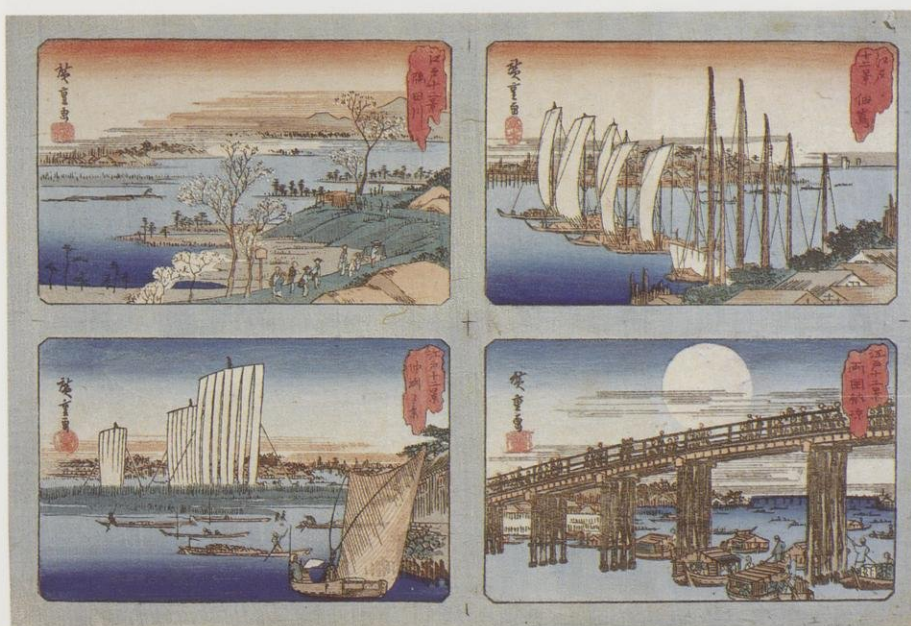
- 江都八景 大判四つ切 川正版
- 122 深川夜雨
 - 123 佃之落雁
 - 124 品川秋月
 - 125 両国夕照



126



127



128

- 江戸十二景 大判 泉市版
- 126 洲崎汐干・飛鳥山・上野不忍・御殿山ノ花
 - 127 吉原田甫・道灌山下・高輪・日本橋雪晴
 - 128 佃嶋・隅田川・両国納涼・仲洲之景



129



130



131

○東都名所（一幽齋書）

大判 川正版

129 佃嶋初郭公

130 御殿山之夕桜

品川の御殿山は桜の名所。

131 隅田川葉桜之景

隅田川東岸の向島は桜の名所。図は竹屋ノ渡し。

○東都八景 間判 藤彦版

扇面の地紙の形に描かれているが、実際に扇に使われるためのものではない。

132 浅艸夕照

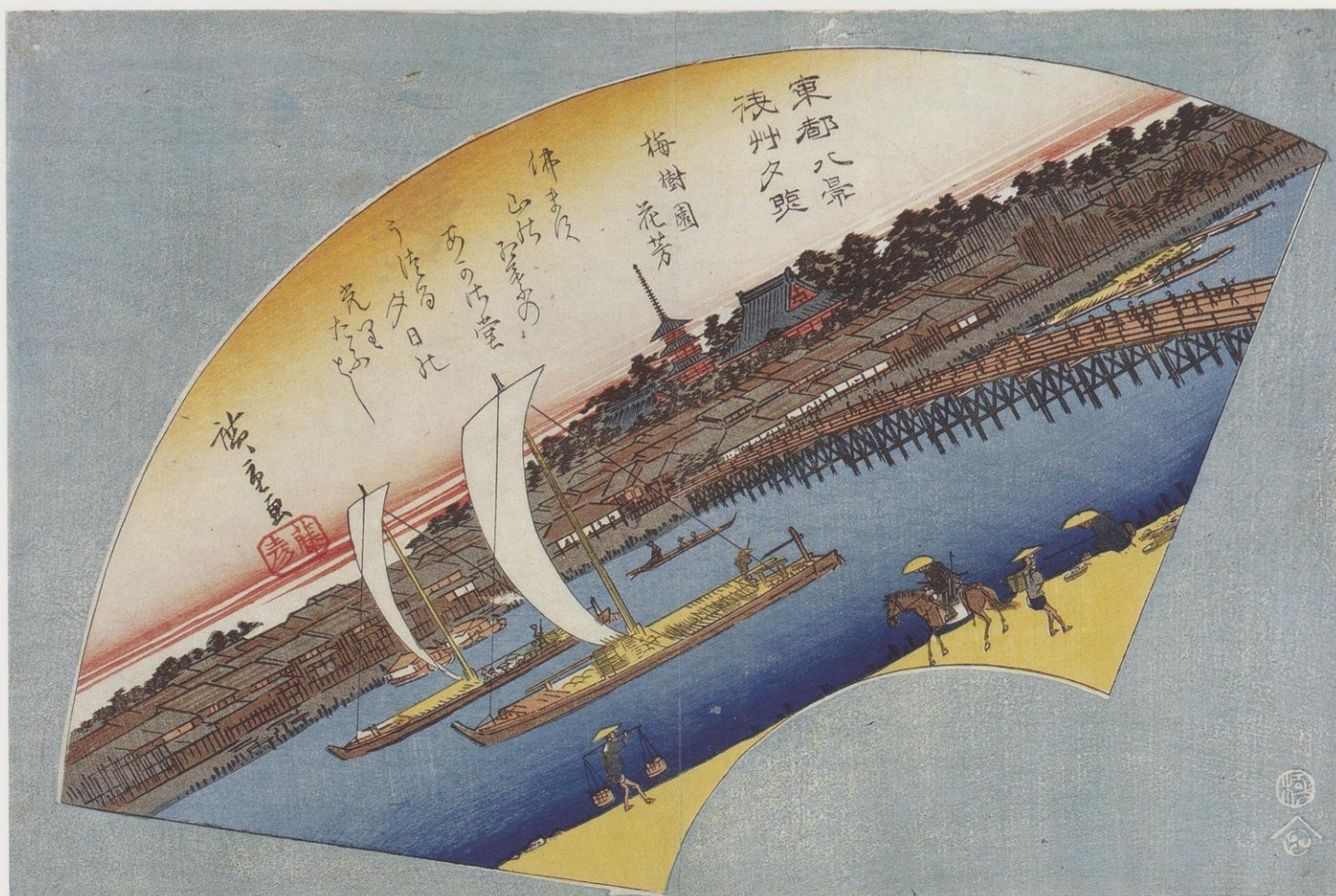
「仏ます山の紅葉のあかざ堂 うつる夕日の光りたふとし

梅樹園花芳」

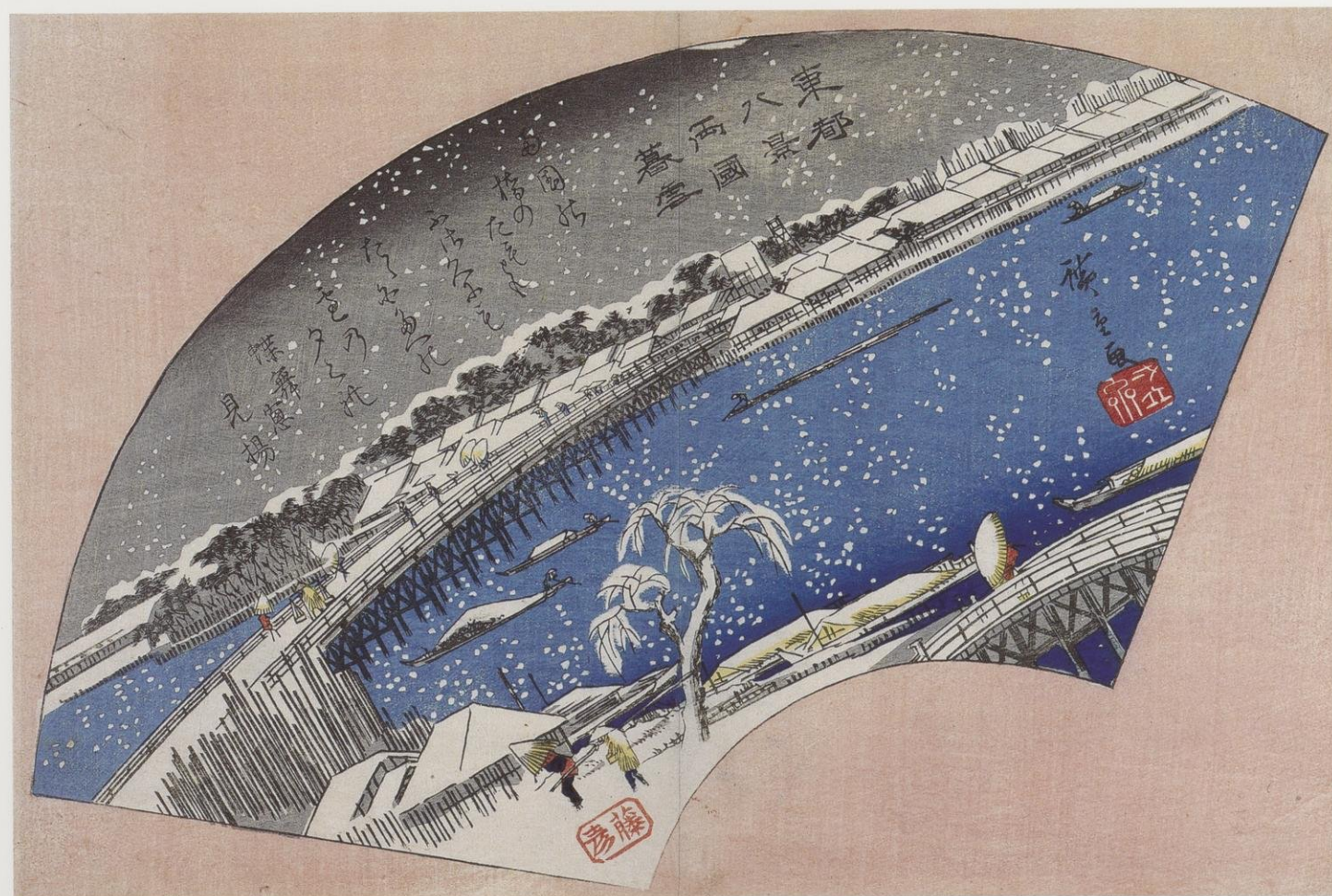
艸は草の旧字。

133 両国暮雪

「両国の橋のたもとふさくにも ただ白たへの雪の夕ぐれ 蝶舞窓見揚」



132



133



134



135



136

東都
名所
二丁町芝居圖

喜鶴堂版

○東都名所 大判 喜鶴堂版
134 芝愛宕山之図

愛宕権現の境内。

135 浅草金龍山年之市群集

江戸の歳の市では浅草の市がもつとも賑わった。中央に見えるのが仁王門。

136 二丁町芝居ノ図

江戸の芝居三座は日本橋の堺町、葺屋町にあり地続きだったので二丁町といった。天保十二年、まとめて浅草の猿若町に移る。



137

137 江都名所・かすみがせき 大判 佐野喜版
正月の情景。大名屋敷だけに門松も豪勢。



138



139



140

138 東都司馬八景・愛宕山暮雪 大判 越前屋版

司馬は芝の当て字。愛宕権現の境内。

○江都名所 間判 泉市版

139 芝神明宮

140 隅田川雪之景

鳥居は三囲神社のもの。堤から上部だけのぞかしている
ことで有名。

141 東都名所之内 隅田川八景・金龍山晚鐘 間判 佐野喜

版

142 東都名所・浅草金龍山雪中之図 大判 上金版
右側の建物が本堂。



141



142



143



144



145

○東都名所 大判 佐野喜版

143 真乳山上見晴之図

浅草寺の東にある待（真）土山は江戸下町では唯一の丘。
頂上の聖天宮からの眺望の良さで知られた。

144 浅草金龍山年の市

145 芝赤羽根之雪

右側の屋敷は久留米藩有馬家の上屋敷。右端に幟（のぼり）が見えるが邸内にあった水天宮のもの。毎月五日だけ一般人の参拝が許された。

○江戸名所 大判 山田屋版

146 洲崎はつ日の出

洲崎は江戸の東端、だからでもあるまいが初日の出の名所。

147 にほんばし江戸ばし

珍しくも、右側江戸橋の背後に江戸城の一部が描かれている。



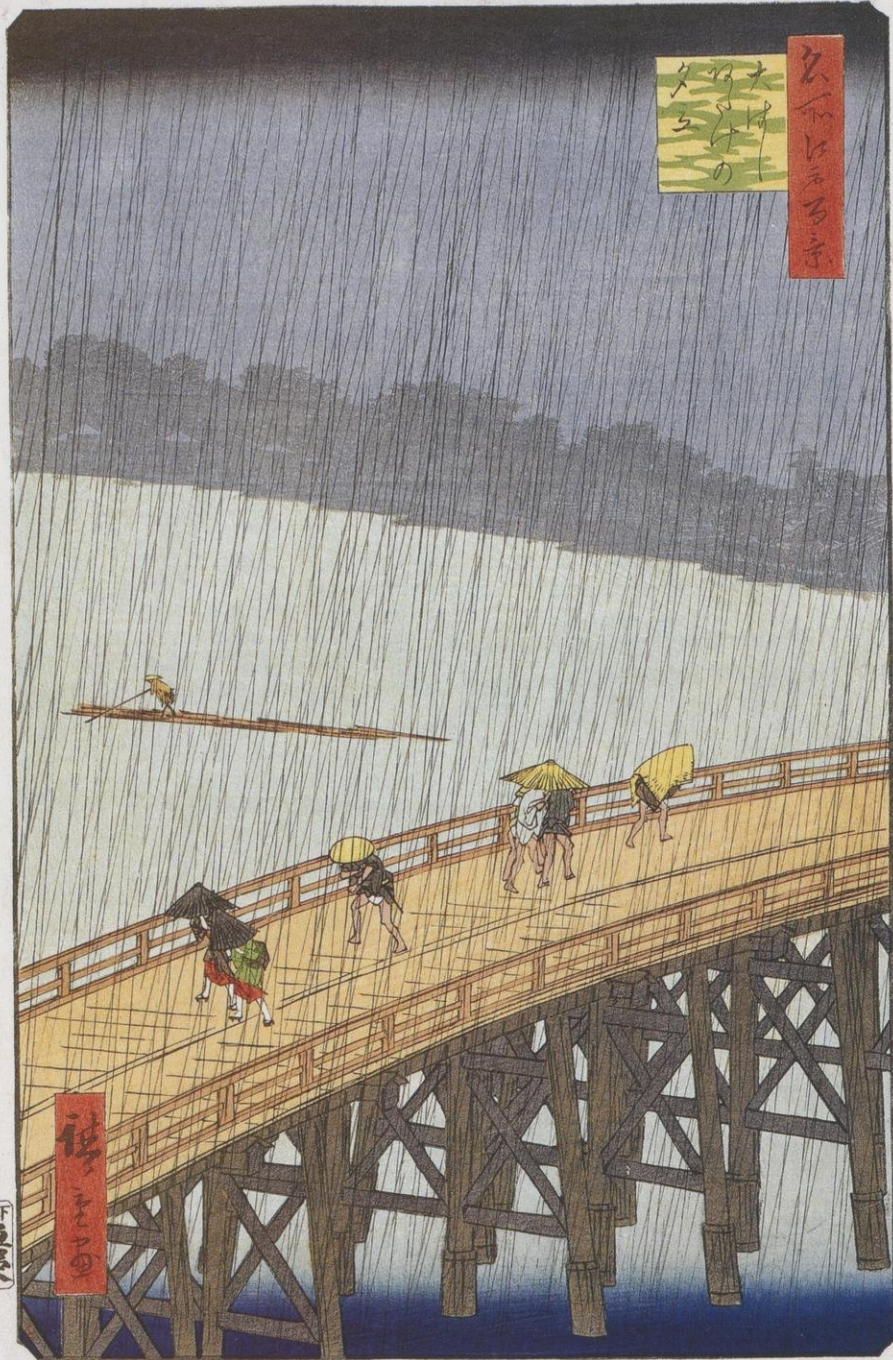
146



147



148



釘魚栄

149

- 名所江戸百景 大判 魚栄版
- 広重最晩年の大作シリーズで百景とあるが全百十八枚、二代広重の落款がある一枚も加えると百十九枚になる。彫り摺り共に技術水準は高く、堅絵という風景画には向かない判型を選んだ点にも意欲が見られる。
- 148 真乳山山谷堀夜景
- 149 大はしあたけの夕立



150



151



152

○名所江戸百景

150 赤坂桐畑雨中夕けい

二世広重（重宣）の落款だが初代の作風を踏襲している。
赤坂溜池の土手には補強も兼ねて桐が植えられ、俗に桐畑と呼ばれた。

151 永代橋佃しま

152 目黒太鼓橋夕日の岡



153



155



154

○名所江戸百景

153 浅草金龍山

大提灯が下がる雷門は幕末に焼け、再建後の現在のものは文字が「しん橋」から「雷門」に変わった。

154 王子装束糸の木 大晦日の狐火

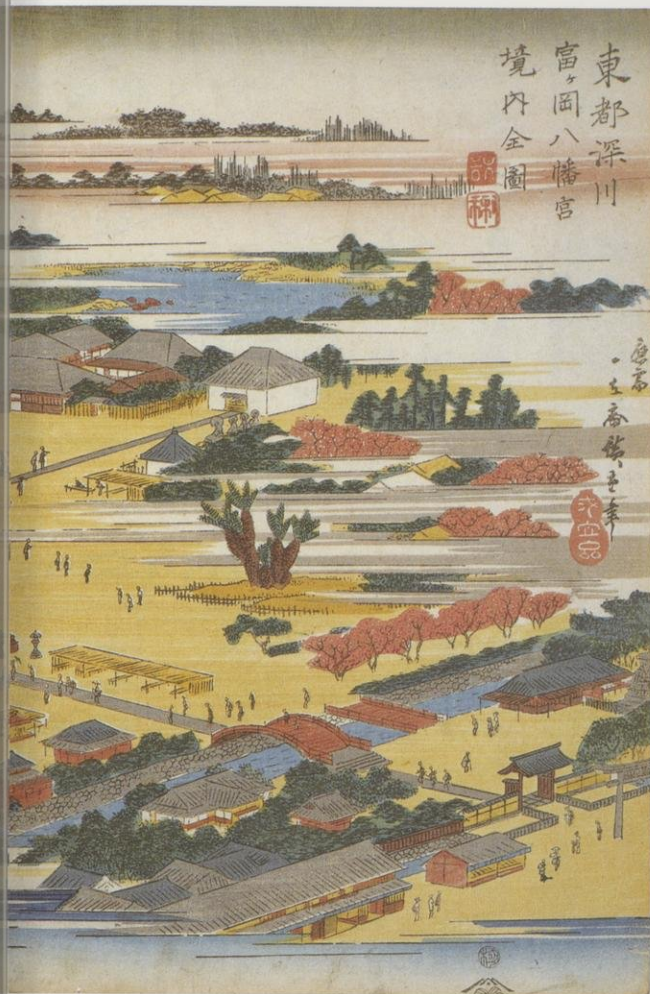
王子稲荷は関八州稲荷の総元締めだから、毎年十二月晦日の夜には近くの榎の下に八か国の狐が集まり、狐火が見られたという。

155 日本橋江戸ばし

東都深川
富岡八幡宮
境内全圖

寛政
十一年
三月

富岡八幡宮
境内全圖



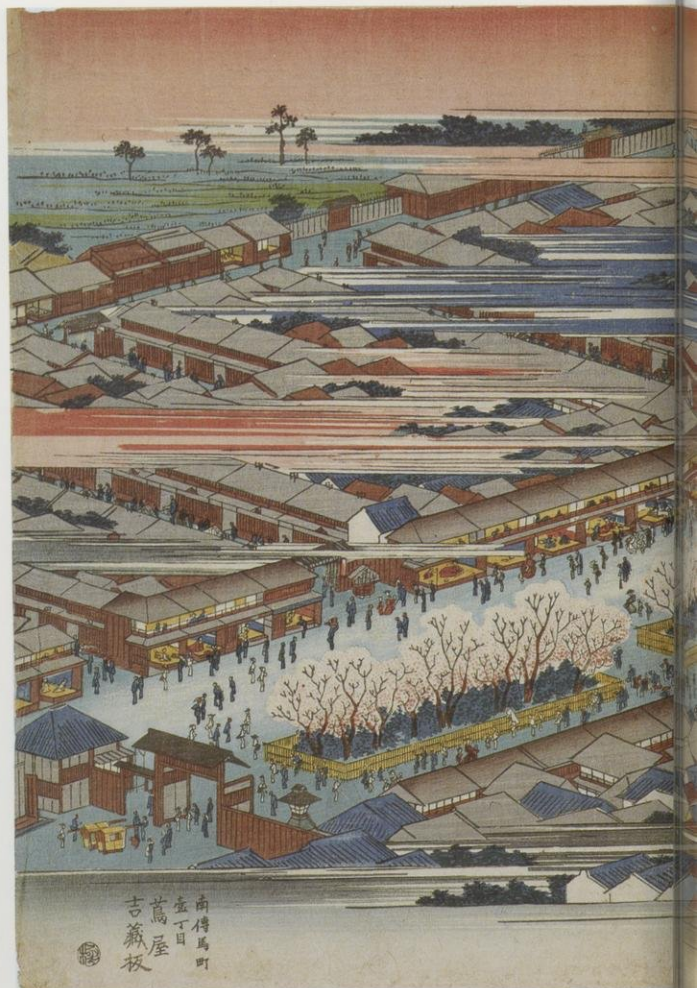
東都名所
新吉原
五丁町
弥生花
盛全圖

寛政
十一年
三月





156



157

156 東都深川富ヶ岡八幡宮境内全図 大判三枚続 葛吉版

大相撲は最初のころもつばらの深川八幡で開かれ、今も横綱力士碑など残る。現在の八幡宮は規模が縮小されており、図の広大な境内の一部が深川公園になっている。

157 東都名所新吉原五丁町弥生花盛全図 大判三枚続 葛吉版

吉原は初め日本橋にあり明暦の大火（一六五七年）で浅草に移され「新吉原」と名のり、それがそのまま幕末まで。廓には大小の妓楼がひしめき五つの町をつくっていたから「五丁町」。弥生（三月）に桜なのは旧暦だからで、吉原の桜はその季節だけ運んできた植木。桜並木になっているところが中央大通りの仲の町。廓全体を堀で囲って遊女の逃亡を防いだ。



158





159



160

○江戸高名会亭尽 大判 藤彦版

江戸で一流の料亭を描いたシリーズ。

158 木母寺雪見 植木屋

「狂句合 植木屋で手ぎわを作る松の魚」

右側の建物が植木屋半右衛門、略して植半という料亭。

芋と蛸の料理が売り物だった。

159 深川八幡境内 二軒茶屋

「狂句合 駒下駄をさがしてつなぐ二軒茶屋 二代目木

卯」

深川八幡境内で鍵形に隣り合っていた料理茶屋（料亭）

の松本と伊勢屋が通称二軒茶屋。深川発展の当初からの

有名店だったが天保の改革で潰された。

160 岩城升屋呉服店 大判三枚続 佐野喜版

麴町五丁目にあった山ノ手一の呉服店。絹物を扱うのが

呉服店。木綿は扱わない。



161



- 江戸近郊八景之内 大判 喜鶴堂版
- 161 飛鳥山暮雪
「制礼をふり埋めつつ飛鳥山 雪の桜の枝折る夕ぐれ
松梅亭商人」
- 162 小金井橋夕照
「さび鮎のあかき夕日もよきわらへ 横にさしたる小がね
井の橋 梅屋」「花ぐもりあすの日和をもち直す 夕日
うれしき小がね井のさと 吞枿」
- 163 行徳塩浜之図 絵半切
江戸の東の行徳では塩をつくり、赤穂の塩とともに全国
に知られた。



162



163

花鳥画

花鳥風月に親しむのは古くから教養の一部になっていた。だから室内を花鳥画で飾るのは日本の伝統であり、広重の花鳥画もそうした需要を当てにした出版物であったに違いない。実際とは違うところが多いらしいが、高速写真のない時代のことである。



165



164



167



166

164 竹に雀 中短冊判 正栄堂版

「唐人の酒を好て竹にまで あかきところをうつす絵工八陣亭」

165 藤に四十雀 中短冊判 正栄堂版

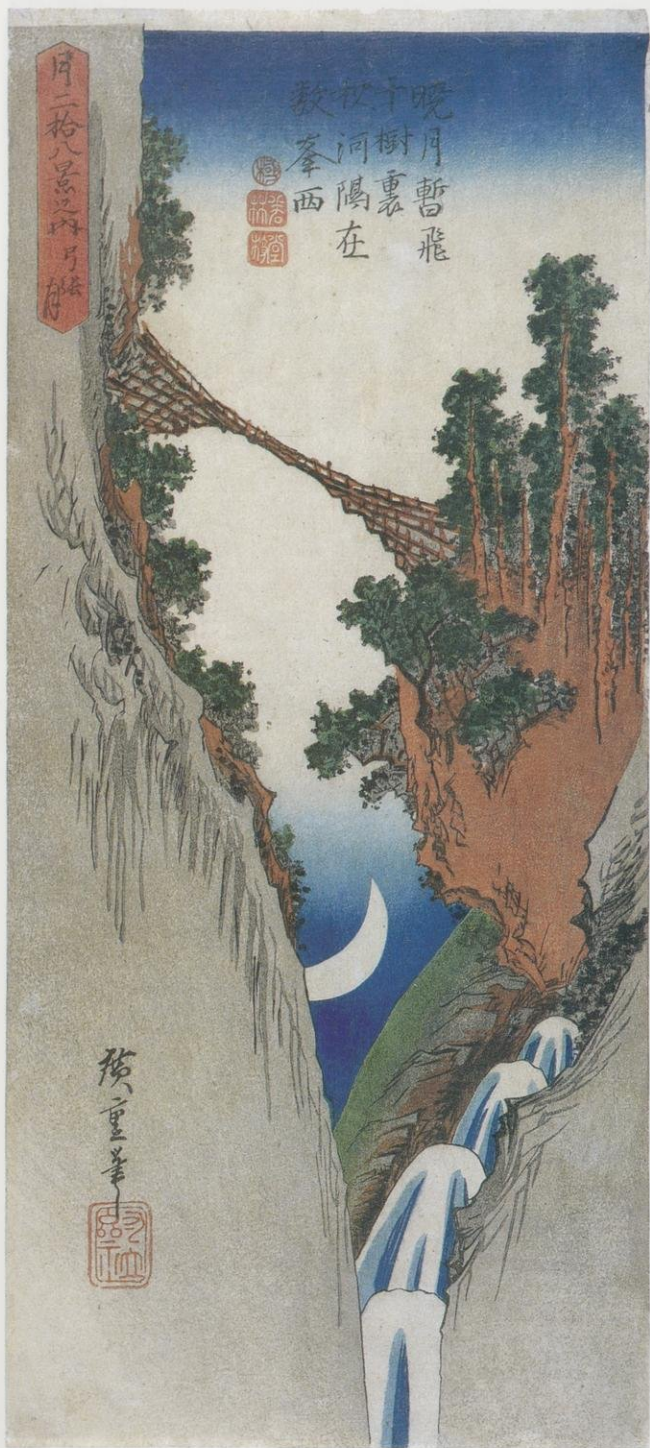
「紫をそむる紺屋のもかり程 軒端にたる、藤の花びら八陣亭」

166 落葉に氷上の鴛鴦 中短冊判

「おし鳥の盆とちようす氷」

167 杜若に川蟬 中短冊判 川正版

「雨垂に袖もあやめに匂いけり」



169

168 雨中の杜鵑 中短冊判 正栄堂版
 「一声は五百崎こへつほととぎす」
 169 月二拾八景之内・弓張月 大短冊判 若林堂版
 「暁月暫飛千樹裏 秋河隔在数峯西」



168



171



170



鳥鵲爭食雀巢寧
獨立池邊
風雪夕

顏重峯



172



長亭
春風吹柳絮
あけくさ
このひよりすふ
なぐ陸うね

廣重書

173

170 月夜 桃に燕 大短冊判 川正版
「春來遍は桃花水 不弁仙源何処尋」
171 松にインコ 大短冊判 若林堂版
「十八公栄霜後露 一千年色雪中深」
172 雪中 椿に雀 大短冊判 若林堂版
「烏鶯爭食雀爭巢 独立池辺風雪多」
173 山吹に蛙 大短冊判 若林堂版
「春雨のふる句ながらも山吹のみ
のひとつだになく蛙かな 長亭」



175



174

- 174 旭日 波に鶴 大短冊判 若林堂版
- 175 初日の出 松に鷹 大短冊判 佐野喜版
- 「初日の出周に際ハなかり梟」
- 176 雲龍 大短冊判 佐野喜版
- 177 雲龍 大短冊判



177



176

178 旭日 松に鶴 大判 縦二枚 継 佐野喜版
 179 雪中 松に鷹 大判 縦二枚 継 佐野喜版
 180 旭日 松に鷹 大判 縦二枚 継 佐野喜版





180



179

美人画

広重の美人画は多くない。この分野ではもっぱら同じ歌川派の国貞（三代豊国）の名が高く、温和な性格の広重は遠慮したのかも知れない。名所絵の広重になってからは、人物が国貞、風景が広重という合作画が数多くあるから、住み分けしていたのかも知れない。





185

- 184 風流五ツ雁金・雷庄九郎 大判 岩戸屋版
「末つゝに誰がいな妻となる神の おとづれあるも空たの
めにて 年垣真春」
当時人気の芝居「雁金五人男」の主人公五人に美人を
なぞらえたシリーズ。この絵は帯の雲に稲妻の模様、狂
歌中の「なる神」から雷庄九郎の見立。
185 江戸自慢 秋七草・桔梗 大判 川正版
秋の七草の一つ桔梗に花魁。





186

186 雪月花の内・月の夕部 大判三枚続 伊場仙版
月影を描いているのは珍しい。



187 両国納涼大花火 大判三枚続 山庄版
背景に人、人、人の両国橋。





188 東都両国すみ船 大判三枚続 佐野喜版



団扇絵

団扇絵うちわえというのは実用品で、買った人が形どおりに切り取って団扇の骨に張って楽しむためのもの。そもそもが消耗品だからあまり残っておらず、きれいな状態のものは団扇問屋が見本として取っておいたものがほとんどだとか。



189



190



191

189 月夜の庭 団扇絵 海老屋版
190 東都名所雪の三景・両国雪晴の月 団扇絵



192

191 隅田川・橋場渡・真崎社 団扇絵 遠州屋版
対岸左端が真崎稲荷、手前が桜で知られる向島堤。
192 今様六玉川の内・武蔵調布 団扇絵



193

○雪月華昔語 団扇絵 遠州屋版

歌舞伎や小説の時代物で広く知られた三人を主人公にすえた三部作。昔話という体裁をとった作り話に雪月花の舞台装置を設定。

193 雪

平安中期の大盗賊と伝えられる袴垂保輔にまつわる伝説の一つで、武勇の土平井保昌ひらいやすまさをつけ狙うが逆に威圧されたという物語。保昌の妻が和泉式部。

194 月

源義経の牛若丸伝説の一つで、牛若丸が陰陽師鬼一法眼秘伝の兵法の巻物を法眼の娘皆鶴姫の手引で見ることができるといふ物語。菊畑の場。

195 花

源平時代の大力無双の士朝比奈三郎義秀を主人公とする物語も数多く作られ、これもその一つ。鈴木（実は朝比奈）三郎と北条政子の侍女松島局との悲恋の一場面。



194



195



196



197



198

196 風景淨るりづくし・妹背山吉野川 団扇絵 遠州屋版

義太夫節の名曲「妹背山婦女庭訓」の吉野川の場で、
大判事清澄の息子久我之助と大宰家の後室貞香の娘雛鳥
とは川をへだてて切なる恋を語りあうが、対立する両家
の親は許さず二人とも死なざるを得なくなる。

197 源氏雪月花・嵯峨の花 団扇絵 伊場仙版

『修紫田舎源氏』三十四編の遊船の場面で、主人公足利光
氏と磯名の方。

198 古代名譽四季花・冬 筑紫大宰府飛梅 団扇絵 駿河屋
版

菅原道真（菅公）は梅を愛し、筑紫大宰府に左遷された
折、庭の紅梅に向かって「東風吹かば匂ひおこせよ梅の
花 あるじなしとて春な忘れそ」と一首を詠んだ。この
梅が大宰府まで飛んで宿所の庭に花を咲かせたと伝説は
いう。



199

199 在原業平東下り 大判堅二枚継 佐野喜版

『伊勢物語』の主人公とされる在原業平が駿河路で富士を眺めて歌を詠む場面。

○諸国六玉河 大判 蔦重版

六玉河(川)とは古くから歌に詠まれた全国六か所の玉河のこと。

200 武蔵調布之玉川

「調布やさらす垣根の朝露を つらぬきとめぬ玉河の里」
(藤原定家)

左手前は餅つき、右奥で、古歌に因む布晒しをしている。

201 山城井手之玉川

「駒とめてなほ水飼はむ山吹の 花の露添ふ井手の玉川」
(藤原俊成)

井手は京に近い。大宮人の主従が山吹咲く川辺を進む。

横雪馬
印

武藏調布之
玉川
調布とすの
垣後の知事不
つゝ勢少
然る玉川の里



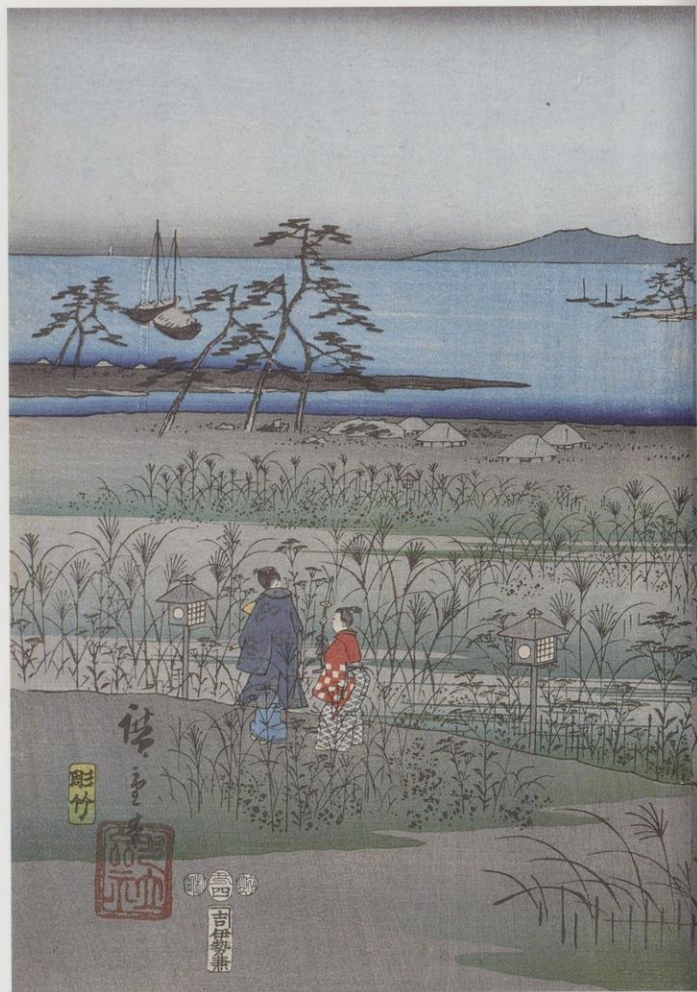
山崎
井出
玉川

約とあ
あ代
水うん
山吹乃
あつ
井出
あつ

横雪馬







202

202 風流げんじ 明石（三代豊国との合作）大判三枚続 伊勢兼版

203 田子のうら風景（三代豊国との合作）大判三枚続 丸甚版
 ともにいわゆる「源氏絵」。柳亭種彦の小説『修紫田舎源氏』が大評判になったことから、その一場面を、小説で挿絵を描いた三代豊国が人物、広重が背景を分担して描いたもの。



203

戯画

浮世絵の戯画では国芳が広く知られるが、当時は広重が一方の雄だった。奇抜な着想で面白がらせる国芳とは違い、広重の作品は軽妙洒脱な筆づかいが持ち味、常識的な機知の域を出ないのは作者の人柄を反映するせいだ。

○即興かげぼし尽し 大判 薦吉版

「かげぼし」は影法師。影絵の種明し。

204上…みみずく 下…まつたけ

205上…根上り松 下…梅に鶯

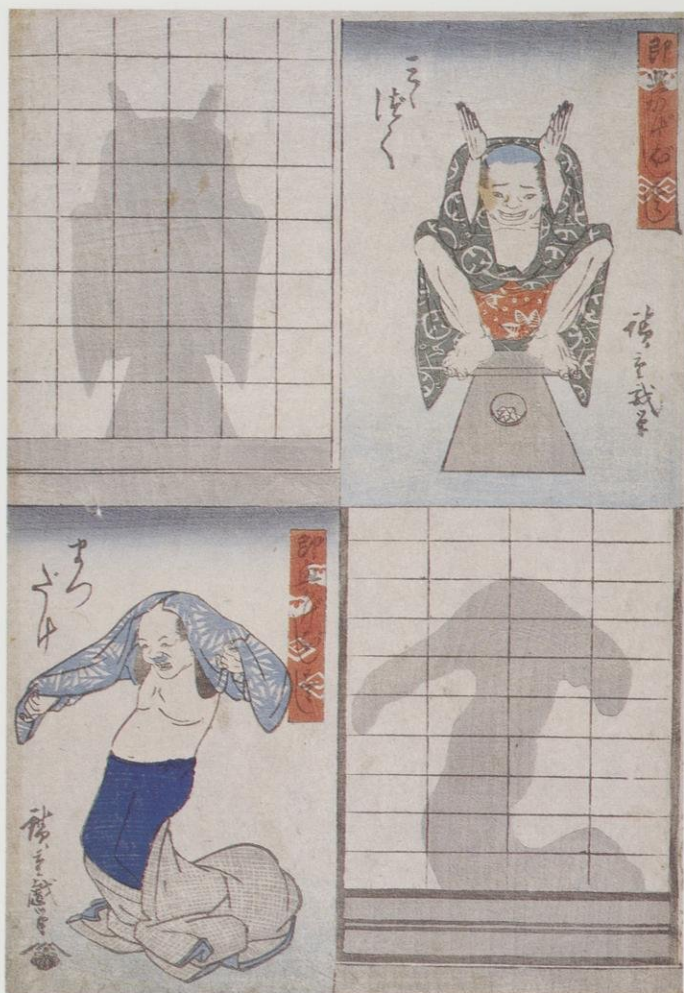
206上…塩引き鮭 下…茶釜

207上…入り船 下…茶碗と茶台

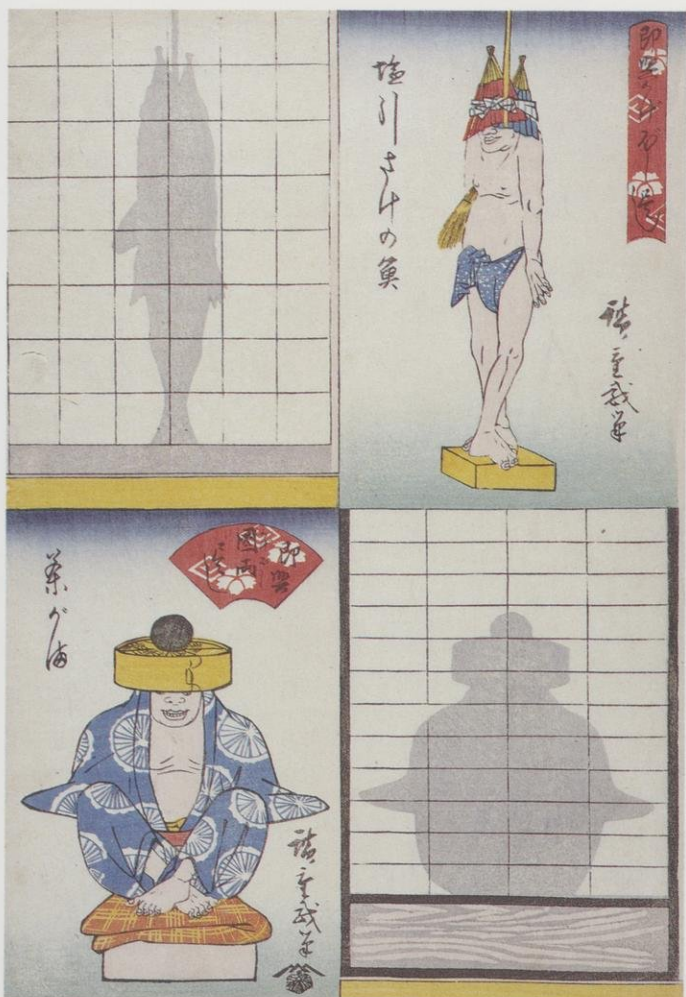
208上…富士の山 下…欄干に擬宝珠

209上…こんろに急須 下…爛ちろり

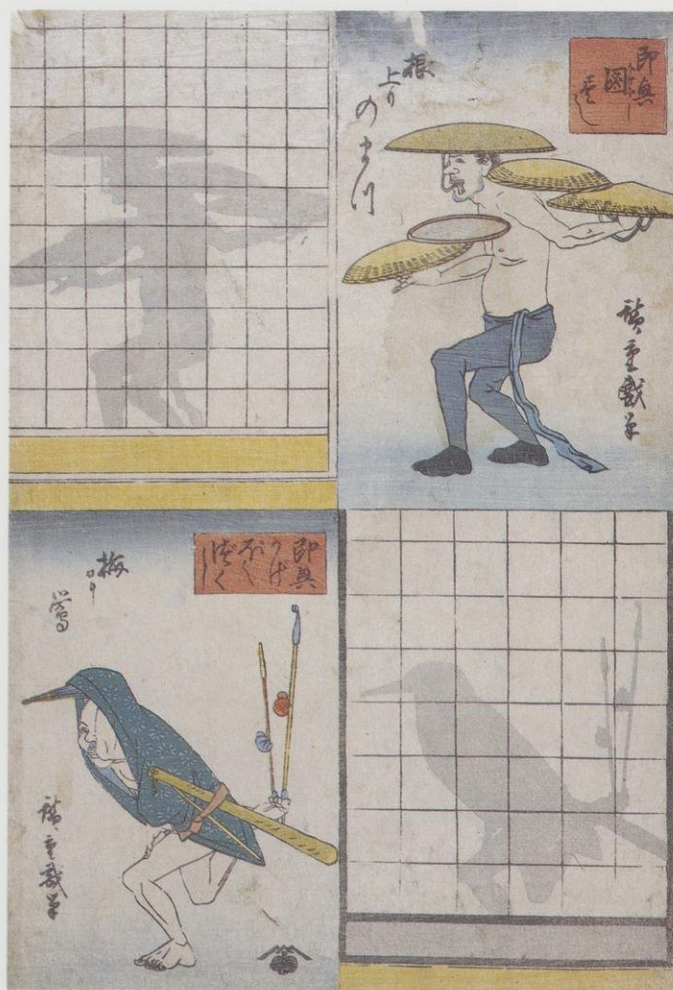
210上…石灯籠 下…とまり木に鷹



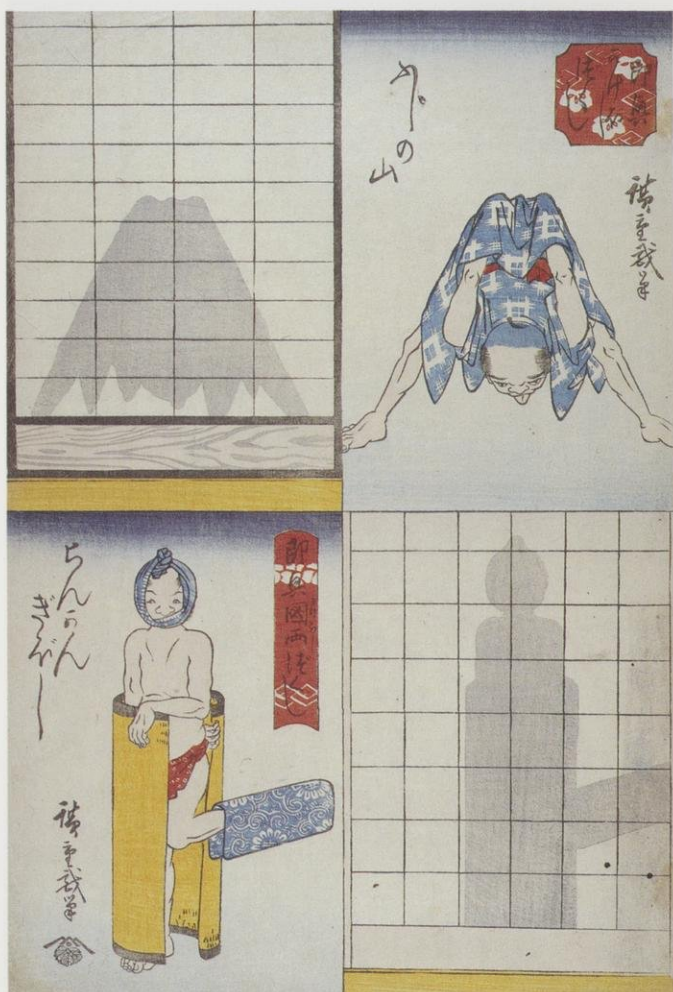
204



206



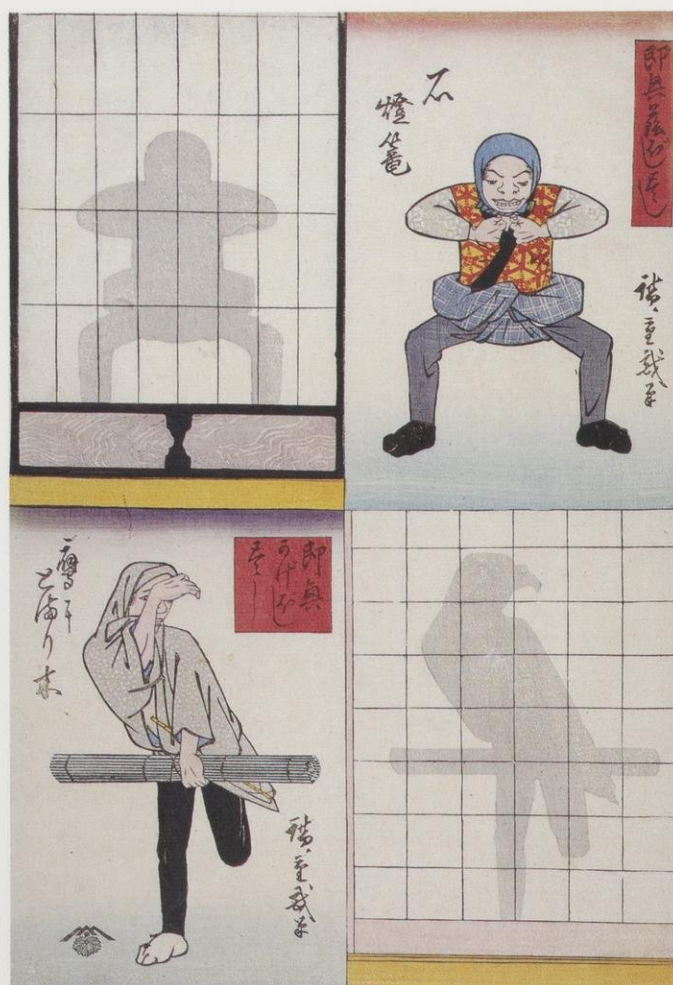
205



208



207



210



209



211



212

○浄るり町繁花の図 大判 伊場仙版

人気浄瑠璃の登場人物を物売りや客に見立てたもの。(考)

証・竹内道敬

211 右上..「太平記忠臣講釈」七条河原物嫁宿

左上..「一谷嫩軍記」熊谷陣屋

右中..「壇浦兜軍記」阿古屋琴責

左中..「敵流島勝負宮本

右下..「仮名手本忠臣蔵」山崎街道

左下..「義経腰越状」

212 右上..「由良湊千軒長者」(通称「山椒太夫」)「鶏娘」

左上..「芦屋道満大内鑑」(通称「葛の葉」)

右中..「伊達競阿国戯場」

左中..「小野道風青柳硯」東寺門前

右下..「伽羅先代萩」床下

左下..「花系図都鑑」(通称「清玄桜姫」)



214



213

- | | |
|--------|-----------------|
| 213 右上 | 「普原伝授手習鑑」 筆法伝授 |
| 左上 | 「刈萱桑門筑紫轢」 |
| 右中 | 「義経千本桜」 椎の木 |
| 左中 | 「大塔宮囃鐘」 身替わり音頭 |
| 右下 | 「ひらがな盛衰記」 梅が枝 |
| 左下 | 「生写朝顔日記」 |
| 214 右上 | 「昔語黄鳥墳」 |
| 中上 | 「夏祭浪花鑑」 長町裏 |
| 左上 | 「加賀見山旧錦絵」 尾上部屋 |
| 右中 | 「絵本太功記」 尼ヶ崎 |
| 中下 | 「梁模様妹背門松」 地藏めぐり |
| 左中 | 「増補八百屋献立」 |
| 右下 | 「伊達競阿国戯場」 埴生村 |
| 左下 | 「奥州安達原」 袖萩祭文 |



216



215

- 浄るり町 繁花の図
- 215 右上…「妹背山婦女庭訓」 杉酒屋・御殿
左上…「軍法富士見西行」 第二段
右中上…「伊賀越道中双六」
左中…「本朝廿四孝」 勘助住家
右中下…「神靈矢口渡」
右下…「国姓爺合戦」 紅流し
左下…「双蝶々曲輪日記」
216 右上…「関取千両幟」 岩川内
中上…「伊達娘恋緋鹿子」
左上…「新薄雪物語」 鍛冶屋
右中…「釜淵双級巴」 中の巻
左中…「傾城反魂香」 (通称「ども又」)
右下…「関取二代勝負附」 か
左下…「近頃河原達引」 堀川



217

- 217 右上 .. 「花上野譽石碑」(通称「志渡寺」)
 左上 .. 「祇園祭礼信仰記」 金閣寺
 右中 .. 「姫小松子目遊」
 中央 .. 「恋飛脚大和往来」 新口村
 左中 .. 「姫山姥」
 右下 .. 「鬼一法眼三略巻」 菊畑
 左下 .. 「田村磨鈴鹿合戦」(通称「勢州阿漕浦」)



218

○童戯武者尽 大判 若与版
 広く知られた武勇譚をひとひねりして戯画化したシリーズ。

218上…牛若丸の越後獅子

牛若丸（源義経）は鞍馬山で武者修行、大天狗僧正坊から剣術を教えられたという。

緋衣姿が大天狗、逆立ち姿が配下の烏天狗。

下…玉藻前の悪だくみ

金毛九尾の妖狐は美女玉藻前に化け鳥羽院を悩ましたが、勅命を受けた三浦介義明、上總介常胤に追われ下野那須野で射られ、殺生石となったという。

ここでは逆に狐が二人をたぶらかし、芝居の馬の恰好の二人が馬脚をあらわす。

219上…渡辺綱と羅生門の鬼

源頼光四天王のひとり渡辺綱は羅生門の鬼茨木童子の片腕を切り落とすが、鬼は綱の伯母に化けて来て腕を奪って逃げたという。

見世物小屋の木戸番が綱。

下…武蔵坊弁慶の道具屋

ござの上に並べられた品々は、七ツ道具（鎌・鋸・槌・斧・熊手・鉄棒・長刀）や三井寺の鐘、山伏の携帯具、勧進帳など弁慶ゆかりの物ばかり。話しかけているのは源義経。



219



221



220

220 上…大森彦七の麦藁細工屋

足利尊氏の将大森彦七は楠木正成を討ち取ったが、ある日、道に悩む乙女を背負うと悪鬼になって襲われるなど、たびたび正成の怨霊にたたられたという。

麦藁細工は大森地域の名物。

下…素盞命の蒲焼屋

天照大神の弟で高天原から追放された素盞命は、出雲国簸川で櫛名田姫を襲う八岐大蛇に八つの甕の酒を飲ませて退治し、蛇の尾から天叢雲剣を得たと伝える。

221 上…源三位頼政の鶴まわし

平安朝の武将源頼政は内裏紫宸殿の上から怪鳥鶴を射落とし、郎党猪早太がこれを仕留めたが、頭は猿、軀は狸、尾は蛇、手足は虎のようだったという。

下…熊谷真実と平敦盛

源平一ノ谷の合戦で源家の武将熊谷直実は、沖へ逃れる当年十六歳の平敦盛を軍扇をかざして呼び戻し、組み敷いて首を取ったという。

そば代は二八で十六文、熱湯に通して熱くした盛りそばが「あつもり」。



223



222

○ 童戯武者尽

222 上…坂田公時の金時豆売り

源頼光四天王のひとり坂田公時は、足柄山で山姥を母として生まれ、幼名が金太郎、熊や鹿と遊んで成長したという。

金時豆は金時あずきの砂糖煮。

下…那須与一の扇的

源平屋島の合戦で海上の平家軍は、竿の先に旭日の扇を掲げた船を出し、優美な女官が源氏を手招きしてみせた。源義経の命を受けた那須与一は見事に扇を射落として、両軍から喝采を得たという。

楊弓場（矢場）の屋号が「八嶋」。

223 上…仁田四郎の猪退治

源頼朝の富士の裾野の卷狩では、突然あらわれた大猪に仁田四郎忠常が飛び乗り、逆さまにながらも仕留めて勇名をあげたという。

看板の「山くじら」は猪のこと。仏教が四つ足の獣の肉を食べるのを禁止していたため。

下…佐藤忠信の人形遣い

源義経の忠臣佐藤四郎忠信は、吉野山から義経を逃れさせ、身代りに立って大奮戦。

忠信と義経の愛妾静御前とは淨瑠璃「義経千本桜」道行の段によって誰でもが知る組合せ。静の鼓に合わせて忠信が舞う。ここでは逆に静人形が碁盤の上で舞うが、碁盤は忠信が最期の戦いで碁盤を振り上げて奮戦する「碁盤忠信」から借りたもの。



225



224

225 上.. 夢見心地
下.. 手習手本

下.. 平忠盛の油屋

平清盛の父忠盛は、白河上皇が祇園女御を訪れるのにお伴をしたが、ある雨の夜、銀色に光る髪の毛の異形の者を捕らえたところ、境内の灯籠に油を注してまわる老僧だった。
ここでは逆に忠盛が油を注ぐ役まわり。

224 上.. 桃太郎の鬼退治

犬・猿・雉を供につれた桃太郎は鬼ヶ島に渡り、鬼退治をして宝物を持ち帰ったという。
ここでの桃太郎は値切つて鬼を泣かせ、宝物の

繭玉（正月の飾り物）を持ち帰る。



226

226 太平喜餅酒多買 大判三枚続 丸清版
 甘党と辛党の代表、餅と酒とを戦わせて見せた趣向の図

張交絵

張交絵^{はりまぜえ}というのは一枚の絵に数点の小図を組み合わせて摺ったもの。昔から貼交屏風^{はりまぜびょうぶ}というのがあったが、広重の張交絵はそのための素材と思われる。買った人が小図を輪郭どおりに切り落とし、それを腰屏風や枕屏風に貼って貼交屏風にしたのではなからうか。そのために小図の形はさまざま、画題や色彩も変化に富んでいて、俗っぽい画題はあまりない。



227



229



228



231



230

- 張交江戸(都) 名所 大判 泉市版
- 227 右上…海晏寺(品川の紅葉の名所)
 左上…佃島(白魚漁)
 右下…王子権現(七月十三日の祭礼の神事)
 左中…芝増上寺
 左下…御茶之水(神田川・水道橋)
- 228 右上…永代橋中洲(大型船停泊場所)
 中上…道灌山(土器売り。山の上から投げて遊ぶ)
 左上…花屋敷(向島の百花園)
 右下…日本橋(初物の鰹と茄子。魚と野菜の市場所在地)
 左下…洲崎(初日の出の名所)
- 229 右上…飛鳥山(王子の桜の名所)
 中上…吉原(たそや行灯・箱「吉原」提灯)
 右下…品川(汐干狩)
 中下…深川富岡(永代寺の牡丹)
 左…高輪(月見の名所)
- 230 右上…山谷堀・真乳山
 左上…不忍池(中橋・弁天社)
 左中…亀戸(鸕木・蜆)
 右下…臥龍梅(亀戸梅屋敷の名木)
 左下…隅田川(都鳥)
- 231 右上…両国(涼み舟)
 左上…御殿山(品川の桜の名所)
 中央…浅草金龍山(名物玩具「亀山の飛んだり跳ねたり」)
 右下…三囲堤(左端に鳥居)
 左下…上野(東叡山寛永寺)



232



234



233

○江戸名所張交図会 大判 山庄版

232上 .. 飛鳥山眺望 (桜の名所)

下右 .. 猿若町 (芝居町。番立は開幕前の三番)

下左 .. 小金井堤 (桜の名所)

233右 .. 日本橋 (魚河岸帰りの魚屋)

中上 .. 上野花見 (寛永寺)

左上 .. 目黒不動之滝 (独鈷ノ滝)

左下 .. 海晏寺 (品川の紅葉の名所)

234右上 .. 洲崎弁天祠 (左端)

右下 .. 御茶之水 (神田川・水道橋)

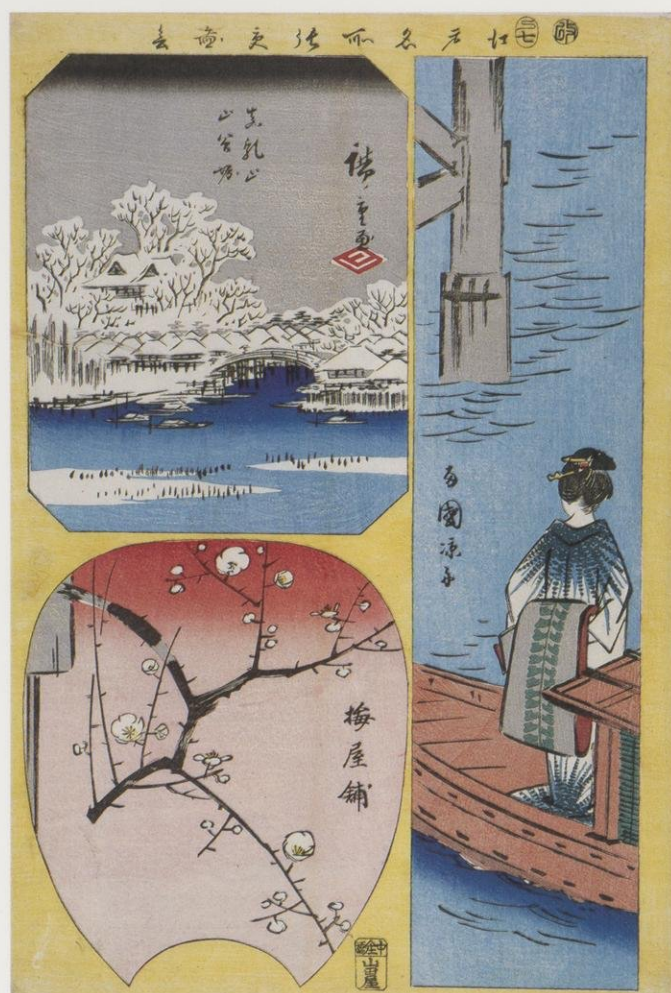
中下 .. 芝神明祭 (九月十一〜二十一日。右が飴入りの千

木箱、左が土生姜)

左 .. 愛宕山 (正月強飯式の毘沙門使)



236

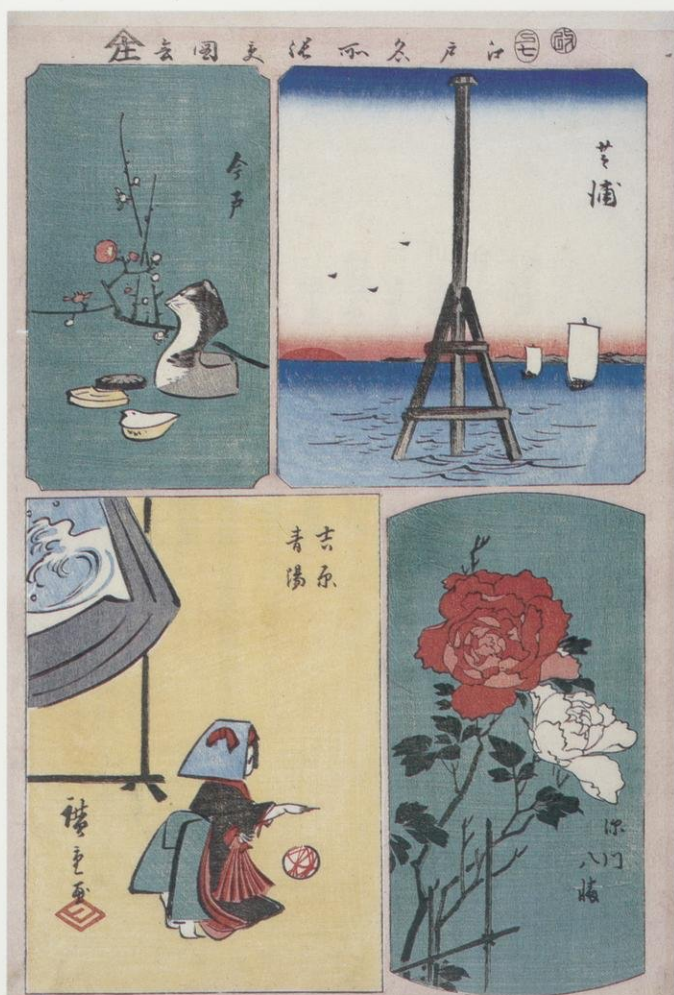


235



237

- 235 右 .. 両国涼み舟
 左上 .. 真乳山・山谷堀
 左下 .. 梅屋舗 (亀戸の名園・絵は臥龍梅)
 236 右上 .. 高輪 (月見の名所)
 左上 .. 堀切之里 (菖蒲園)
 下 .. 中洲・三俣前の淵 (永代橋川下)
 237 右上 .. 浅草金龍山 (浅草寺)
 左上 .. 三囲 (隅田川東岸)
 中央 .. 雷門 (名物玩具)
 右下 .. 隅田川 (都鳥)
 左下 .. 向嶋花屋舗 (百花園)



○江戸名所張交図会

238 右 .. 亀戸天神菜種之神事 (二月二十五日、菅公の忌日に神前に盛る飯に菜の花を挿す)

左下 .. 利根川の鯉 (現在の江戸川)

左下 .. 御殿山満花 (品川の花見の名所)

239 右上 .. 鉄砲洲・佃島

右下 .. 押上萩寺 (本所の龍眼寺)

左 .. 王子権現御祭礼 (七月十三日)

240 右上 .. 王子滝の川 (正面は不動之滝)

左上 .. 品川 (汐干狩)

下 .. 水神森・真崎社 (手前左が水神社の鳥居、対岸右が真崎社)

241 右上 .. 芝浦 (水標で潮の干満を知る)

左上 .. 今戸 (今戸焼・今戸八幡の梅)

右下 .. 深川八幡 (別当永代寺の牡丹)

左下 .. 吉原 (青陽は春・禿の鞠つき)

○東海道張交図会 大判 泉市版

242 右 .. 日本橋 (欄干の擬宝珠)

左下 .. 品川 (八ッ山六夜の景。八ッ山は高輪と品川の間的小丘。六夜とは二十六夜で、七月二十六日の夜、高輪に月の出を拝みに行くといふ品川遊廓に繰り込む客が多かった。版元泉市の店は芝にあり、その提灯を持った女が品川へ向かうのは、旦那を迎えに行くところと解釈できなくもない)

中下 .. 川崎 (大森の麦藁細工に蒲田の梅。川崎大師平間寺参詣の名物)

左上 .. 加奈川 (横浜風景。当時は寒村)

243 中央 .. 程ヶ谷 (杉田の梅林)

右上 .. 戸塚 (科濃坂からの不二)

右下 .. 藤沢 (照手姫。遊行寺境内に旧跡がある小栗判官の妻。浄瑠璃や歌舞伎でも知られる哀話)

左下 .. 平塚 (中央高麗山、その右後方が霊山大山)

左上 .. 大磯 (曾我十郎祐成・愛人が大磯の遊女虎御前)



242



243



245



244



246

○東海道張交図会

244 右上…小田原(海岸)

左下…箱根(白糸ノ滝)

右下…三嶋(三島大社の正月六日の田祭り)

左上…沼津(新羅三郎源義光。八幡太郎義家の弟。兄の奥州征伐を助けに向かう途中、足柄山(愛鷹山)の別称)で師の遺児豊原時秋に笙の秘曲を伝授)

245 右…原(竹取翁。翁が育てた赫耶姫は帝の求婚をもしりぞけ月世界へ去る。傷心の帝は姫の形見の不死の薬も必要ないと、天にもっとも近い駿河国の山で燃やさせ、富士(不死)と命名とか)

左下…吉原(源平合戦富士川の話。源平両軍は川をはさんで対峙したが、夜中に水鳥が飛び立ったのに驚き、平家の大軍は一戦もせず西へ潰走)

246 右…由井(雨乞いの倉沢踊り。薩埵峠麓)

左上…奥津(薩埵峠の下の海岸)

中…江尻(三保ノ松原の羽衣ノ松)



248



247



249

- 左下…府中（名産安部茶。江戸へ的高级品）
 247右下…鞠子（梅若菜まりこの宿のとりろ汁）（芭蕉）
 中下…岡部（宇津ノ山、萬ノ細道）
 左下…藤枝（瀬戸川を渡る座頭）
 上…嶋田（川霧や百万石も波の上）（湘夕）
 248右下…金谷（弥次喜多滑稽道中）
 右上…日坂（小夜ノ中山の峠道・無間山）
 左下…掛川（川渡りが続く秋葉道）
 左上…袋井（鳥天狗。秋葉山は犬天狗の居所）
 249左中…見付（岩井村金札の鶴。源頼朝が鶴の寿命を知ろうと年号を記した金札を足につけ放したという）
 右下…浜松（引馬野（三万ヶ原の旧名）の萩。「狩衣みだれにけりな梓弓 ひくまの野辺の萩の朝露」（式子内親王）
 左上…舞坂（今切風景）
 左下…荒井（名物の鰻魚）
 右上…白須賀（女谷の遊女。源頼朝に寵愛され、没後は尼になったと伝える）



251



250



252

○東海道張交図会

250 右上…二川 (猿馬場の大岩)

左上…吉田 (手前が豊川橋、右奥に吉田城)

左下…御油 (甲州武田の軍師山本勘介。牛久保に旧跡)

右下…赤坂 (夏の月御油よりいでて赤坂や) (芭蕉)

251 右上…藤川 (坂道)

左上…岡崎 (浄瑠璃姫。矢矧の里の長者の娘で、牛若丸

との恋物語で有名)

右下…池鯉鮒 (八橋村の故事。在原業平が東下りの途次

立寄った杜若の名所)

左下…鳴海潟 (千鳥の名所)

252 上…宮 (海上七里の渡し船)「眠る間を真帆にあげ羽の

胡蝶かな」(湘夕)

右下…桑名 (蛤「白魚や焼蛤のにゆる音」(斑升)

左下…四日市 (伊勢海老)

253 下…石薬師 (義経の逆桜。蒲冠者源範頼神社境内)

右上…庄野 (白鳥塚。日本武尊陵)



254



253



255

- 左下：土山（遠景が鈴鹿山。「坂は照る照る鈴鹿は曇る、あいの土山雨が降る」とは鈴鹿馬子唄）
- 左上：水口（名物葛籠細工）
- 右下：石部（女川の里の茶飯田楽）
- 255 右上：草津（山田石亭翁所蔵の奇石。鉄樹・蜈蚣石・燕子花石・雲龍石・石柏葉・羅漢石）
- 左：大津（大津絵の筆のはじめは何仏）（芭蕉）
- 右下：京（四条河原の夕涼み）
- 254 右上：坂之下（奇岩古松の筆捨山は狩野古法眼（元信）が描き切れず筆を投げたという名勝。山麓の八十瀬川は別名鈴鹿川）
- 中上：関（一休和尚肖像。関の地藏さんとして知られる宝蔵寺の地藏尊の開眼供養を頼まれて、「釈迦はすぎ弥勒はいまだ出でぬ間の、かかるうき世に目あかしめ地藏」と詠み、小便をかけたと伝えられる）
- 左上：亀山（城の鴟尾）



257



256



258

- 国尽張文図会 大判 藤慶版
- 256 五畿内五箇国
- 右上…山城(京、鳥原の遊女)
- 下…大和(吉野山と桜林)
- 257 右…河内(藤井寺の故事)
- 左上…攝津(住吉神社の高灯籠)
- 左下…和泉(堺妙國寺の大蘇鉄)
- 258 東海道十五ヶ国
- 左上…伊勢(古市の伊勢音頭)
- 右下…伊賀(松尾芭蕉。伊賀上野の出身)
- 左下…志摩(大湊・日和山)



260



259

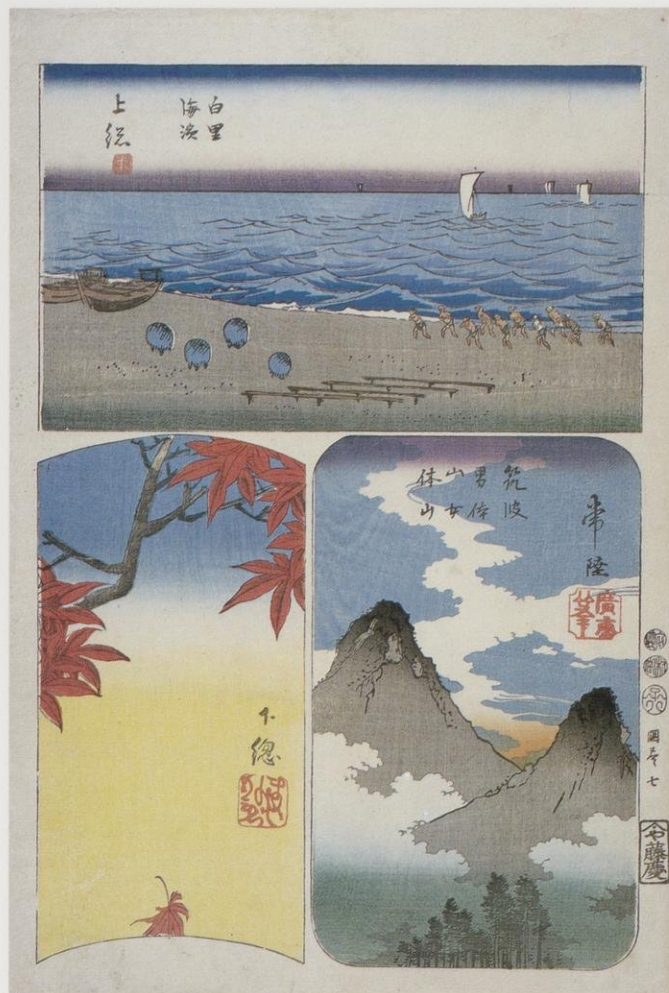


261

- 259 右上…尾張（名古屋城天守閣の金の鯱）
 左上…三河（三河万歳。太夫〈奥〉と才蔵）
 下…遠江（秋葉山・四十八瀬をわたる秋葉街道）
 260 上…駿河（笠雲かかる不二山）
 右下…伊豆（赤沢山での河津三郎と股野五郎の角力。『曾我物語』中の名場面）
 左下…甲斐（名産品の葡萄）
 261 右…武蔵（江戸の日千両の三街。吉原〈花魁と禿〉と猿岩町〈市川団十郎〉と魚河岸〈魚屋〉）
 左上…相模（足柄山での新羅三郎義光の笹の秘曲伝授）
 左下…安房（小湊風景。日蓮上人の出生地）



263



262



264

○国尽張文図会・東海道十五ヶ国（続）

262上 .. 上総（白里海浜へ九十九里浜）

下右 .. 常陸（筑波山。山頂は二峯にわかれ、西が男体山

（左）東が女体山

下左 .. 下総（真間の紅葉。市川の弘法寺近辺）

263 東山道八ヶ国

右上 .. 近江（琵琶湖竹生島での琵琶の名手平経正。木曾

義仲征討の戦勝祈願）

左上 .. 美濃（養老ノ滝）

右下 .. 飛騨（籠わたり）

左下 .. 信濃（木曾名物の「お六櫛」はお六という女が工

夫したものと伝える）

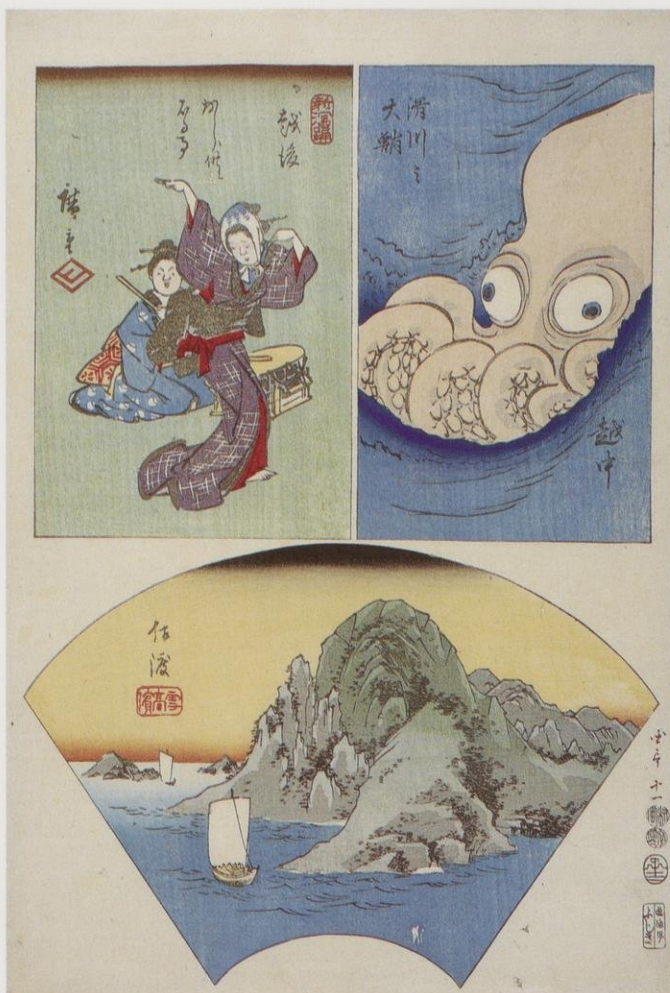
264 右 .. 上野（中ノ岳。越後三山の一つだが、上野側の眺

望だからか）

上中 .. 下野（那須野原の玉藻前。妖狐が化けた美女で、

射殺後もその霊は殺生石となり、近づくと人や獣を

悩ましたという）



266



265



267

- 上左…出羽（名産の秋田大漆）
 下左…陸奥（松島）
 265 北陸道七ヶ国
 右上…若狭（名産品の干し鰯）
 左上…越前（雲丹取り。これも名産）
 右下…能登（輪島の日和山）
 左下…加賀（安宅ノ関で弁慶が勧進帳を読み上げる名場面）
 266 右上…越中（滑川の海に棲むという大蛸）
 左上…越後（新潟踊り）
 下…佐渡（雪高浜）
 267 山陰道八ヶ国
 右上…丹波（大江山。鬼が棲んでいたという岩山）
 左上…丹後（天ノ橋立風景）
 右下…但馬（鷹浜）
 左下…因幡（白井権八。歌舞伎で知られる権八はもと鳥取藩士。同僚を殺して江戸へ出て吉原で小紫と知り合う）



269



268



270

○国尽張交図会・山陰道八ヶ国（続）
 268 右上…石見（高津川）
 右下…出雲（歌舞伎の始祖とされる出雲ノ於國）
 中下…伯耆（美徳山）
 左…隠岐（西ノ島、焼火神社の祭礼）

269 山陽道八箇国

右下…播磨（須磨ノ浦を歩む在原行平。業平の兄で、この地の海女の姉妹松風・村雨との恋物語が有名）
 中上…美作（神代祠）
 左上…備前（名産品「備前焼」）
 左下…備中（豪溪）

270 右上…備後（尾道の娼家）

左上…長門（赤間ヶ関〈現下関〉風景）

右下…周防（室積の陸繋島）

左下…安芸（宮島の鹿）

271 北海道六ヶ国

右上…紀伊（高野山の苅萱道心。石童丸伝説での石童丸の父、俗名加藤左衛門繁氏は筑前苅萱の武士だったが、俗世のあさましさを嫌って出家、高野山に入った）



272



271

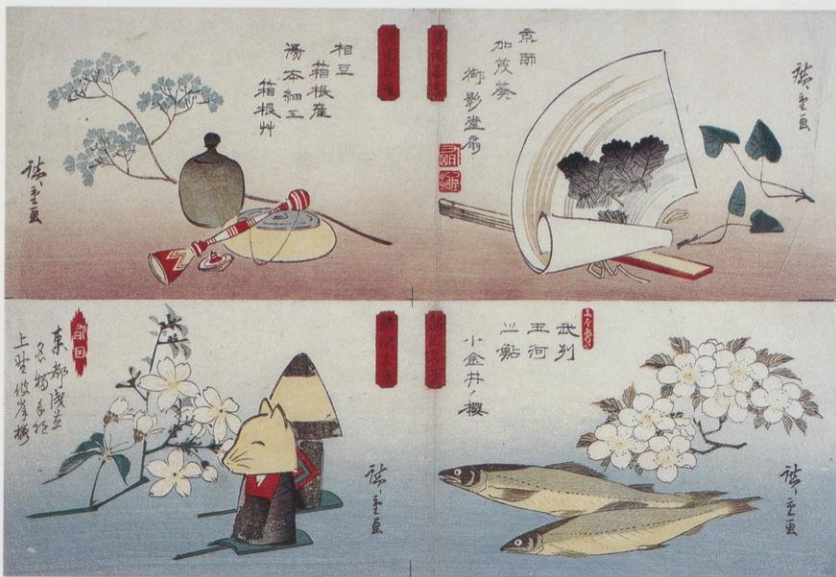


273

- 272 西海道九ヶ国
- 右…筑前(大宰府天満宮の飛梅)
- 中上…豊前(宮本武三四、岸流島の決闘)
- 中下…筑後(高良山)
- 左上…豊後(養崎)
- 左下…肥前(長崎丸山の遊女)
- 273 右…肥後(鼓ノ滝)
- 中上…日向(盲目の悪七兵衛景清。平家の勇将景清は平家滅亡後も源頼朝をつけ狙うが捕えられて日向国に流され、盲目の流人となり、「日向勾当」と名乗る。謡曲・歌舞伎等の主人公)
- 左上…大隅(桜島)
- 左中…薩摩(名産の煙草葉)
- 左下…貳嶋(貳岐・対馬(和多都美(海神)神社))
- 中央…阿波(鳴門の渦)
- 左中…伊予(峯越の鴨獵。晩秋、北から山の尾根を越えて飛んでくる鴨に網を投げ上げ捕えるもの)
- 左下…土佐(名物の堅魚節)
- 右下…讃岐(丸亀船。俗称金毘羅船)
- 左上…淡路



277



278

○墨摺張交絵 大判
 274 右 .. 滝に松
 中上 .. 栄螺に魚籠
 中下 .. 水草に魚
 左 .. 柳に蝙蝠
 275 右上 .. 亀
 右下 .. 枇杷
 左 .. 松
 276 上 .. 富士山
 下 .. 筑波山



275



274



279



280

- 諸国名産 大判 有田版
- 277 右上…勢州桑名産 焼蛤
 左上…東都亀戸産 鷺木・臥龍梅
 右下…京師 清水焼・地主ノ桜
 左下…東都 王子土産・飛鳥山の花
- 278 右上…京師 加茂葵（賀茂祭りの双葉葵）・御影堂扇
 左上…相豆箱根産 湯本細工（箱根細工）・箱根草（箱根羊歯）
- 右下…武州 玉河の鮎・小金井の桜
 左下…東都 浅草名物手遊（玩具）・上野彼岸桜
- 279 右上…東都日本橋 初物（鯉・茄子）
 左上…大山土産 梅酢鑪・麦藁細工
 右下…東都 大森漬物・蒲田の梅
- 280 左下…相州江ノ嶋産 鮑かす漬・貝細工
 右上…下総 刀彌川の鯉
 左上…東都 隅田川の都鳥
 右下…東都初卯土産 卯槌・蘭玉
 左下…東都 今戸の梅・名産焼物（今戸焼）



276

俳諧日本名所すゝ六 一立齋廣重畫

狂歌子鳥吟選
筑紫一社校合



281 俳諧日本名所双六 倍大判

狂歌連(グループ)がつくった自選作品による双六。

282 神仏納手拭(三代豊国との合作) 倍大判 錦昇堂版

江戸内外の著名な社寺百選

最上段.. 浅草観音(名物玩具)、神田明神、赤羽根水天宮、梅若塚、永

田馬場山王社(日枝神社)、湯島天満宮(湯島天神)、市ヶ谷

八幡、柳島の妙見、杉ノ森稲荷、薬研堀不動(植木市)

二段目.. 亀戸天満宮(梅と鷺木)、金杉の毘沙門、天王寺、駒込富士浅

間社、関原不動、新井薬師、芝増上寺、松山矢弓稲荷、蛸薬

師(蛸の絵馬奉納)、江ノ嶋弁天

三段目.. 川越五大尊明王、布施弁天、西新井大師、池上(本門寺)、六

間堀神明宮、井ノ頭弁天、蔵前の不動、滝ノ川、泉岳寺、西

本願寺

四段目.. 目黒不動(餅花)、平川天神、角筈の十二社権現、虎の門金毘

羅、平井の聖天、愛宕山、芝神明(千木と生姜)、白髭神社、

滝山の諏訪明神、真乳山聖天

五段目.. 上野の大師(両大師)、第六天、入谷の鬼子母神、府中の六所

明神(大國魂神社)、三田稲荷、浅草門跡(東本願寺)、三社

大権現(浅草観音の由来)、小石川白山権現、六阿弥陀(巡礼

用の杖)、白銀の清正公

六段目.. 牛嶋(向島)の長命寺(桜餅)、牛頭天王社(小塚原)、翁稲

荷、高輪の大仏、妙義大権現、三田の春日大明神、堀の内

(お祖師様)、筑土明神、多田ノ薬師、小石川牛天神

七段目.. 吾妻の森(大権現)、佃島の住吉大明神、能勢の妙見、三十三

間堂、牛の御前、王子稲荷(紙人形)、赤坂氷川明神、穴八幡、

鳥越明神、袖摺の稲荷(吉原への往来)

八段目.. 回向院、成田山新勝寺(不動明王の宝剣)、根津権現、下谷の

摩利支天、今戸八幡(今戸焼の籠)、不忍弁天、真崎稲荷、大

相模の不動(大山の前不動)、木下川薬師、雑司ヶ谷鬼子母神

(名物風車)

九段目.. 深川八幡、茅場町薬師(植木市)、洲崎弁天、黒助稲荷(九郎

助とも・吉原)、北沢の淡島明神、中山法花経寺、川崎の新田

大明神(魔除けの矢)、偷賀山、魚籃の観音、請地の秋葉権現

十段目.. 柴又村帝釈天、茶の木稲荷、広尾の毘沙門、川口の善光寺、

鷺大明神(熊手)、五百羅漢、妻恋稲荷(虫封じの祈禱)、音

羽護国寺、金杉の三島大明神、大師河原(川崎大師・土産物)

陽齋豐國画

神佛納手拭

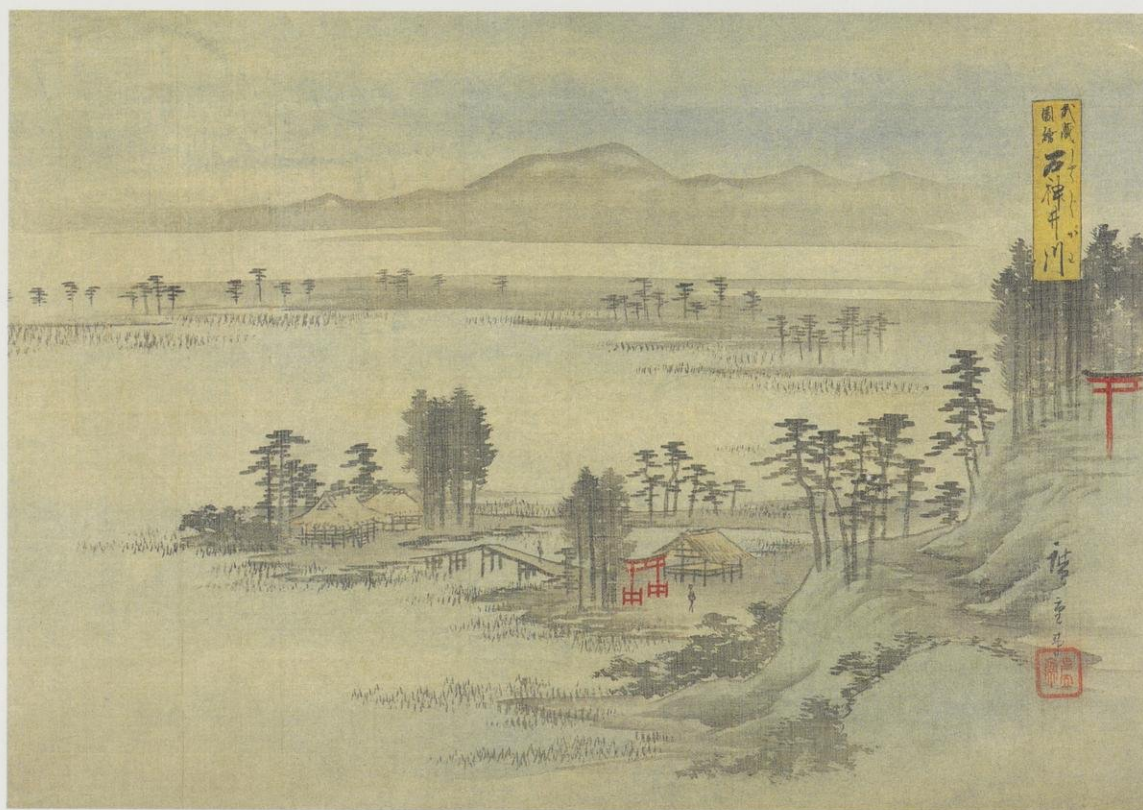
立齋廣重画



肉筆画



283



284

284 石神井川図 絹本着色

283 隅田川兩岸雪中図 紙本着色



286



285

285 武蔵十二社の滝図 絹本着色
286 龍田川紅葉山水図 絹本着色



287 美人と猫図 絹本着色



「江戸名所張交図会」第238図の墨版

Courtesy of The Frank Lloyd Wright Foundation, Scottsdale, AZ U. S. A.



「江戸名所張交図会」第236図の墨版



版木の試し摺り

○「江戸名所張交図会」の版木
帝国ホテルの設計者として知られた建築家フランク・ロイド・ライトが蒐集した浮世絵版画はヴァン・ウレック・コレクション等に四散したが、この「江戸名所張交図会」の版木は手もとに残された。その没後、長らく倉庫に眠っていたが、一九九二年に再発見され、この貴重な版木を使ってアダチ版画研究所が新しい広重作品を摺り上げ、話題を呼んだ。

歌川広重の作品とその生涯

歌川広重は武家の出身であった

浮世絵師のなかで、武士の家に生まれた者は少ない。わずかに、幕府勘定奉行細田丹波守時俊の三世時行の長男として生まれ、十代將軍家治に近侍し、五百石の家祿を食んだ鳥文斎栄之、晩年法橋に叙せられ、武江薬研堀隠士と称した土屋家の浪人磯田湖龍斎などなどがあるが、広重もその一人である。広重関係図をみれば、百五十石の田中家を三代前にもつ家系で、広重自身も八代洲河岸の武家屋敷に呱呱の声を上げている。そして二十七歳まで、三十俵二人扶持の定火消同心に在職していた。寛政九年に生まれた広重の幼少年期は、この点恵まれた日々であったといえよう。それに天性画を描く才能にも恵まれ、十歳で琉球人入貢の行列・富士と松原を描いたとみられる絵も存在している。

広重出生後の恵まれた日々にも暗い影がさした。十三歳の時、二月に母を失うとともに父が職を退き、火消同心を広重は継ぐことになるが、同年十二月には父源右衛門も没し、この歳で両親を失う。この悲しみを乗り切るように絵の道に興味を深め、ついに十五歳にして歌川豊広の門に入る。豊広は質実な筆法と高尚な画品を保持する浮世絵師で、広重の画風を決定させたよき師匠であった。翌年、豊広から許しを得て、豊広の「広」と重右衛門の「重」をとり、歌川広重と名乗る。広重の処女作として知られる作品は、文政元年（二十二歳）のもので、「中村芝翫の平清盛と中村大吉の八条局」の役者絵をはじめとして、武者絵、美人画などさまざまな画題に挑戦している。

「風流五ツ雁金」（184図）はこの頃の作品で、狂歌師とタイアップして描き、画風も英泉などの当時流行の美人描写になっている。落款と桜花形の象形印もこの時代だけにみられるものである。風景画を本

格的に描くまでの美人画としては、前の作品よりやや時代が下る「江戸自慢」（185図）もあるが、この時代の広重は「若女絵」師としての評価を得ている。

文政期の広重には二つの著しい出来事があった。同六年（二十七歳）の時、火消同心職を退隠、安藤家の仲次郎に家督をゆずり、絵一筋の生活に入る。その五年後（同十一年）師豊広の死に遇う。そして間もなく「一幽斎」という齋号を名乗るようになり、天保時代に入るのである。その天保期のごく初めには「魚づくし」（181～183図）などのやはり狂歌師と提携し、いきいきとした魚の生態（183図）を描出している。その他大短冊の花鳥画（170図）などにも新しい目を向け、花と鳥と詩歌を叙情的にまとめ上げ、以後の広重の風景画の風情を暗示する傑作を残している。広重の花鳥画はそのまま、豊広なきあと自己独立の宣言とも思われる「一立斎」印を使用した「月二拾八景之内」（169図）にも導入され、風景画への本格的活動期を迎えることになる。ここで注目すべき事項は、この同時期に北斎が彼の最高傑作といわれる「富嶽三十六景」を出版しているということである。これに呼応するごとく広重の風景画への出発がはじまるのである。

広重の風景画はじめての大判シリーズは川口正蔵版・一幽斎広重落款の「東都名所」（129～131図）で、銅版画風の血のような雲をただよわせ、周囲に模様の縁をつけ、特に佃嶋（129図）では帆柱を前方にくつか大きく立てて、画面構成に新しい味を試みている。その前後の小品ではあるが「江都八景」（122～125図）は扇形に風景を描き、「江戸十二景」（126～128図）は四丁掛であるのが貴重で、「豎雲形」に表題を記すのにも変わった趣向を見出す。

天保三年（三十六歳）の秋、広重は幕府恒例の八朔（八月一日）御

立正大学教授
日本浮世絵協会理事長

山口 桂三郎

馬献上の一行に参加して上洛、東海道を往還することになった。広重が武家出身の浮世絵師ということによって白羽の矢が立ったと考えられるが、幕府が朝廷に關東の駿馬を献上する様を描かせるためであった。この体験をもとに保永堂版「東海道五拾三次之内」(2図)五十枚を天保五年に出版する。その序文に「まのあたりそこに行たらむこち」にさせる内容とあり、生々しい新鮮な感覚は爆発的な売行きをもたらし、広重は浮世絵界における不動の地位を確実に手に入れることができた。大名行列ではじまる日本橋(2図)は早朝の魚市を下地に江戸っ子の意気を示し、大磯(8図)の雨はぱらぱらと降りはじめ、庄野(56図)は風と雨を伴った激しい俄雨を、土山(64図)ではじつとり重たく降る春雨を、雨景にも各々変化をもたせて描く。モザイク状の岩の箱根(15図)、画面から飛び出す、朝日を浴びた巨大な富士の原(22図)、東海道の難所の薩埵峠の絶壁から真白の富士と広々とした大洋をコントラストよく描く由井(29図)、大きく舞い上る馬子たちの焚火に感ずる庶民の憩いと旅情が冬枯れの野に暖かさを感じさせる浜松(41図)、大鳥居を前景にこのシリーズ最大の喧嘩画面を作成した熱田神宮の祭事を描く宮(45図)、合羽の裾をはたはたとなびかせる、ころげゆく笠を追う旅人、風の描写をこれ程までに描出した作品は他に見出せない四日市(51図)、しんしんと降りやまぬ雪に埋もれる無音の夜の蒲原(28図)、昨夜の降り積もった雪も見事に晴れわたり、清浄な朝の空気に赤い日の影が雪を次第に染めてゆくなかに大名行列が静かに城に向かって登ってゆく亀山(57図)。いずれも屈指の名作で、人と自然がおりなす風景の詩情を美事に描き尽くしている。

この後広重は東海道シリーズを続々と刊行、その数は二十を超すほどで、種々の変化をもたせた内容は興味深いものがある。年代順にくつかを記載すれば、狂歌を画面に記入したもの(6図)、表題を行書で書いたもの(5図)、隷書で書いたもの(4図)人物を大きく扱ったもの(3図)、以上は横長の画面形式であったが、縦長の形式にしたもの(1図)、張交絵にしたもの(24図)などあるが、この他に天保末年の八ツ切(山庄版)、天保十二年刊行の千社札、弘化年間の豆版(大判一枚に二十図を入れた三枚揃——上金版)、四ツ切(有永堂版)、風景と戯画風人物を配した細見図会(村鉄版)、嘉永年間に入り美人を中心にしたもの(藤慶版)など多彩をきわめた。そして没年の二年前、山口版の「東海道五十三次図会」(竪十五枚揃)など風

景より土地の名産、故事などを主として取り上げた作品で終りをとげている。

横絵から竪絵へ、風景から人物・物語へと、修飾が多くなるにつれて、画品の低下、印象の薄らぎは覆うべくもないが、広重の制作内容の移ろいを、多くの東海道シリーズは如実に示している。このシリーズで、最初の作品保永堂版が一番優れているのは、実際に見聞きした体験をもとに制作されたもので、以後は理論的な構成によって描き続けられたという違いが、作品の感銘を著しく異なるものにしたのであろう。

この東海道シリーズの誕生については、多くの道中書が、これ以前に刊行されていることは忘れられない。寛文六(一六六六)年の『東海道路行之図』をはじめとして、貞享二(一六八五)年刊の貝原益軒の『木曾路之記』、元禄三(一六九〇)年『東海道分間絵図』、ぐっと降下して宝暦五(一七五五)年の『東海道巡覧記』、同六年の『岐蘇路安見絵図』、これに寛政九(一七九七)年秋里籬島の『東海道名所図会』は特に好評を得るが、それ以上に喝采をもって迎えられたのが、享和二(一八〇二)年十返舎一九が書いた『東海道中膝栗毛』初編の刊行である。また、文化二(一八〇五)年の『木曾路名所図』をはじめとして、『旅行用心集』『道中独案内』などおびただしい旅行案内書が刊行され、旅行は空前の盛況をきたし、旅は憂いもの辛いものとの観念は消えさり、人々に旅へのいざないをかりたてたのである。このような環境のなかで、保永堂が「東海道五拾三次之内」につづく街道物の第二弾を企画したのは当然であった。そこで東海道を通過せずして、江戸から京都へいたる道は、中山道によらざるを得なかったこの道筋の「木曾海道六十九次之内」を刊行することになった。陽光の輝く海辺の東海道にくらべて、山また山、特に木曾十一宿の谷道は狭く、田畑も少い上に、旧暦三月頃になってやっと恵那の山々の雪が溶けはじめ、人の往来が多くなるこの地方は、住む人に常に貧しい生活がまっていた。

浮世絵の三大テーマは、美人画・役者絵と風景画である。浮世絵そのものはその時代時代の人間の生活を描くことが特色であり、人物描写が主になっているのは当然といえよう。文化・文政(19世紀初頭)頃までは、美人・役者のジャンルが中心となつて、その流れを構成してきたが、以後幕末の動乱期を迎える頃になると、その主流は日本の社会の頹廢ムードをよそに見て、いまだその美しさを失わない日本の

風土を描く風景画に変わってゆく。美人画の歌麿・役者絵の写楽に代わって登場してくるのが風景画の鬼才北斎とそれを受けついで叙情豊かな作品を作成した広重である。北斎はあくまで合理主義により理づめで構成する画面をとったが、広重はあくまで人の心に感動を与える哀愁の情を表出して癖のないすなおな自然描写をモットーとした。風景画の三大シリーズを取り上げるならば、まず北斎の「富嶽三十六景」全四十六枚と広重の「東海道五拾三次之内」全五十五枚、そして焚火によって樹木の明暗をわけ、馬子と客が互いの煙管で火を移しあう、静寂と旅愁を憎いほどに描出した「軽井沢」(71図)を含むこの「木曾海道六拾九次之内」全七十一枚であろう。北斎は非凡な個性の強さで風景画の開拓者としての地位をほしきままにした。人間皆無の「山下白雨」「凱風快晴」などの作品が北斎にはあるが、広重の作品はいつも人間描写を風景の中に溶け込ませ、風景と人の協調した画面さらに自然現象——風・雪・雨をそれに加味することによって人間の詩情をかきたてていることに注目すべきである。

保永堂は「木曾街道」の企画で、はじめ広重としたが、当時一流の評判高い英泉に白羽の矢をたてた。そして天保六年(一八三五)英泉筆によって出版が開始された。しかし二年経過した頃英泉はこのシリーズから手を引くことになる。どのような理由があったのか判然としないが、「日本橋」から「本庄宿」まで連続した英泉は、あと飛び飛びに描いている点から、版元が宿駅順に描き売り出していこうとしたことに従がわなかった英泉は、版元と折合いがつかなかったのではないかと考えられる。英泉のわがままな気性がわざわいとなったのである。このシリーズで二十四図だけを描いた英泉のあと、広重が登場してすべてを完結する。この広重採用については新しい版元錦樹堂が参加することになる。保永堂は「東海道」であてたといっても、版元仲間では新しく、老舗とはいえない立場で、「東海道」でも当時の一流版元仙鶴堂の助けがあつて完結していることから、「六十九次」の長シリーズでも経済的な重みがあつたのかも知れない。

そして保永堂と錦樹堂の共版が開始されるが間もなく保永堂は手を引き、錦樹堂が一人で広重を道づれに最後まで続ける。広重は、「中津川」だけは同じ風景の場所でない雨と晴の、全く違った原画を二つ描いている他に、「大津」で結び、「京都」を描いていない。そのため「中津川」の雨と晴の二枚を入れて、このシリーズは七十一枚の作品でまとまり、英泉は全体の三分の一を描いたのみにとどまっているこ

とになる。

広重がこのシリーズに参加したのは天保九年で、完成したのは、画にある改印「極」印が消える天保十三年十一月以前ということになる。

このように複雑な問題をからんだシリーズを単独で最後の完成にこぎつけた錦樹堂はある時期に一括して版權を錦樹堂へ移譲してしまう。錦樹堂は一部改刻をし(保永堂から錦樹堂に移した時も英泉の落款を取り除くなどの改刻があつた)、さらに雨の「中津川」を除いた全七十枚の作品を画帖仕立てにして売り出した。その時の包紙の表には、「六十九次 木曾海道続画 故人溪斎英泉 現在一立斎廣重筆」とある。

英泉は嘉永元年に没するので、「故人」からそれ以後の時点に売り出されたと思われる。そしてここに含まれている二十四の英泉作品からはその落款がすべて取られていて、英泉が版元と折合いがいかに悪かったかを見せつけられる感じである。三人の版元と二人の絵師がこのシリーズに関与し、その出版も単独・共版ありでかなり複雑な事情を含んだシリーズといえる。

保永堂「東海道」でスターダムにのし上がった広重は、「木曾海道」の力作を完成するまでの期間に、その名声にそむかぬ名作を次々に発表していった。まず「近江八景」は俳画風の感覚で画面を処理し、墨の味わいにしつとりと降りしきる雨を描出した唐崎夜雨(76図)は傑作である。

近江八景は中国の瀟湘八景にちなんだもので、琵琶湖南面の八つの景勝地を描いているが、これは明応九(一五〇〇)年関白近衛政家・尚通父子の詠んだ和歌によるといわれる。湖の西、比叡山の北にある比良山(暮雪)、大津市の北、湖中に突出している浮見堂(大徳寺の末寺海門山満長寺)で名高い堅田(落雁)、堅田の南で、日枝神社の末社があり、大きな松樹で有名な唐崎(夜雨)、大津市の西北、天台宗園城寺の別称で、古来から鐘で知られる三井寺(晚鐘)、瀬田川の中央に小島があり大小二橋にわかれていて瀬田唐橋——または長橋——(夕照)、湖水から瀬田川へ下がり、長橋をすぎるとほどなく右岸にある石山寺(秋月)、大津から石山にむかう途中、木曾義仲が深田にはまって戦死した栗津(晴嵐)、瀬田の北にあって漁港としてさかえた矢橋(帰帆)と、瀟湘八景の情景の語と琵琶湖八つの勝景地が組み合わされてきている。

広重の「近江八景」八枚揃のシリーズは二十にも及ぶ。布吉版は表題を紅地の短冊形の枠で描かれている色摺もあるが、ここでは墨摺の作品(82・89図)になっている。有永堂版の「矢橋帰帆」(79図)は「さざ波や春風乗せる渡し船 新樹園貞月」、「比良暮雪」(78図)は「雪くれて道の^するや比叡おろし 萬葉園貞花」と俳句をまじえての画面として面白味をだしている。表題も八枚のうち四枚を「あふみ八景」としている。魚栄版(80・81図)は上方の雲形に源氏模様を散らしてその中に古歌を記す。安政四(一八五七)年三月制作である。ここにも種々趣向をこらした作品群がみられる。

栄川堂版の「京都名所之内」・「浪花名所図会」も、保永堂「東海道」の出版された天保五年頃に出版されているすぐれた作品である。前者は十枚揃で、月下に淀川を行く乗合船に食物などをもつて売りにくる「くらわんか舟」を描きさえ、詩情豊かな画面のなかに庶民の生活がにじみでている。「淀川」(90図)、京都東福寺内の通天橋の下、川の流れたかたわらに床几をしつらえ紅葉狩をする人々の宴を描く「通天橋ノ紅楓」(91図)が美しい。この取材の大部分は、竹原春朝齋の『都名所図会』や西村中和他の『都林泉名勝図会』によってはいるものの、広重独自のものを描出している。

後者も十枚揃で、全図とも春朝齋の『撰津名所図会』の挿絵を下敷きにしてある。風景より人物に焦点を当てている点、広重の名所絵中異色の作品といえるが、大坂という商業地の活気に溢れた雰囲気は十二分に描かれ、官許の遊廊新町のなかにある九軒町は玉造九軒茶屋から引き移された命名で、その豪華な道中は華やかであり(93図)、幟や櫓がみえる繁華な大小芝居小屋がひしめく道頓堀の南側一帯で、そこへ往き来する橋上の人々の群像(92図)、画面の枠外に砂子を散らすのもこの作品の特色である。

天保三年頃「駿州富士川渡船之図」「相州江ノ嶋岩屋之図」「相州七里ヶ浜」(95図)の三図を描き、その他の作品を天保九から十年頃に描き上げた「本朝名所」は十五枚揃で、特に「七里ヶ浜」と「岩屋」の波の描写がすばらしいフォームをみせている。

天保十年十月二十三日、広重の妻が没した。文政四年頃結婚し、約二十年にわたって連れ添った妻の名は不明であるが、広重より五代目の火消同心安藤勝蔵が慶応二年に組頭へ提出した「親類書」によると広重が前につとめた火消同心と同職の岡部弥右衛門の娘であったとい

う。広重はこの後間もなく、といっても二、三年ののち後妻お安をめとる。お安は遠州新野村百姓嘉右衛門の娘で、明治九年十月二日に没した。広重没後の養女お辰(江戸智香寺住職了信の娘)は二代広重から離婚し、三代広重と再婚するなど家庭内のいざこざで苦労したようであるが、なかなか確りとした気性であったという。それに比して広重の先妻はきわめておとなしく温順な人であり、気だての違った妻をめぐり、年齢は十五、六歳も広重より若かったようで、食道楽で行楽が好き、交際も好き、人に振舞うのも好き、気の向かぬときは幾日もブラブラとして筆ももたず、気配なそして家計に無頓着な広重の面倒をよくみていた。春永(春の日永の意)の綽名をもった春気ともみえる広重と勝気なお安、そして六歳で養女になった——広重没時は十三歳——おとなしいお辰との三人生活が広重の晩年であった。

旅をテーマにした作品の多い広重も、あまり旅には縁がなく、お安と再婚したと考えられ、立齋の齋号を初めて使用した頃、天保十二年四月二日江戸を出発、甲府や身延山にまで足を運んでいる。天保三年に東海道を往還してから最初の旅のようである。この三年後房総鹿埜山へ、その翌年福島安達百目木、さらに嘉永五年二月二十五日から三月八日にかけて、上総鹿埜山のみにとどまらず、このたびは小湊誕生寺、清澄山(日蓮の旧蹟)より西海岸の鋸山、保田(菱川師宣の旧蹟)へ遊んでいる。また嘉永元年に信濃飯田へも行ったともいわれているが不確かである。

住居はお安と再婚した頃に大鋸町へ、四年後常盤町へ、その三年後嘉永二年には中橋狩野新道に移転、ここが終焉の地になった。北齋の転居回数とは比較にならないが、知られるだけでも三回は移っている。

江戸は日本最大の城下町、生産から遊離した武家の消費都市であった。幕末天保期には江戸二七〇余町にふくれあがり、人口も百万を突破する大都市であった。しかし天保二年から同十一年にいたる十年間は、幕藩体制下における悪徳商人の米の買占め、役人の不正、凶作の連続による打毀しの激発、農民一揆の一つの頂点になった時代でもあった。しかしこの混乱期のなかの江戸消費経済は虚像の繁栄であり、封建文化は爛熟と頹廢で、あたかも夕映えの美しさにも似た世相を現出した。このような社会にあって武蔵野の一隅に位置した江戸の風土はあまり心地よいものではなかった。「土薄く、水浅くして湿気強く、土は灰の如くにして、雨天には泥中を歩むに異ならず、夏は日中の暑さ

ことに烈しく焼くが如し」の『江戸自慢』は幕末の江戸をあらわしている。さらに冬は寒さのため山の手は霜の柱がたち、それが溶けて道がぬかるみ、晴天には風吹かぬ日はなく、強く吹く日には衣服、足袋は汚れ、眼をあけて往来することもできず、埃り眼鏡というものを売っていたとも記す。しかし広重の江戸風物の描写は、江戸の自然とそこに住む人々のしつとりとした情緒を浮かびあがらせ、江戸の繁栄と平和を地方の人々に紹介した。

広重の描いた「江戸」は、市中と郊外を合わせて一五二ヶ所をこすと記す石井研堂によると、両国65、隅田川60、高輪53、浅草46、新吉原45、上野38、洲崎38、御殿山35、日本橋32、飛鳥山31がベストテンという。広重が取材した範囲は中心部が最も多く、東は江戸川、西は多摩川、小金井、南は羽根田、北は王子、また鴻ノ台にまで及ぶ広い範囲で、その総数は一三〇〇点ほどのぼり、三十余軒の版元がかかわっている。時期的には天保十年から弘化年間に及ぶ八年間が最も多く、次いで天保二年から五年にかけて多作した。広重最後の作品となった「名所江戸百景」まで約百種類に達する江戸名所絵は、広重が一生描きつづけたものといってもよいであろう。

広重の江戸名所のなかで最大のシリーズは、全作品一一八枚の「名所江戸百景」(148-155図)で、広重が法体になった安政三年から刊行をはじめ、二年有余で未完で終わっている。初代没後二代広重の補筆によって完成し「一立斎広重一世一代江戸百景」という目録がそえられる。「大はしあたけの夕立」(149図)は沛然と降る夕立、隅田川の藍と黄色がかかった水面はその激しさをよく色彩であらわし、細いこまかな雨足と橋上を走る人々の姿態が面白く描かれ、ヴァン・ゴッホが油絵でこの絵を模写したことも有名である。「浅草金龍山」(153図)は雷門の大提灯を近景の画面一杯に吊し、その隙間から群集や立木・堂塔を描き出している。このような画面構成に奇抜さをみせるのは、広重最晩年の作品にはかなり見受けられる。すなおな画面を主とする広重が、このような構図の作品を描くのは本来のものではなく、版元の要請によるものと考えられるが、広重の逸話のなかに、版元に広重の色彩が薄いといわれ、よしなく広重は強烈な色彩を使ったが、これを知人にこぼしていたという。表題や落款の地の真赤な色は広重の意に反して使用されたと考えられるが、明治版画が「赤絵」といわれるように、この赤を全面的に使用した版画となるが、その先触れになったともいえよう。まことに皮肉なことである。「赤坂桐畑雨中夕けい」(150

図)は落款にみられるように二代広重の作品で、霧に煙る中景とシルエットの遠景で、初代作品のシリーズを補筆した秀作である。

「行徳塩浜之図」(163図)は絵半切という薄彩色の絵を摺った書簡用箋で、奉書を横に二つに切った大きな作品。この絵の上に墨で手紙を書くが、それに邪魔にならないように摺り出している。消耗品のため遺品として珍重される。江戸川下流の右岸(東京側)、塩の産地と知られ、現在の市川市。広々とした澄んだ海浜と塩田、それに千葉県の大塚山あたりが遠くにくつきりと姿をみせ、東京湾の今昔をひとしお感じさせる。

江戸の町中から郊外——「江戸近郊八景」(161・162図)——そして街道物、諸国名所絵と次第に描く範囲を拡げ、ついに「六十余州名所図会」の作品に到達する。畿内と東海道をはじめとする七道六十六ヶ国に吉岐・対馬を合せて描いた六十九図——武蔵だけ隅田川雪の朝と浅草市があり二枚——に目録が一枚加えられ全七十枚で完結している。多くの名所図会を典拠として描かれているため平凡な作も多いが、「美作 山伏谷」(100図)は強風雨を巧みに描出、「阿波 鳴門の風波」(102図)は奇抜な構図をみせ、シリーズ中屈指の傑作である。

江戸に住む人々は心の拠り所として、朝夕に富士を拝んでいた。江戸の諸所に小山を築き富士登山の行事をなした富士講の存在は、北斎に名作「富嶽三十六景」を描かすことにはなったが、広重も甲府へ出向いた時の犬目峠の富士眺望が忘れられなかったのか、二つのシリーズ「不二三十六景」(中判横絵)「富士三十六景」(大判縦絵)を描いている。

広重没後の出版である『富士見百図』(小絵本—安政四年の年月印をもつ)には、広重の自序があり、

「葛飾の己翁先に富嶽百景(天保五年初編刊行)と題して一本を顯すこは翁が例の筆才にて草木鳥獸器財のたぐひ或は人物都鄙の風俗筆力を尽し絵組のおもしろきを専らとし不二は其あしらひにいたるも多し此図は夫と異にして予がまのあたりに眺望せしを其儘にうつし置きたる草稿を清書せしのみ」

とあり北斎を意識しての作とみえ、富士描写についての日頃の広重の心境を吐露している。

広重の美人画は前期—文政から天保初年—(184・185図)と後期—嘉永頃—(186・188図)の二期に分かれる。

前期は英泉その他当時の美人画に影響を受けた姿態であるが、後期

はすらつとした広重独自の雰囲気をもつものである。広重はある時「人は背がもつと伸びなくてはならない。だから自分は普通、五尺の人間とすれば、それを五尺五寸の見込に描く」と語ったというが、後期美人画の姿態はこの言葉から推察ができるが、その上風景と融和させた独自の境地に立っているのが特色である。

広重の肉筆(283-287図)は、四条派から南画・狩野派の筆法も習得した軽快自在な筆さばきを見せている。出羽天童藩からの依頼で多くの肉筆画を制作したこともあり、性格を如実に示した謹直な肉筆画には武家出身の感じがよくでてくる。

さて最後にふれなければならない広重の画題に「戯画」と「張交絵」がある。前者は滑稽・諧謔・好笑・諷刺などを内容とした作品で、「浄るり町繁花の図」(211-217図)などはよほど音曲に通じていなければ理解できず、それを当てさせて楽しませる狙いがあったのであろう。「童戯武者尽」(218-224図)は昔の有名な武者物語を面白く見立て、これも当てる楽しみがある。

「張交絵」(227-276図)は種々の絵画を適宜に交えて貼ったもので、いくつかの形の変った絵を集めて一枚の絵に仕立てるもので、絵の内容の面白さもさることながら、組合せの妙が見どころである。広重晩年の作画は、あらゆる画題と形態のなかで行われるが、それを駆使した作品で、英泉など他の絵師も張交絵を描いたが、広重の作品は二十シリーズも数えられる量があり、内容も広重の右に出る絵師はいない。今度その江戸期の版木がライト・ファウンデーションから里帰りし、数種類にわたる張交絵シリーズを一堂にみられることは、浮世絵ファンの垂涎の挙である。

広重は安政三(一八五六)年三月二十八日に「薙髪のかい」をもち、法体となった。六十歳の還暦を迎えてのことであろうが、それから二年、安政五年九月六日晩に黄泉の客となる。この年夏から秋にかけてコレラが大流行した。武江年表は「八月朔日より九月末迄、武家市中社寺の男女、この病に終れるもの凡そ二万八千余人、内火葬九千九百余人なり」と云ふ。実に恐るべきの病也」といい、その病状は「大かたは即時に嘔気を催し、吐瀉して後続けて瀉痢をなし、手足厥冷し寒瘕痺れて企踵に絶命す。稀には数刻の後蘇生せるもありける由、多くは天札の輩にして、老人に尠く又小児にも鮮し」とある。

広重の遺言書は二通あり、その一つは九月二日、他は九月三日の日

付になつており、ともにしつかりとした筆致で、三日後にコレラで死ぬ人物のものは考えられず、「老人に尠い病」であつた記載もあり、コレラ死亡説には疑問を抱く理由は十分にある。三代広重の話によると「十日前からブラブラして床についた。熱病であつたが、吐瀉も下痢もなかつた」という。二通の遺言書は次の通りである。

遺言書(その一)

居宅を売払ひ住久殿の金子を返済いたし候やふ頼入候 本類諸道具も売払ひ何方なりとも 立のき身に成人と相談の上ともかくもよろしく振合付申候を申も 金次第其金といふものがないゆへ 我等存寄なんにもいわずとふとも かつて次第身の納りよろしく勘考いたさるべく候 絵の道具写し物下画の類は名取の 弟子中へ振分かたみに遣はすべし 撰舎おりんには有合の着類わけ遣す べし 重宣は久しく隨身いたし候事ゆえ ゆつりもの必付申べし脇差 武本のうち壹本どちらでもやる也 死んでゆく 地ごくの沙汰は ともかくも阿とのしまつが金しだいなれ 九月二日

遺言書(その二)

古歌 我死なば やくなうめるな 野に捨て うへたるいぬの 腹をこやせよ 此心持にて手がるく野辺 送りいたし申べし 江戸市中の住居ゆへ 近所に捨るやふな野も なきゆへ寺へやりて埋め て貰うばかり必 見へやかざりは無用也 ゆかんもいらぬ事 なれども世間のならぬゆへほんの 真似事ばかりさつと 水をかけおくべし 寺へ持行穴へ納れば 桶でも瓶でもふたを 打わり上から泥を押込ゆへきれるに洗てやる など と手数を懸るは誠にむだ な骨折ゆへ決而御無用也 頭はかねて坊主ゆへこう ずりも まねばかりでよし 但し 戒名は是非院号付に いたす べし尤金子は寺にて 振合を聞候て差出し可 申事りんしよくはわるし むだははぶくがよし 通夜の御人には御馳走 いたすべし 寺は浅草東岳寺へ納べし 葬式は武家の風にいたすべし 乍去様子次第無據人ばかりにて 夜分こつそり極内葬にいたし 置追て本葬と披露いたし置ても出さぬでもよし 寺で出す蒸物は出すべし 極内葬なら武家風も何もいらすさし荷ひでよし 九月三日

この広重の遺言書は興味ある事柄を示している。

遺言書その一つについては、当時まだ十三歳の養女お辰がおり、のちの身の振り方に、本類諸道具も売払い、何方なりとも立のきなさい。大体金というものがいないことは、自分等はよくお互いに知っているので、自分は何んともいわないから、どのようにでも勝手次第にして、身の納りよろしきを考えなさいといっている。冒頭「居宅を売払ひ」とあるので、広重は貸屋住いではなく、自分の家を持っていた。越前屋から百両貸りていたという。広重の家の間取りは8畳・6畳・4畳半・3畳の他、二階に一間あり、階下は廻り縁になっていて、庭も広がったようである。「住久殿」に金子を返すようにとあるが、この人は誰であるかわからず、越前屋関係の人かもしれない。「撰舎おりん」については、林美一の『広重と歌麿』に「この二人は妹さだの子らしい」と述べている。「重宣」は、二代広重をついだ者で、久しく隨身していた愛弟子であっただけに、讓物に関して特に心配りがみえている。重宣は広重没の翌年お辰と結婚する。

遺言書その二には、「頭はかねて坊主ゆへ」とあり、安政三年三月剃髪してから約二年、世のしきたりにこだわること無用と考えるようになったのであろうか、だいた極端なことを遺言書ではいつている。納棺前に死体を沐浴さす「ゆかん」も無用であるが、それも世間の習いでほんの真似事程度に水をかけてすませなさい。どうせ寺へ持つてゆけば、穴に入れて桶でも瓶でも蓋を打ち割って泥を上から押込めるゆえ、綺麗に洗うことは骨折損で無用の事であるといひ、こうずりも真似ばかりでよいといっている。しかし画家になったといつても、武家風の葬儀にしろ、院号をぜひつけてもらいたいの希望を持つていた。無駄ははぶいてもよいが、吝嗇、所謂けちはいけないといっているのも、広重の見栄をはらない性格がにじみ出て、柔順な広重の画風ともよく合致している。ごく内葬にするなら武家風でなくても、「さし荷」——一人でなつてゆく最も簡単な仕方でよいといっている所などは、やはりあれ程の絵師広重でも金には裕福でなかったことが、やはり気になっていたようである。

なお古歌「われ死なば……」は、平安初期の嵯峨天皇の後、世にいう檀林皇后の辞世の歌として知られている。皇后は、中国僧の義空禪師につき坐禅を行い、日本で坐禅を正式に行った最初の人といわれる。広重の戒名は、遺言書の希望通り、東岳寺の過去帳によると院号がつけられ、「顕功院徳翁立斎信士」になっている。浅草東岳寺は現在、足立区伊与町前沼一二一〇に移転して、広重の墓は健在である。

広重が死ぬと、すぐその月のうちに三代豊国が死絵(288図)を描き、魚菜から出版した。

法体の頭に「ヒ」「ロ」の二字を組み合せた紋をつけ、夏羽織をつけ、数珠を右手に座布団に坐る広重の顔は実直ななかにやさしさが浮かんでいる。「思ひきや落涙ながら」と署名に肩書きし「起煙一空」の雅印を押し次のように記す。

立齋廣重子は歌川家の元祖豊春の孫弟子にして 豊廣の高弟なりけり今の世の 豊國國芳ともに浮世繪にて此三人に かたをならぶる者なし 常に山水のけしきを 好み又安政三辰の年より江戸百景をか、れ目の前に其けしきを見る如く 猶又狂歌江都名所圖會を撰み此圖を頼みしより其月／＼に あらはす出板摺本の圖取見る人 筆のはたらきを感吟せり然る所 此菊月の六日家の跡しき納り方迄 書殘し辭世までよみおかれ行年 六十二を此世の別れ死出の山路へ旅た、れ鶴の林にこもられしこそなこり をしけれ

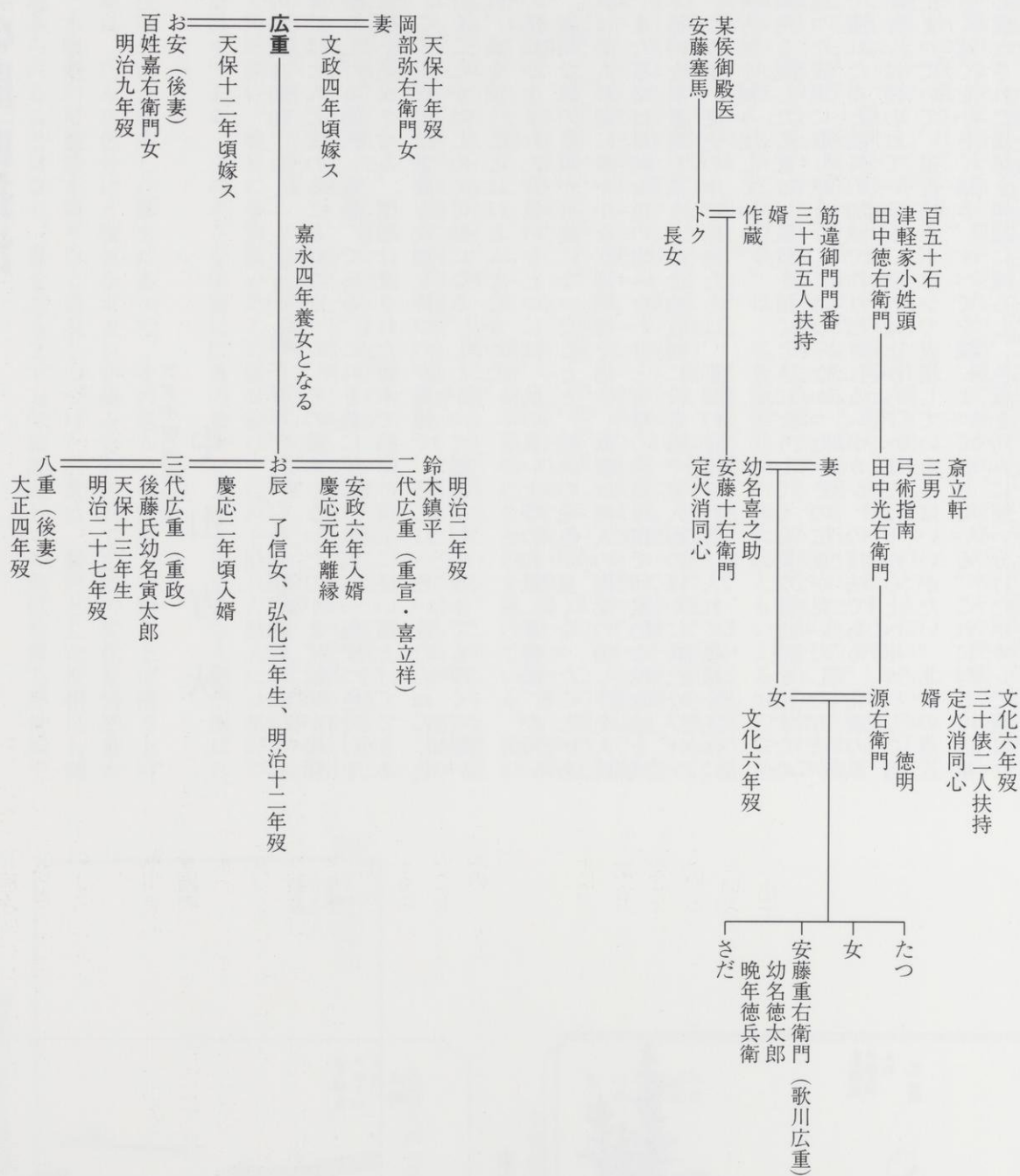
東路へ筆をのこして 旅のそら

西のみ國の 名ところを 見舞 廣重

書天明老人 露けき袖を か、げて筆をとる

広重の生誕の年は、死絵にある歿年と享年より逆算して寛政九年生れとするが、生れた月日は不明である。平成九年は寛政九年から丁度二百年目、その記念を期しての展覧であるが、広重芸術の魅力は多くの人を感動させている。広重は幸せな絵師で、浮世絵研究の上で、内田実と鈴木重三という篤学の士によって研究され、不巧の名著『広重』(同題)が世に出ている。広重の名はこの著とともに不滅である。

広重関係系図



広重の版画技法

アダチ版画研究所

中山吉秋

浮世絵版画の技法は明和二年（一七六五）、鈴木春信が行った多色摺の錦絵になって以来北斎に至るまでほとんど変わることにはなかった。その基本となったのがまず絵師が墨線を描き彫師が彫り上げる墨板（地墨）である。これを基に絵師は色別に一色ずつ色分けをして、彫師に色板を完成させる。摺師は渡された版木で絵師の指示に従い摺上げてできあがるのである。この工程では重要な役割を持つのが墨線で、そこに一色一色たんねんに色をはめ込んで行くことがはじめて可能になる。したがって墨板は桜のなかでも厚くて堅いものが用いられ、裏を使うことはほとんどなかった。

美しい春信の錦絵が生まれた背景のひとつには、肌の良い上等の和紙（奉書紙）が用いられたことで、繊細な線の表現が可能になったことと、絵具の発色が良くなったことがある。以後、清長は美人群像に華やかな衣装模様を描き、歌麿は美人の黒髪的美しさを大首絵に表現した。また写楽は単純な色の組み合わせと背景の黒雲母摺で印象的な役者絵を残した。北斎は本格的な風景画を描き、浮世絵版画に役者絵や美人画のほかに新たなジャンルを確立した。この長い歴史の中で絵師たちは、彫師の技術を計算に入れて墨線を主体にした独自の表現方法を編み出している。

北斎の後に頭角を現した広重は、風景を描くときにどうしても必要な遠近感を出すために、北斎とは違った表現に取り組まなくてはならなかった。その広重が見いだした方法が、平らな板の上で濡れた布と絵具の加減で作られる「ボカシ」の技法である。北斎の風景画にも当然ボカシは使われているが、それは上から下へまたは下から上へボカシした通俗的な使用に止まっていた。遠近感をボカシで表現しているとはいえない。北斎の遠近法は近くを大きく遠くを小さく描き、すべてを線によって表している。これに対して広重は、伝統的に必要とされた墨線を極端に減らし、色板を巧みに使い分けたボカシで複雑な遠近感を表現している。一例を挙げれば有名な「庄野白雨」（保永堂版東海道五拾三次）である。にわか雨に急ぐ籠かきと鍬を担いだ農夫が坂道を往来し竹やぶが風に揺れているこの図の墨線は、絵の下部にしかない。近景の竹やぶは墨線だが、中景のそれは中ねずみボカシ、遠景は薄ねずみボカシで構成し、距離感を出すのに成功している。さらに坂道の



東海道五拾三次之内・庄野



東海道五拾三次之内・三島

草ボカシ、民家の手前や屋根の奥にもボカシが入り、立体感を増している。同じ保永堂版東海道五拾三次の「三島朝霧」も画面中央の籠かきと馬に乗る旅人それに右手にある木々だけが墨線で描かれ、町中の家並みや杖をつく旅人、三島神社の鳥居とその森などは薄藍とねずみ色の濃淡で、朝霧に煙る雰囲気を巧みに作り出している。木曾街道六拾九次の「宮ノ越」も夕靄のなか家路を急ぐ親子づれが墨線で書かれ、対岸の木々や民家がねずみ色の濃淡で柔らかに表現されている。

このように墨線を少なくしてボカシを多用した作画方法は色分けのときにいろいろ工夫をしなければできない。墨線を彫るときに色の輪郭も彫り、色分けするまで残しておき、本摺の前に外してしまう「無駄彫」をすることもある。輪郭線を外された色の板からは当然色面だけが残し、微妙な色の操作とボカシが同じ色板ででき、多様な画面を作り出すことができる。晩年の大作「名所江戸百景」は、広重版画技法の集大成ともいえるものであるが、その代表作である「大はしあたけの夕立」は墨線が橋と筏だけで、ほかは色板の組み合わせでできている。三分の二を占める水面の板と、ねずみ色の空の板で画面を埋めている。その水面の板は水全体を摺ったあと橋の回りのボカシにも用いて前景を強調し、空の板は全面を摺ってから天のボカシに使っている。対岸の風景は空を摺ってから重ねて摺り、屋根や木々の様子が分かるよう白ヌキ（凹版）の板で表している。また、この板の上部で薄いボカシを摺り、存在感を高めている。さらに夕立の雨を濃い墨線とやや薄い墨線と二版に彫り分けてそれを摺ることによって、画面が平面的になるのを避けている。絵の題名の地模様も紅と草のボカシ合わせて暗い空間に明るさを作っている。このような複雑な色板の構成はもちろん広重が版画の製作過程を熟知してできることではあるが、摺師の腕に負うところも多い。

職人との緊密な関係で生まれた広重の巧みな色分けは、一枚の紙に四、五景を描き出した張交絵にも生かされている。個々に独立した図柄に限られた色数で各々の世界を作り出した張交絵は、広重が肩の力を抜いた絵心が随所に見られて楽しく、絵師としての豊かな力量が見られて興味深い。晩年に多数描いたこの張交絵は、江戸を訪れた旅人には格好のお土産になったはずである。この小さな宇宙に広重の豊かな才能と穏やかな人柄が偲ばれて仕方がない。

彫り摺りの技術が頂点に達した幕末にあつて、その名人たちが競って彫り上げ摺り上げた広重の風景画は、巧みな色分けと複雑なボカシが組み合わされて自然の変化を情感豊かに捉えている。木版画の可能性を限りなく追及しつづけた広重は、騒然とした世相にも関わらず庶民に飽きられることなく、世を去るまで人気絵師としての地位を保ち浮世絵史の最後を飾ったのである。



木曾街道六拾九次之内・宮ノ越



名所江戸百景・大はしあたけの夕立

四図ともアダチ版画研究所複製版の墨板（地墨）

ヴァン・ヴレック・コレクションについて

アンドリユー・ステイヴンス

(エルヴィエム美術館 版画・素描・写真担当学芸員)

エドワード・バー・ヴァン・ヴレックが日本の浮世絵版画に興味を持つに至ったきっかけは、一八九九年頃、姉妹のジェーンがくれた一枚の作品だった。その後、一九一〇年までに同じく姉妹のアンからさらに九枚の作品をもらい、別に自分自身でも一枚を買い入れた。一九一六年以前の彼の当初の浮世絵版画の買い方は気分まかせで、自らも認めているように知識もなかった。この年、「エール大学ギリシア語教授トマス・グッデル夫人J・ハリアットのコレクションを購入することで、ようやくコレクションの態をなしてきはじめた」。この時入手したコレクションについて後年彼は、一部の作品は複製であり、一部の作品は保存状態の良いものと差し換えることになったが、それでも「良い勉強になったし、数多くの芸術家の作品に親しむ機会を与えてくれた」。

コレクションの充実ぶりはヴァン・ヴレックの知識の吸収ぶりを示しており、一九四〇年、彼が蒐集を止めた時点においては、およそ四千点を数えるほどになっていた。コレクションの版画は二グループに大別され、一方はヴァン・ヴレックが緻密な分類法に基づいて整理した「正規の」版画コレクション、残りの一千点近くは大部分が復刻版ないし出所の疑わしい作品だった。ヴァン・ヴレックは記録を残すことにかけては几帳面だったから、彼のノートを見れば彼の版画売買の経過がよくわかる。彼が蒐集した作品のどこに重きを置いていたかは、コレクション中の版画に対していかに熱心に調べ、新たな発見をつけ加えていったかを見ればよい。

ヴァン・ヴレックは各作品がどこにあるかすぐわかるように、コレクションを数多くのキャビネットに分散して収納し、調べ物をするのに使った本や競売カタログをリスト化している。コレクション用の台紙、収納箱、ラベル等に要した費用も記録に残している。そしてもっとも興味深いものは、彼の「正規」コレクション中の一枚一枚の版画についての調査結果を記した一揃いのノートといえるだろう。この調査ノートの通常の記載事項は、版画作品の名称および

彼が所蔵する浮世絵関係資料から抜き書きした作品や作者に関する記述である。そしてしばしばそこに、コレクションを鑑賞したさまざまな権威者たちによるその作品の質の高低、稀少性などについての短い鑑定コメントが添えられている。時には「メッツガーはOKとのこと」といった簡潔なコメントが、専門家が訪れて意見を述べるたびに、何年にもわたって記入されている。何点かの作品では四人もの人が、その版画の質の高さや真贋についてコメントを寄せている。一例をあげれば、清倍の版画（所蔵番号一九八〇・二四九二）についての記載は次の通りである。

丹絵（辰砂しんさを使用した）版画。作者名なし。櫛で髪を梳く女。下方に鏡の黒い裏面。京都で購入。一九二八年十月八日、J・マツケ（松木善右衛門か）から六五円〇三ドル五〇セントで。マツケによれば本の挿絵とか。だから作者名も説明文字もない。続いて版画を見せにいったサトウ（佐藤正太郎。松木と同時期の関西の浮世絵商か）も本物と断言。マツケの言によれば、版画の作者が清倍であることはほぼ確実。私が日本で見つけることができた丹絵は、これと五〇三番の作品の二つだけで、ほかにも日光で一点見せられたが、これは丹の色が鮮やかすぎ、最近塗ったものにも思えた。

当初の記述はここまでだが、青インクの別な筆跡（子息のジョン・ハスbrook・ヴァン・ヴレックらしい）で「周辺の紙が違う。人物を切り取り貼りつけたもの（R・J・ペインIIボストン美術館員ペイン）ルドウー図録の初期版画第十一図参照」と書き込まれている。書込みは次いで鉛筆書きに変わり「ケンペルによれば、これは後摺りで人物は貼り込まれてはいない」とあり、最後にページの外余白に斜めに「リーとマクナルティーはペインの見解に同意。（一九六九年）アダチ（安達豊久）はまぎれもない本物との意見」（ノート

ブックI、四三ページ)。

エルヴィエム美術館で本コレクションの図録作成にあたったロジャー・キースは、この女性像は別な版画から切り取られたもので、その下方左端の欠損部分を隠すために鏡と一緒に貼り込まれていることを確認した。このように、コレクションに関する研究は今もなお続いている。この図録上ではこうした調査の詳細を紹介することは不可能であるが、浮世絵研究者には本コレクションとその記録を活用する機会が用意されており、これらの浮世絵版画に関する知識とアメリカにおける美術コレクションの中での位置をより完全なものとするように常に門戸が開かれているのである。

このノートには、次の鈴木春信の「雪中傘美人」(一九八〇・〇七二七)の場合のように、その版画にまつわる私的な追憶も記録されている。ヴァン・ヴレックの書込みはさまざまな専門家の意見を記録すると同時に、ほとんど郷愁あふれるものだ。

雪を置いた竹の下乙女。紫の袖を垂らした着物を着た美しい少女が、雪の重みにかしい竹の枝の下で傘を手につんでいる。灰色の冬の空が足元の雪とよい対照をなしている。春信独特の魅力に満ちる。

「柱絵。美しい状態の極上の摺り」、これはフィッケのこの版画についての記述。一九二〇年二月五日、フィッケの第一回売立ての九七番。私の初めての春信作品(グッデル・コレクションの四枚の版本挿絵を別にすれば)を買い入れるため、私は二〇〇ドルの小切手を姉妹に送った。わが姉妹アンナ・ヴレックの第一目標はこの版画であった。価格は二七〇ドルだったが、うち七〇ドルはプレゼント。売立てのあとでゲーキン(フレデリック)はアンナに、これは「絶対に疑問の余地なく」本物だと話したという。この着物の色は当初は紫だったが、時間経過と紙の木質繊維の変化によって現在の色合いになった。これを「褪色」とはいいたくない、というのが彼女の質問に対する彼の答えである。

一九二〇年九月十九日、メッツガーが私に次のように話してくれた。この売立てに先立って、フィッケは一〇〇枚の版画を手元にとどめることにした。フィッケ夫人と彼(メッツガー)はこの作品(春信)をその一〇〇枚に入れるべきだと主張したが、反対票のほうが多かった、と。(ノートブックI、一二三ページ)

エルヴィエム美術館で図録の作成にあたったロジャー・キースのこの版画に関する評価は、春信の落款は後世加えられたものかも知れないと条件をつけながらも、春信の作品であろうし、この版画一枚が現在する唯一の作品ではないかというものである。ともあれ以上のような記述は、当時のアメリカにおける日本の浮世絵版画の蒐集について、興味深い洞察の鍵を与えてくれる。一つのコレクションから別なコレクションへと版画が動いて行く様を観察する結構緊密に結びつきあつた人々の一つの集団の姿、それはあたかも、あるチームから別なチームへ移籍する選手たちの消息を見失うまいとするスポーツ・ファンの流儀そっくりと思われる。

ヴァン・ヴレック・コレクションの中でも、彼が惜しみなく特別な努力を注ぎ込んだものといえば、一九二八年までフランク・ロイド・ライトが所蔵し、この年に彼が購入したところの一群の版画であった。それは彼の一回の版画購入としては最大規模のものであり、かつ、今なおコレクション全体の四分の一以上を占めている。

ライトはかつて長年にわたって「純粹美学的抽象」として浮世絵版画を賞賛していた。すでに一九〇八年には、そのコレクションの作品でシカゴ美術館に展覧会を開かせるほどの蒐集家だった。一九一三年および一九一六年には、ウィリアム・スボールディングの依頼を受けて日本における購入係をつとめ、誰の力も借りずに「スボールディングの資金約一二万五千ドルで約一〇〇万ドル相当の浮世絵版画」を買い入れた。(現在スボールディング・コレクションはボストン美術館にある)

こうした旅行のなかでライトは、浮世絵を摺った版本も入手している。広重の「張交絵」が摺られたこれらの版本の一部は、今回、フランク・ロイド・ライト財団のご好意によって、その昔それから摺られたヴァン・ヴレック・コレクションの作品とともに、今回の展覧会場に出品されることになっている。版本の見事な彫りは無名のままに終わる職人たちの業の冴えを見せ、広重の画稿はこれによって浮世絵版画へと変貌したのである。

ライトは五一〇〇枚の浮世絵版画の一群を、借入金担保としてウイスコンシン州のある銀行に差し入れていた。一九二八年、銀行はこのコレクションをひどい安値でE・B・ヴァン・ヴレックに売り渡し、ライトをかんかん怒らせる。ヴァン・ヴレックはこのコレクションを処分するにあたって、甘美な苦痛を感じたようだ。彼の記録によれば、ライトの版画に対する彼の当初の支出は四〇〇〇ドルであり、これは当初の見積りから彼の手数料を引いたもの。続いて彼はライトから受け取った版画から売れた作品をリストアップしている。書類に書かれているのは売却価格、購入者の名前、その作品に関する簡単な説

明だけである。ライト旧蔵の版画に関するヴァン・ヴレックのビジネスライクな記録は、彼が翌年四月までの間に投入資金を回収しており、彼が版画の売買を止めた一九四〇年までの間に、その最初の資金のほぼ三倍にものぼる儲けを得たことを示している。記録によればこの時点で銀行から買入れた版画のうち二一六枚を売り払っていた。

ジョン・ハスブローック・ヴァン・ヴレックが父親のコレクションを相続した。彼は父親のようにコレクションを発展させるといふ点では積極的ではなかったが、コレクションの管理にあたり、専門家たちがその意見を述べてくれるよう招待をかさね、浮世絵を研究する人々に便宜をはかった。最終的に一九八〇年に、エルヴィエム美術館は、エドワード・バー・ヴァン・ヴレックの版画全体を、ジョン・ハスブローック・ヴァン・ヴレックからの遺贈品として、一八八四年には残りの版画をジョン・ハスブローックの未亡人アビゲイル・ヴァン・ヴレックからの遺贈品として受け取ることになる。

かつてグッデル・コレクションがエドワード・バー・ヴァン・ヴレックの蒐集活動の基礎の役割を果たしたのと同様に、彼が育成してきたこのコレクションも、浮世絵版画研究のための情報供給源としての役割を果たし続けている。

エルヴィエム美術館はその利用しやすさを一層恒久的なものとするべく努力をかさね、このコレクションを土台にした本図録その他のエルヴィエム美術館出版物は、日本の浮世絵版画に興味を抱く人々のためにさらにコレクションが有用であるよう努めている。一点一点の版画を台紙に収めるマッティングの作業、そして作品の保全に必要な観察の作業は、コレクションが寄贈されたその日から一貫して続けられている。かくして今や、全作品のマッティングの完成と、この図録およびコレクション全体を分類するためのコンピュータ・データベース化の開始により、われわれはこの版画に関する学術的要求に応ずる装備を整えた。最終的に四〇〇〇枚を超える版画からなる本コレクションは、エルヴィエム美術館への贈与によって、いま一度経験されるべく待ち望んでいる教育の場となっているのである。

※この論文は『浮世絵版画に関するエドワード・バー・ヴァン・ヴレック図録』（ウイスコンシン大学エルヴィエム美術館、一九九〇年）よりの再録です。
(定村忠士訳)

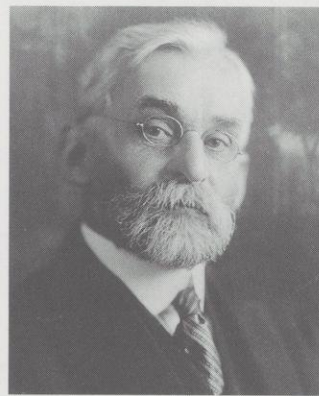


Photo courtesy of Archives, University of Wisconsin-Madison

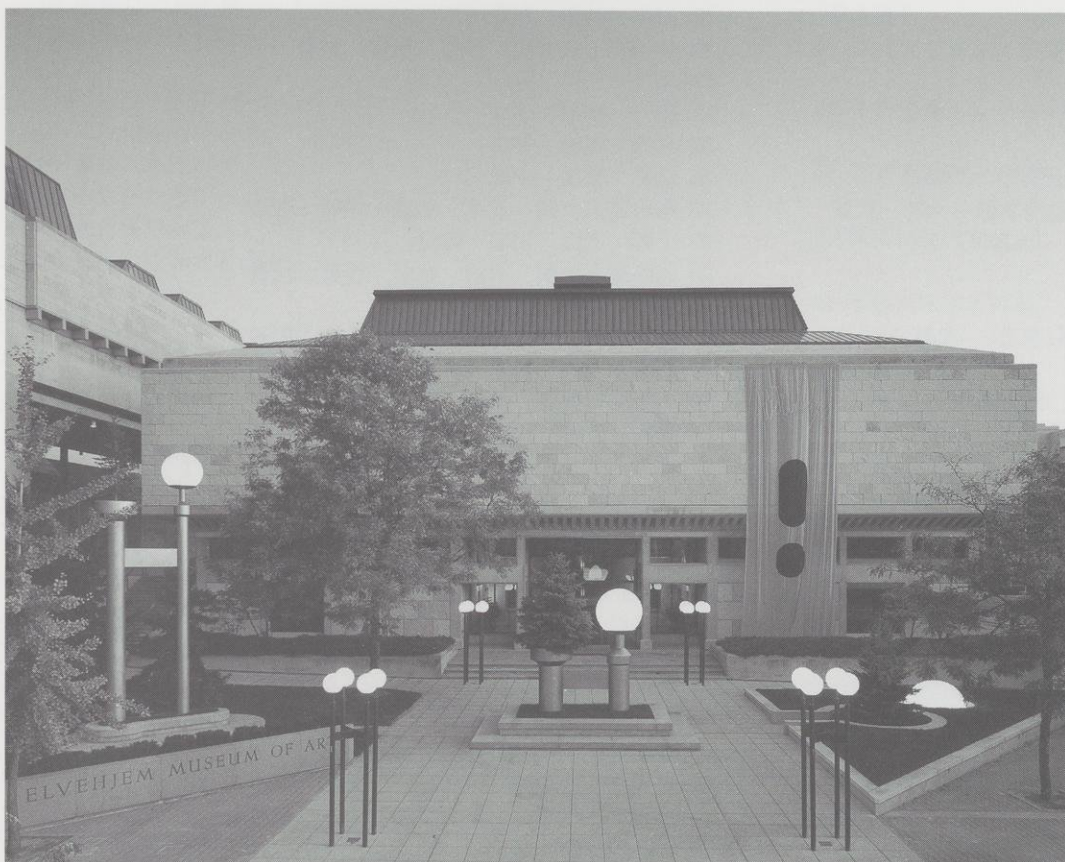
エドワード・バー・ヴァン・ヴレック（一八六三—一九四三）

この浮世絵版画は、一九〇六年から一九二九年にわたってウイスコンシン大学（マディソン）の数学教授であったエドワード・バー・ヴァン・ヴレックの蒐集にかかわるものである。エドワード・バー・ヴァン・ヴレックは、コネティカット州ミドルタウンのウエスリアン大学を卒業し、一時期はジョン・ホプキンス大学に学んだのち、ドイツにおもむき、一八九三年にはゲッチンゲン大学で哲学博士（Ph.D.）の学位を受けた。一九〇六年、ウイスコンシン大学にもどり、以後、一九二九年の引退の時まで数学教授として教職にあった。

ヴァン・ヴレック博士の浮世絵版画に対する関心は一八九九年頃、その姉妹ジェーンから贈られた一枚の浮世絵版画によって呼び覚まされた。一九一〇年までの間に、彼は同じく姉妹のアンナから九枚の浮世絵版画をもらい、別に自分自身でも一枚を買入れ入れている。一九一六年、彼はコネティカット州ニュー・ヘイヴンに住んでいたトーマス・グッデルからそのコレクションを買入れ、さらに一九二八年には、フランク・ロイド・ライトが日本で買い集めた五、一〇〇枚にのぼるより一層注目すべき浮世絵版画を購入した。教職引退の後、自ら旅行と浮世絵版画の売買とに身を投じた。一九四三年、E・B・ヴァン・ヴレックの死去に際して、ウイスコンシン大学は次のような記念の決議を發した。「大学の卓越性は、常にきわめて少数の卓越した人材によってその基礎を築かれるものである。ヴァン・ヴレック教授は、わがウイスコンシン大学にかかる光輝をもたらしてくれた」。数学教室の建物は、こうして博士の名前を冠することとなった。

ハーヴァード大学物理学教授で、一九七七年度ノーベル物理学賞受賞者のジョン・ハスブローック・ヴァン・ヴレックは、父君のコレクションを相続したのち、最終的にこれをエルヴィエム美術館に遺贈したのである。

このコレクションは、アメリカ合衆国における八大コレクションのなかに数えられている。



エルヴィエム美術館外観

Photograph taken by Eric Oxendorf



エルヴィエム美術館内景

Photograph taken by Greg Anderson

219 渡辺綱 武蔵坊弁慶
220 大森彦七 素盞命
221 源三位頼政 熊谷直実
222 坂田公時 那須与一
223 仁田四郎 佐藤忠信
224 桃太郎 平忠盛

225 夢見心地 手習手本 森田屋 大判
226 太平喜餅酒多買 丸屋清次郎 大判三枚続
版 (丸清)

[張交絵]

◎張交江戸(江都)名所 和泉屋市兵衛版(泉市) 大判
嘉永5年

227 海晏寺 佃島 王子権現 芝増上寺 御茶之水
228 永代橋中洲 道灌山 花屋敷 日本橋 洲崎
229 飛鳥山 吉原 品川 深川富が岡 高輪
230 山谷堀・真乳山 不忍池 亀戸 臥龍梅 隅田川
231 両国 御殿山 浅草金龍山 三囲堤 上野

◎江戸名所張交図会 山田屋庄次郎版(山庄) 大判 安政4年

232 飛鳥山眺望 猿若町番立 小金井堤
233 日本橋 上野花見 目黒不動之瀧 海晏寺紅楓
234 洲崎弁天祠 御茶之水 芝神明祭 愛宕山毘沙門使
235 両国納涼 真乳山・山谷堀 梅屋舗
236 高輪 堀切之里 中洲・三保前の淵
237 浅草金龍山 三囲 雷門 隅田川 向嶋花屋舗
238 亀戸天神菜種之神事 とね川の鯉 御殿山満花
239 鉄砲洲・佃島 押上萩寺 王子権現御祭礼
240 王子滝の川 品川汐干狩 水神森・真崎社
241 芝浦 今戸 深川八幡 吉原青陽

◎東海道張交図会 和泉屋市兵衛版(泉市) 大判 嘉永5年

242 日本橋 品川 川崎 加奈川
243 程ヶ谷 戸塚 藤沢 平塚 大磯
244 小田原 箱根 三嶋 沼津
245 原 吉原 蒲原
246 由井 奥津 江尻 府中
247 鞠子 岡部 藤枝 嶋田
248 金谷 日坂 掛川 袋井
249 見附 浜松 舞坂 荒井 白須賀
250 二川 吉田 御油 赤坂
251 藤川 岡崎 池鯉鮒 鳴海湯
252 宮 桑名 四日市
253 石薬師 庄野 亀山 関
254 坂之下 土山 水口 石部
255 草津 大津 京

◎国尽張交図会 藤岡屋慶次郎版(藤慶) 大判 嘉永5年

256 五畿内五箇国：山城 大和
257 河内 摂津 和泉
258 東海道十五ヶ国：伊勢 伊賀 志摩
259 尾張 三河 遠江
260 駿河 伊豆 甲斐
261 武蔵 相模 安房
262 上総 常陸 下総
263 東山道八ヶ国：近江 美濃 飛騨 信濃
264 上野 下野 出羽 陸奥
265 北陸道七ヶ国：若狭 越前 能登 加賀
266 越中 越後 佐渡
267 山陰道八ヶ国：丹波 丹後 但馬 因幡
268 石見 出雲 伯耆 隠岐
269 山陽道八箇国：播磨 美作 備前 備中
270 備後 長門 周防 安芸
271 南海道六ヶ国：紀伊 讃岐 淡路 阿波 伊予 土佐
272 西海道九ヶ国：筑前 豊前 筑後 豊後 肥前
273 肥後 日向 大隅 薩摩 貳嶋=壱岐・対馬

◎墨摺張交絵 大判

274 滝に松 さざえにびく 水草に魚 柳に蝙蝠
275 亀 枇杷 松
276 富士山 筑波山

◎諸国名産 有田屋清右衛門版(有田) 大判 天保10年

277 勢州桑名産焼蛤 東都亀戸産鷺木臥龍梅
京師清水焼地主之桜 東都王子土産飛鳥山花
278 京師加茂葵御影堂扇 相豆箱根産湯本細工箱根草
武州玉河之鮎小金井ノ桜 東都浅草名物手遊上野彼岸桜
279 東都日本橋初物 大山土産梅酢鎗麦藁細工
東都大森漬物蒲田之梅 相州江の嶋産鮑かす漬貝細工
280 下総とね川の鯉 東都隅田川都鳥
東都初卯土産卯槌まい玉 東都今戸ノ梅名産焼物

281 俳諧日本名所双六

住吉版

282 神仏納手拭

三代豊国合 錦昇堂版
作

【肉筆画】

283 隅田川兩岸雪中図	紙本	38.8×56.3
284 石神井川図	絹本	40.0×56.5
285 武蔵十二社の滝図	絹本	57.2×34.8
286 龍田川紅葉山水図	絹本	87.5×28.0
287 美人と猫図	絹本	103.3×47.0
288 広重像(三代豊国画)	魚栄版	大判

3、28、56、64、82～89、113、184～188、211～217、283～288は国内賛助出品です。

◎江戸名所 山田屋庄次郎版(山田屋) 大判

嘉永6～安政5年

146 洲崎はつ日の出

147 にほんばし江戸ばし

◎名所江戸百景 魚屋栄吉版(魚栄) 大判 安政3～5年

148 真乳山山谷堀夜景

149 大はしあたけの夕立

150 赤坂桐畑雨中夕けい(二代広重)

151 永代橋佃しま

152 目黒太鼓橋夕日の岡

153 浅草金龍山

154 王子装束ゑの木 大晦日の狐火

155 日本橋江戸ばし

156 東都深川富ヶ岡八幡宮境内全図 薦吉版 大判三枚続

157 東都名所新吉原五丁町弥生花盛 薦吉版 大判三枚続
全図

◎江戸高名会亭尽 藤岡屋彦太郎版(藤彦) 大判

天保6～13年頃

158 木母寺雪見 植木屋

159 深川八幡境内 二軒茶屋

160 岩城升屋呉服店 佐野喜版 大判三枚続

◎江戸近郊八景之内 佐野屋喜兵衛版(喜鶴堂) 大判

天保8・9年頃

161 飛鳥山暮雪

162 小金井橋夕照

163 行徳塩浜之図 若狭屋与平 絵半切
版 天保10年頃

[花鳥画]

164 竹に雀 正栄堂版 中短冊

165 藤に四十雀 正栄堂版 中短冊

166 落葉に氷上の鴛鴦 中短冊

167 杜若に川蟬 川口正蔵版 中短冊

168 雨中の杜鵑 正栄堂版 中短冊

169 月二拾八景之内 弓張月 若林堂版 大短冊

170 月夜 桃に燕 川口正蔵版 大短冊

171 松にインコ 若林堂版 大短冊

172 雪中 椿に雀 若林堂版 大短冊

173 山吹に蛙 若林堂版 大短冊

174 旭日 波に鶴 若林堂版 大短冊

175 初日の出 松に鷹 佐野屋喜兵衛版 大短冊

176 雲龍 佐野屋喜兵衛版 大短冊

177 雲龍 大短冊

178 旭日 松に鶴 大判 縦二枚継

179 雪中 松に鷹 佐野屋喜兵衛版 大判 縦二枚継

180 旭日 松に鷹 佐野屋喜兵衛版 大判 縦二枚継

◎魚づくし 西村屋与八版(永寿堂) 大判 天保初期

181 かさごといさき

182 木葉かれいとかながしら

183 鮎

[美人画]

184 風流五ツ雁金 雷庄九郎 岩戸屋喜三 大判
郎版 文政初年

185 江戸自慢 秋七草・桔梗 川口正蔵版 大判
天保初年

186 雪月花の内 月の夕部 伊場屋仙三 大判三枚続
郎版

187 両国納涼大花火 山田屋庄次 大判三枚続
郎版

188 東都両国すずみ船 佐野屋喜兵衛版 大判三枚続

[団扇絵]

189 月夜の庭 海老屋版 弘化元年

190 東都名所雪の三景 両国雪晴の月

191 隅田川・橋場渡・真崎社 遠州屋版

192 今様六玉川の内 武蔵調布

193 雪月華昔語 雪 遠州屋版 弘化4年

194 雪月華昔語 月 遠州屋版

195 雪月華昔語 花 遠州屋版

196 風景浄るりづくし 遠州屋版

妹背山吉野川

197 源氏雪月花・嵯峨の花 伊場仙版

198 古代名誉四季花 冬 駿河屋版 弘化2年

筑紫太宰府飛梅

199 在原業平東下り 佐野屋喜兵衛版 大判縦二枚継

◎諸国六玉河 薦屋重三郎版 大判 天保末期

200 武蔵調布之玉川

201 山城井出之玉川

◎広重・三代豊国合作

202 風流げんじ 明石 伊勢屋兼吉 大判三枚続
版

203 田子ノうら風景 丸屋甚八版 大判三枚続

[戯画]

◎即興かげぼし尽し 薦屋吉蔵版(薦吉) 大判 天保後期

204 みみづく まつたけ

205 根上り松 梅に鶯

206 塩引き鮭 茶釜

207 入り船 茶碗と茶台

208 富士の山 欄干に擬宝珠

209 こんろに急須 燗ちろり

210 石灯籠 とまり木に鷹

◎浄るり町繁花の図 伊場屋仙三郎版 大判 嘉永5年

211 仮名手本忠臣蔵ほか

212 伽羅先代萩ほか

213 義経千本桜ほか

214 加賀見山旧錦絵ほか

215 国性爺合戦ほか

216 関取千両幟ほか

217 恋飛脚大和往来ほか

◎童戯武者尽 若狭屋与市版(若与) 大判 安政元年

218 牛若丸 玉藻前

◎近江八景 布吉版 中判 弘化頃

- 82 唐崎夜雨
- 83 比良暮雪
- 84 矢橋帰帆
- 85 石山秋月
- 86 堅田落雁
- 87 瀬田夕照
- 88 栗津晴嵐
- 89 三井晚鐘

◎京都名所之内 川口正蔵版(栄川堂) 大判 天保5年頃

- 90 淀川
- 91 通天橋ノ紅楓

◎浪花名所図会 川口正蔵版(栄川堂) 大判 天保5年頃

- 92 道とんぼりの図
- 93 しん町九けん丁

◎本朝名所 藤岡屋彦太郎版(松原堂) 大判 天保3~10年頃

- 94 拙州布引之滝
- 95 相州七里ヶ浜
- 96 駿州清見ヶ関

◎山海見立相撲 山田屋庄次郎版(山田屋) 大判 安政5年

- 97 讃岐象頭山
- 98 相模大山
- 99 越中古国府湊

◎六十余州名所図会 越村屋平助版(越平) 大判
嘉永6年~安政3年

- 100 美作 山伏谷
- 101 美濃 養老ノ滝
- 102 阿波 鳴門の風波
- 103 紀伊 和歌之浦

◎不二三十六景 佐野屋喜兵衛版(佐野喜) 中判 嘉永5年

- 104 武蔵野
- 105 甲斐大月原
- 106 相模大山来迎谷

◎富士三十六景 薦屋吉蔵版(薦吉) 大判 安政5年

- 107 甲斐大月の原
- 108 房州保田ノ海岸
- 109 東都数寄屋河岸
- 110 伊豆の山中
- 111 武蔵越がや在

112 相州江の嶋弁才天開帳詣本宮岩 住吉屋版 大判三枚続
屋の図

113 武陽金沢八勝夜景 薦屋吉蔵版 大判三枚続
(薦吉)

[江戸名所]

◎四季江都名所 川口正蔵版(川正) 中短冊 天保5年頃

- 114 夏 両国之月

◎東都名所 藤岡屋彦太郎版(松原堂) 中短冊
天保中期・後期

- 115 霞が関夕景
- 116 浅草金龍山下東橋雨中望
- 117 洲崎海浜 汐干狩之図

118 新吉原衣紋阪秋月

◎東都名所 川口正蔵版(川正) 中短冊 天保12年頃

119 本郷御茶の水

◎江戸名所 若狭屋与市版(若与) 中短冊 嘉永5年

- 120 隅田川
- 121 芝浦日の出

◎江都八景 川口正蔵版(川正) 大判四つ切 天保3年頃

- 122 深川夜雨
- 123 佃之落雁
- 124 品川秋月
- 125 両国夕照

◎江戸十二景 和泉屋市兵衛版(泉市) 大判 天保初年

- 126 洲崎汐干・飛鳥山・上野不忍・
御殿山ノ花
- 127 吉原田甫・道灌山下・高輪・日
本橋雪晴
- 128 佃嶋・隅田川・両国納涼・仲洲
之景

◎東都名所(一幽斎書) 川口正蔵版(川正) 大判 天保2年頃

- 129 佃嶋初郭公
- 130 御殿山之夕桜
- 131 隅田川葉桜之景

◎東都八景 藤岡屋彦太郎版(藤彦) 間判 天保中期

- 132 浅草夕照
- 133 両国暮雪

◎東都名所 佐野屋喜兵衛版(喜鶴堂) 大判
天保3年~10年頃

- 134 芝愛宕山之図
- 135 浅草金龍山年之市群集
- 136 二丁町芝居ノ図

◎江都名所 佐野屋喜兵衛版(佐野喜) 大判 天保

- 137 かすみがせき

◎東都司馬八景 越前屋平三郎版(越前屋) 大判
天保10~11年頃

- 138 愛宕山暮雪

◎江都名所 和泉屋市兵衛版(泉市) 間判 天保中期・後期

- 139 芝神明宮
- 140 隅田川雪之景

◎東都名所之内 隅田川八景

佐野屋喜兵衛版(佐野喜) 間判 天保11~13年頃

- 141 金龍山晚鐘

◎東都名所 上州屋金蔵版(上金) 間判 天保末期

- 142 浅草金龍山雪中之図

◎東都名所 佐野屋喜兵衛版(佐野喜) 大判 天保~安政

- 143 真乳山上見晴之図
- 144 浅草金龍山年の市
- 145 芝赤羽根之雪

エルヴィエム美術館所蔵 出品作品リスト

[東海道五三次]

◎東海道五拾三次之内(保永堂版東海道)

竹内孫八(保永堂)・鶴屋喜衛門(仙鶴堂) 合版 大判

天保4・5年

- 2 日本橋 朝之景
- 8 大磯 虎ヶ雨
- 15 箱根 湖水図
- 22 原 朝之富士
- 28 蒲原 夜之雪
- 29 由井 薩埵嶺
- 41 浜松 冬枯ノ図
- 45 宮 熱田神事
- 51 四日市 三重川
- 56 庄野 白雨
- 57 亀山 雪晴
- 64 土山 春之雨
- 66 京師 三条大橋

◎東海道五拾三次(狂歌入り東海道)

佐野屋喜兵衛版(喜鶴堂) 中判 天保11年頃

- 6 日本橋
- 11 大磯
- 18 箱根
- 23 原
- 33 由井
- 38 浜松
- 49 宮
- 52 四日市
- 60 亀山
- 65 京 三条大橋ノ図

◎東海道五十三次之内(行書東海道)

江崎屋辰蔵・吉兵衛版(江辰・江吉) 間判

天保12・13年頃

- 5 日本橋 曙旅立の図
- 10 大磯
- 17 箱根
- 25 原 柏原立場ふじの沼
- 32 由井 かけ渡りゆひ川の図
- 35 鞠子
- 39 浜松 ざざんざの松
- 47 宮 熱田浜之鳥居
- 54 四日市 参宮道追分ノ図
- 59 亀山
- 67 京 三条大橋ノ図

◎東海道五十三次(隸書東海道)

丸屋清次郎版(丸清) 大判 嘉永初年

- 4 日本橋
- 7 程ヶ谷
- 9 大磯
- 16 箱根
- 24 原
- 30 由井
- 36 鞠子
- 40 はま松

48 宮

53 四日市

61 亀山

63 関

69 京

◎五十三次(人物東海道)

村田屋市五郎版(村市) 大判二丁がけ 嘉永4～5年

- 3 日本橋
- 13 大磯 小田原
- 19 箱根 三嶋
- 21 沼津 原
- 34 由井 興津
- 37 見附 浜松
- 44 鳴海 宮
- 50 桑名 四日市
- 62 亀山 関
- 70 京三条橋 同大尾四条涼

◎五十三次名所図会(堅絵東海道)

薦屋吉蔵版(薦吉) 大判 安政2年

- 1 日本橋 東雲の景
- 12 大磯 鴨立沢西行庵
- 14 はこね 山中夜行の図
- 20 沼津 足柄山 不二雪晴
- 26 原 あし鷹山 不二眺望
- 27 吉原 不二の沼 浮嶋が原
- 31 由井 薩多嶺 親しらず
- 42 浜松 名所ざざんざの松
- 43 藤川 山中の里別名宮路山
- 46 宮 熱田の駅七里の渡口
- 55 四日市 なごのうら 三重川
- 58 亀山 風雨雷鳴
- 68 京 三条大はし

[諸国名所]

◎木曾海道六拾九次之内 伊勢屋利兵衛版(錦樹堂) 大判

天保後期

- 71 軽井沢
- 72 上ヶ松
- 73 須原
- 74 高宮
- 75 守山

◎近江八景 山本平吉版(栄久堂) 大判 天保初期

- 76 唐崎夜雨
- 77 矢橋帰帆

◎近江八景(あふみ八景) 有田屋清右衛門版(有永堂) 中判

天保末期

- 78 比良暮雪
- 79 矢橋帰帆

◎近江八景 魚屋栄吉版(魚栄) 大判 安政4年

- 80 堅田落雁
- 81 瀬田夕照

no Kage
Patron of
Island in
plant in
Sushima

Okaidō;
(signed
and Fish
and Wil-

at Fruit
(signed

1888
Mt. Tso-
pictorial

a in Ise
e Land-
Kameido
ree,
Ōji and
es"

do Shop
ry Bloss-
enirs of
Cherry
es"

- 279 Bonito and Eggplants: First Products of the New Year at Nihonbashi in Edo; Pickles and Seaweed from Ōmori in Edo and Plum Blossoms from Kamata; "Plum Vinegar" Spear and Straw Hat, Souvenirs of Ōyama; Preserved Abalone and Shell Work, Souvenirs of Enoshima in Sagami Province
Series "Famous Products of Various Provinces"
1839
Aritaya Seiemon
Quarter *Ōban*, 119 × 174 mm (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1283a-d
- 280 Carp in the Tone River in Shimousa Province; Decorated Willow Branch and *Uzuchi* (hammer for purging noxious vapor), Souvenirs of the First Rabbit Day of the New Year in Edo; *Miyakodori* (gulls) on the Sumida River in Edo; Plum Blossoms and Pottery Figurines, Famous Products of Imado in Edo
Series "Famous Products of Various Provinces"
1839
Aritaya Seiemon
Quarter *Ōban*, 114 × 167 mm (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1284a-d
- 281 *Sugoroku*: A Travel Game of Famous Places in Japan, and *Haiku* Poems Selected by kyōhashi Chōgin, Proofed by Tsukushi Issha
1850s
Double *Ōban*, 479 × 335 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2224

- 282 Votive Hand Towels for Shrines and Temples (with Toyokuni III)
1854
Kinshōdō (Ebisuya Shōshichi)
Double *Ōban*, 443 × 326 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2223
- 283 Sumida River in Snow
Painting on Paper, 388 × 563 mm
Japanese private collection
- 284 View of Shakujii River in Musashi Province
Painting on Silk, 400 × 565 mm
Japanese private collection
- 285 Waterfall at Jūniso of Musashi Province
Painting on silk, 572 × 348 mm
Japanese private collection
- 286 Maple Leaves at Tatsuta River
Painting on silk, 875 × 280 mm
Japanese private collection
- 287 Woman with a Cat
Painting on silk, 1033 × 470 mm
Japanese private collection
- 288 Portrait of Hiroshige by Toyokuni III
1858
Voya Eikichi
Ōban, × mm
Japanese private collection

- 267 Woman Washing Cloth by a River in Ōeyama where the Ogre's Castle Located in Tanba Province; The Sand Bank, Ama-no-hashidate in Tango Province; View of Takahama Beach in Tajima Province; The Chivalrous Man Shirai Gonpachi in Inaba Province
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 345 × 232 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2018
- 268 The Takatsu River in Iwami Province; Okuni, the Originator of the Kabuki Performance from Izumo Province; Mt. Mitoku in Hōki Province; The Torch Shrine in Oki Province
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 344 × 232 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2019
- 269 The Poet Ariwara no Yukihira at Suma Beach in Harima Province; An Ancient Shrine in Mimasaka Province; Famous Product, Bizen Wares of Bizen Province; Gorge in Bitchū Province
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 349 × 234 mm plus margins
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.941
- 270 A Brothel in Onomichi, Bingo Province; Murozumi Bay in Suhō Province; Scene of the Port Akamagaseki in Nagato Province; A Stone Lantern and Deer at Miyajima in Aki Province
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 351 × 234 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2021
- 271 The Priest Karukaya of Mt. Kōya in Kii Province; Marugame Ferry Boat in Sanuki Province; Awaji Island in Awaji Province; Naruto Rapids in Awa Province; Capturing Wild Duck Flying from Mountain Peak in Iyo Province; Famous Product, Making Dried Bonito in Tosa Province
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 344 × 232 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2022
- 272 Flowering Plum at Anrakuji Temple in Dazaifu where Sugawara Michizane exiled, in Chikuzen Province; The Great Swordsman Miyamoto Musashi Avenged the Murder of His Father at Ganryūjima in Buzen Province; Mt. Kōra in Chikugo Province; Minozaki Promontory in Bungo Province; A Courtesan of Maruyama Brothel in Nagasaki, Hizen Province
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 345 × 232 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2023
- 273 Tsuzumi Waterfall in Higo Province; Taira no Kagekiyo Later He Became a Blindman and the Patron of the Blinds, in Hyūga Province; Sakurajima Island in Ōsumi Province; Famous Product, Tobacco-plant in Satsuma Province; Two Islands, Iki and Tsushima (Wadatsumi Shrine) Provinces
Series "*Harimaze* Pictures of the Provinces"
1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 345 × 233 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2042
- 274 A Waterfall (signed Hiroshige, sealed Tōkaidō); *Sazae* (wreath shells) and *Hamaguri* (clam) (signed Ryōsai, sealed Andō); Rocks, Water Plants and Fish (signed Hiroshige, sealed Ichiryūsai); Bats and Willow (signed Ryūsai, sealed Utawaga)
1840s
No publisher mark
Aiban, 329 × 218 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2108
- 275 Turtle (signed Hiroshige, sealed Andō); Loquat Fruit (signed Ryūsai, sealed Ryūsai); Pine Tree (signed Hiroshige, sealed Andō and Gashō)
1840s
No publisher mark
Aiban, 328 × 217 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2109
- 276 Mt. Fuji (signed Ichiryūsai, sealed Gashō); Mt. Tsukuda (signed Hiroshige, sealed Gashō in pictorial seal)
1840s
No publisher mark
Aiban, 322 × 209 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2107
- 277 Baked Clams, a Famous Product of Kuwana in Ise Province;
Kiyomizu Ceramics and Blossoms from the Landlord's Cherry Tree in Kyōto;
Wooden Carving of Warblers, a Product of Kameido in Edo, and a Branch of the *Garyūbai* Plum Tree;
Souvenir Toy of the Hand Puppets from Ōji and Cherry Blossoms from Asukayama in Edo
Series "Famous Products of Various Provinces"
1839
Aritaya Seiemon
Quarter *Ōban*, 115 × 165 mm (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1281a-d
- 278 Aoi Leaves from Kamo and Fans from Mieidō Shop in Kyōto;
Ayu Fishes from the Tama River and Cherry Blossoms from Koganei in Musashi Province;
Adiantum and Handicrafts of Yumoto, Souvenirs of Hakone in Sagami and Izu Provinces;
Hand Puppets from Asakusa and "Equinox" Cherry Blossoms from Ueno in Edo
Series "Famous Products of Various Provinces"
1839
Aritaya Seiemon
Quarter *Ōban*, 114 × 170 mm (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1282a-d

- 255 Collection of the Stoneworks by Yamada Sekitei-ō in Kusatsu; *Otsu-e*, Demon Monk Chanting a Prayer; Cooling Evening at the River-bed in Shijō, Kyōto Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road" 1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 338 × 234 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2055
- 256 Courtesan under the Willow Tree at the Gate of the Shimabara Gay Quarter in Kyōto, Yamashiro Province; One Thousand Cherry Trees at a Glance in Mt. Yoshino, Yamato Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 341 × 231 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2007
- 257 The Fujiidera Incident, the Young Warrior Kusunoki Masatsura in Kawachi Province; The Lighthouse at Sumiyoshi in Settsu Province; Large Cycad of the Myōgokuji Temple in Sakai, Izumi Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban 341 × 242 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2008
- 258 The Poet Matsuo Bashō Who was Born in Ueno, Iga Province; The Ise Dance at Furuichi in Ise Province; Mt. Hiyori at the Harbor Ōminato, Shima Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 342 × 228 mm plus margins
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.933
- 259 Golden Dolphin on the Top of Nagoya Castle, Owari Province; The Strolling Comic Dancers of Mikawa Province; Tide over the 48 Torrents at the Akiba Coastal Road in Tōtōmi Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 340 × 227 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2010
- 260 Cedge Hat-like Clouds over Mt. Fuji in Suruga Province; Sumō Wrestling of Kawazu-Matano Match in the Year of Angen 2 (1176 A.D.) at Akazawayama, Izu Province; Famous Product, Grapes in Kai Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 342 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2011
- 261 *Sangai Hisenryō*, the Three Flourishing Towns where Produces One Thousand *Ryō* (gold) per Day in Edo, Musashi Province: Yoshiwara Gay Quarter (indicated as a courtesan with two *kamuro*), Theatre Street (greeting the actor Ichikawa Danjūrō), and Nihonbashi Riverside Fish Market (man holding a *Katsuo* fish); The Warrior Shinra Saburō Yoshimitsu Playing a Pan Pipe Instrument at Mt. Ashigara in Sagami Province; Historic Spot, Kominato Inlet in Awa Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 342 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2012
- 262 The Shirasato Coast in Kazusa Province; Nantai and Nyotai Mountains in Tsukuba, Hitachi Province; Maple Leaves of Mama in Shimousa Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 342 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2013
- 263 Tajimanokami Tsunemasa Playing *Biwa* Instrument at Chikubu Island in Ōmi Province; Ropebridges Traversed by the Baskets at Hida Province; The Yōrō Waterfall in Mino Province; Box-wood Comb Created by Oroku, Woman from Tsumagome in Shinano Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 345 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2014
- 264 View of Nakanodake Mountain in Kōzuke Province; Legend of the Lady Tamamo-no-mae who became the *Sesshōseki* or death stone, in the Plain of Nasu, Shimotsuke Province; Famous Product, Large Butterbur from Akita in Dewa Province; Matsushima Islands in Mutsu Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijiro
Ōban, 345 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2015
- 265 Famous Product, Dried Flatfish of Wakasa Province; Famous Place, Mt. Hiyori in Wajima, Noto Province; Gathering the Sea Urchins in Echizen Province; Benkei Reading the *Kanjinchō* Scroll at Ataka Barrier in Kaga Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijiro
Ōban, 349 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2016
- 266 Giant Octopus from Namekawa in Etchū Province; The Niigata Dance of Echigo Province; Sekkō Beach in Sado Province Series "Harimaze Pictures of the Provinces" 1852
Fujiokaya Keijirō
Ōban, 350 × 234 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2017

- 243 The Plum-grove in Sugita, Hodogaya; View of Mt. Fuji from Totsuka; Place of Historical Interest, Lady Terute and Her Lover Oguri Buried at Yugyōji Temple in Fujisawa; View of Mt. Kōrai, Morokoshi-ga-hara Plain, Distant View of Ōyama and Footpath Between Rice Fields at Hiratsuka; Soga Juro Suke-nari in Ōiso
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 336 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2043
- 244 The Coast of Odawara; Dō-ga-shima Hot Spring Village and Shiraito Waterfall in Mt. Hakone; Mishima Myōjin Shrine Festival on the 6th Day of the 1st Month; The Warrior Shinra Saburo Yoshimitsu Playing a Pan Pipe Instrument at Mt. Ashigara in Numazu
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 336 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2044
- 245 Old Man in the *Taketori Monogatari* (story) of Hara Station; The Fuji River Battle Between the Genji and the Heike at Yoshiwara (the Heike's troop was surprised by the rustle of leaves and routed); Cleaning Up of the Snow at Kanbara
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 335 × 235 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2045
- 246 Kurasawa Dance (praying for rain) at Yui; Dangerous Surf at the Sea of Satta in Okitsu; Legendary Pine Tree that a Celestial Nymph Hanged Her Robe of Feathers at the Miho Bay in Ejiri; Noted Product, Picking the Abe Tea at Fuchū
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 335 × 232 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2046
- 247 Grated Yam Seasoned and Beaten, a Noted Food of Mariko; Blind Men Crossing the Seto River in Fujieda; Ivy Path in the Utsu Mountain at Okabe; Daimyō and His Suite Crossing the Ōi River at Shimada
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 336 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2047
- 248 Palanquin-bearers and a Passenger in Humorous Shanks's Mare at Kanaya; Sayo-no-nakayama and Muken Mountains at Nissaka; Tide over the 48 Torrents at the Akiba Coastal Road in Kakegawa, Tōtōmi Province; The Sacred Bird to the Akiba Shrine at Fukuroi
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 334 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2048
- 249 A Crane with a Gold Talisman from Iwai Village in Mitsuke; Autumn Grasses in the Morning Mist at Hikumano Plain in Hamamatsu; View of the Lake of Tōtōmi at Maisaka; Catching Eels, the Noted Product of the Lake Hamana in Arai; Historical Allusion of the courtesan of Onnaya at Shirasuka
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 335 × 231 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2049
- 250 Steep, Ragged Rock at Futagawa; The Toyokawa River in Yoshida; Tractician Yamamoto Kansuke (the staff of the daimyō Takeda Shingen) at Goyu in Snow; Full Moon over the Footpath between Rice Fields in Akasaka
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 334 × 231 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2050
- 251 The Verge of Fujikawa; Jōruri-hime playing *Koto* at Yahagi Village, Okazaki; The Heian Poet Ariwara Narihira Standing by the Yatsunashi Bridge in Chiryū; Plovers over the Sea at Narumi
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 335 × 230 mm plus margins
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.980
- 252 The Seven-ri Marine Ferry at Miya; Noted Product, Baked Clams in Kuwana; Noted Product, Lobster in Yokkaichi
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 334 × 230 mm plus margins
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.981
- 253 Double Cherry Blossoms of Ishiyakushi; The Field View at Shono; Golden Dolphin on the Top of the Kameyama Castle; Portrait of the Priest Ikkyū in Seki
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 339 × 231 mm plus margins
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.982
- 254 Famous Scenery of a Landscape, Mt. Fudesute and the Yasose River (legendary place of the artist Kanō Motonobu stopped to sketch scenery because of excessively superb view); Rain at Mt. Suzuka near Tsuchiyama; Famous Product of Minakuchi: An Old Man Making a Match-cord and Wicker Baskets; Noted Food of Megawa Village in Ishibe: Woman Baking *Dengaku* (bean-curd baked and daubed with *miso*)
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 332 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2054

- 229 Five Vignettes of Edo: Cherry Flower Viewing at Asukayama; Shell Gathering at Low Tide at Shinagawa; Paper Lantern and Yoshiwara's Street Lamp; Peony Flowers at Tomigaoka in Fukagawa; Full Moon over Takanawa Bay
Series "Harimaze of Famous Places in Edo"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 339 × 223 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2003
- 230 Five Vignettes of Edo: San'yabori Canal and Matsuchiyama in Snow; *Garyūbai* (Sleeping Dragon Plum) from Kameido; Benten Shrine at Shinobazu; Wooden Warblers, a Product of Kameido and *Shijimi* Shells; *Miyakodori* (gulls) on the Sumida River
Series "Harimaze of Famous Places in Edo"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 334 × 224 mm plus margins
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.927
- 231 Five Vignettes of Edo: Pleasure Boat at Ryōgoku; Cherry Blossoms of Gotenyama; Hand Puppets, a Product of Kinryūzan, Asakusa; Mimeguri Embankment; Toeizan in Ueno
Series "Harimaze of Famous Places in Edo"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 334 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2005
- 232 View of Asukayama; Opening Performance, *Sanbasō* Dance at a Theater in Saruwaka-machi; View of Mt. Fuji from the Koganei Embankment
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 340 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2075
- 233 Fish Seller at Nihonbashi; Cherry Flower Viewing at Ueno; Fudō Waterfall at Meguro; Maple Leaves at Kaianji Temple Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 341 × 223 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2076
- 234 Benten Shrine at Susaki; Ochanomizu; Souvenirs of the Festival at Shimei Shrine in Shiba; Messenger of Bishamon (*Vaisravans*, the god of treasure) at Atagoyama
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 339 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2077
- 235 Pleasure Boat at Ryōgoku; Matsuchiyama and San'yabori Canal; Plum Blossoms at Umeyashiki
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 342 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2078
- 236 Teahouse at Takanawa; Iris at Horikiri Village; Nakazu and Mitsu-mata, Branched Pool
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 342 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2079
- 237 Kinryūzan Temple, Asakusa in Snow; Moon at Mimeguri Embankment; Souvenir Dolls from Kaminarimon Street, Kinryūzan Temple; Miyako-dori (gulls) on the Sumida River; Autumn Flowers at Hanayashiki in Mukōjima
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 340 × 220 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2080
- 238 Divine Service at Kameido Tenjin Shrine; Carp in the Tone River; Cherry Trees in Full Bloom at Gotenyama
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 340 × 220 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2081
- 239 Ships Moored at Teppōzu near Tsukuda Island; Stream in the Yard of the Hagidera Temple, Oshiage; Festival Dancers of Ōji Shrine
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 339 × 228 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2082
- 240 Takinogawa Waterfall at Oji; Gathering Shells at Low Tide at Shinagawa; The Suijin Grove and Mas-saki Shrine
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 344 × 224 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2083
- 241 Sunrise at Shiba Bay; Peonies at the Hachiman Shrine in Fukagawa; Pottery Dolls and Plum Branch from Imado; Girl Bouncing a Hand-ball at New Year in the Yoshiwara
Series "Harimaze Pictures of Famous Places in Edo"
1857
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 339 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2084
- 242 Nihonbashi Bridge Post; Woman Walking in Night with Paper Lantern at Shinagawa; Souvenirs from the Temple Kawasaki Daishi and Handi-work of Ōmori; View of Yokohama, Kanagawa
Series "Harimaze Pictures of the Tōkaidō Road"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 336 × 232 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2042

- 208 Mt. Fuji and A Bridge Post and Railing
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 376 × 256 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2159
- 209 Tea Pot on Portable Stove and *Sake* Warmer
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 375 × 252 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2160
- 210 Stone Lantern and Falcon on Perch
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 374 × 257 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2161
- 211-217 Various *Jōruri* Plays
1852
Ibaya Senzaburō
Ōban, 371-378 × 256-262 mm
Japanese private collection
- 218 Sōjōbō, Ushiwakamaru and Goblins as Street Entertainers;
Legend of the *Sesshōseki* (death stone), A Wicked Fox Disguised as Lady Tamamo-no-mae and Warriors Miura-no-suke and Kazusa-no-suke Pursuit the Fox
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2137
- 219 Warrior Watanabe no Tsuna, the One of Big Four of Minamoto Yorimitsu, Selling Tickets to a Sideshow; Musashibō Benkei as an Antique Dealer Selling Used Weapons and Priest's Gears
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2139
- 220 Warrior Ōmori Hikoshichi Leading the Demon to His Shop of the Straw-works;
Mythological Figures Susanoo no Mikoto and Kushinada-hime Operating a Broiled Eel Shop
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John h. Van Vleck, 1980.2140
- 221 Warrior Minamoto Yorimasa and His Retainer I no Hayata Hirosada with a Performing Monkey Dance; Warrior Kumagai Naozane Buying Noodles from Taira no Atsumori
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2141
- 222 Warrior Sakata Kintoki Selling Sweetend Red Beans to Demons;
Warrior Nasu no Yoichi at the Yashima Archery Parlor
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2142
- 223 Warrior Nitta Shirō Tadatsune at a Restaurant for Boar Meat;
Warrior Satō Tadanobu Manipulating a Puppet of the Dancer Shizuka
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2143
- 224 Momotarō and His Loyal Retainers, Dog and Monkey, and the Devil;
Warrior Taira no Tadamori and Priest of the Lamp Oil-feeder
Series "Comic Warriors for Children"
1854
Wakasaya Yoichi
Ōban, 360 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2144
- 225 Child Painting Eyebrows of Sleeping Clerk by the Letter Rack;
Students Frightening Teacher
1840s
Moritaya Hanzō
Ōban, 370 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2170
- 226 The Battle of the *Mochi* (rice cake) and *Sake* (rice wine)
Mid 1840s
Maruya Seijirō
Ōban, triptych, 365 × 763 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2204
- 227 Five Vignettes of Edo: Red Maple Leaves of the Kaianji Temple, Shinagawa and a Gourd *Sake* Bottle; Ōji Gongen Shrine Festival on the 13th day of Early Fall (the 7th month); Netting Boats at Tsukudajima; Zōjōji Temple, Shiba in Snow; The Kanda River at Ochanomizu
Series "*Harimaze* of Famous Places in Edo"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 343 × 223 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2001
- 228 Five Vignettes of Edo: Nakasu/Mitsumata and Eitai Bridge; Bonito and Eggplants from the Morning Market at Nihonbashi; *Kawarake* (eathen plates for throwing) Seller at Dōkanyama Hill; Autumn Grasses and Full Moon over Hanayashiki; New Year's Sunrise at Susaki
Series "*Harimaze* of Famous Places in Edo"
1852
Izumiya Ichibei
Ōban, 337 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2002

- 191 Massaki Shrine and the Hashiba Ferry on the Sumida River
Ca. 1850
Enshūya Matabei
Uchiwa-e, 220 × 278 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1996
- 192 The Chōfu Tama River in Musashi Province
Series "Six Modern Tama Rivers"
Ca. 1850
Unidentified publisher
Uchiwa-e, 221 × 292 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1994
- 193 Hirai Yasumasa, the Night Duty Attendant of the Minamoto Yorimitsu, at the Gate in the Snow, and His Wife Izumi Shikibu and the Burglar Hakamadare Yasusuke on the Veranda
Series "Ancient Tales in Snow, Moon and Flowers"
1847
Enshūya Matabei
Uchiwa-e, 227 × 297 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1987
- 194 Ushiwakamaru Reading a Scroll of the Secret Tactics and His Lover Minazuru-hime, the Daughter of Kiitsu Hōgen, in a Garden under the Full Moon
Series "Ancient Tales in Snow, Moon and Flowers"
1847
Enshūya Matabei
Uchiwa-e, 230 × 302 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1988
- 195 The Regent of Kamakura Shogunate Sagami Jirō Tomotoki at Right, Makes Improper Advances to the Lady-in-waiting Matsushima, the Fiancee of Asahina Saburō Yoshihide, the Night Duty Standing in Center, on a Railing Passage by Blossoming Cherry Trees
Series "Ancient Tales in Snow, Moon and Flowers"
1847
Enshūya Matabei
Uchiwa-e, 230 × 298 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1989
- 196 The Yoshino River in the *Jōruri* Play Imoseyama
Series "Landscapes with Scenes of *Jōruri* Plays"
Ca. 1850
Kojimaya Jūbei
Uchiwa-e, 222 × 287 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1993
- 197 Cherry Blossoms at Saga
Series "Prince Genji in Snow, Moon and Flowers"
1854
Ibaya Senzaburō
Uchiwa-e, 215 × 290 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2000
- 198 Winter: Exiled Sugawara no Michizane and Legendary Plum Blossoms at Dazaifu in Tsukushi Province
Series "Celebrated Flowers of Ancient Times in the Four Seasons"
1845
Surugaya Sakujiro
Uchiwa-e, 235 × 296 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1986
- 199 Ariwara no Narihira Passing Mt. Fuji on His Eastern Journey
Mid 1840s
Sanoya Kihei
Vertical *Ōban*, diptych, 720 × 247 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2202
- 200 The Chōfu Tama River in Musashi Province
Series "Six Tama Rivers in Various Provinces"
Ca. 1835-36
Tsutaya Jūzaburō
Ōban, 225 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1236
- 201 The Ide Tama River in Yamashiro Province
Series "Six Tama Rivers in Various Provinces"
Ca. 1835-36
Tsutaya Jūzaburō
Ōban, 225 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1235
- 202 Chapter Akashi, An Elegant Tale of Genji (with Toyokuni III)
1853
Iseya Kanekichi
Ōban, triptych, 356 × 732 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2209
- 203 Prince Genji Viewing Tago-no-ura Bay (with Toyokuni III)
1857
Maruya Jinpachi
Ōban, triptych, 356 × 752 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2213A
- 204 Owl and Mushroom
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 364 × 249 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2155
- 205 A Pine Tree with Exposed Roots and A Warbler on Plum Tree
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 364 × 250 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2156
- 206 A Salted Salmon and A Tea Kettle
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 375 × 254 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2157
- 207 An Incoming Ship and A Tea Cup on a Stand
Series "Improvised Shadow Pictures"
Early 1840s
Tsutaya Kichizō
Ōban, 375 × 259 mm (two prints unsevered)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2158

- 170 Peach Blossoms and Swallows in Moonlight
Ca. 1832
Kawasho (Kawaguchi Shōzō)
Ōtanzaku, 370 × 167 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1856
- 171 Red Parrot on Pine Branch
Ca. 1832
Jakurindō (Wakasaya Yoichi)
Ōtanzaku, 379 × 168 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1859
- 172 Camellia and Sparrows in Snow
Ca. 1832
Jakurindō (Wakasaya Yoichi)
Ōtanzaku, 378 × 169 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1867
- 173 Frogs and *Yamabuki* (yellow rose) Flowers
Ca. 1832
Jakurindō (Wakasaya Yoichi)
Ōtanzaku, 386 × 178 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1861
- 174 Crane, Waves, and Rising Sun
Ca. 1832
Jakurindō (Wakasaya Yoichi)
Ōtanzaku, 386 × 175 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1864
- 175 Hawk on Pine Tree, and Rising Sun
Ca. 1832
Sanoki (Sanoya Kihei)
Ōtanzaku, 371 × 168 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1863
- 176 Dragon in Clouds
Ca. 1840
Sanoki (Sanoya Kihei)
Ōtanzaku, 382 × 171 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1853
- 177 Dragon in Clouds
Ca. 1850
No publisher mark
Ōtanzaku, 370 × 170 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1857
- 178 Crane on Pine Tree, and Rising Sun
1850s
No publisher mark
Vertical *Ōban* diptych, 715 × 242 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2200
- 179 Hawk on Pine Tree in Snow
Ca. 1840
Sanoki (Sanoya Kihei)
Vertical *Ōban* diptych, 738 × 252 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2198
- 180 Hawk on Pine Tree, and Rising Sun
1852
Sanoki (Sanoya Kihei)
Vertical *Ōban* diptych, 750 × 250 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2199
- 181 *Kasago* (scorpionfish), *Isaki* Fish and *Hajikami* (ginger roots)
Early 1830s
Eijudō (Nishimura Yohachi)
Ōban, 251 × 364 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1962
- 182 Two *Kanagashira* (gurnards) and *Konoha Karei* (flounder) on *Sasa* (bamboo leaves)
Early 1830s
No publisher mark
Ōban, 247 × 361 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1961
- 183 *Ayu* (sweetfish)
Mid 1830s
No publisher mark
Ōban, 252 × 365 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1975
- 184 Kaminari Shōkurō Likened to a Courtesan
Series "Fationable Five Dandies"
Ca. Late 1810's
Iwatoya Kisaburō
Ōban, 385 × 256 mm
Japanese private collection
- 185 Strolling Coartesan with *Kikyō*
Series "Pride of Edo"
Ca. 1930-33
Kawaguchi Shōzō
Ōban, 379 × 255 mm
Japanese private collection
- 186 Summer Evening in Full Moon
Series "Snow, Moon and Flowers"
Early 1850s
Ibaya Senzaburō
Ōban, triptych, 356 × 754 mm
Japanese private collection
- 187 Great Fireworks at Ryōgoku
1850s
Yamadaya Shōjirō
Ōban, triptych, 375 × 762 mm
Japanese private collection
- 188 Pleasure Boat at Ryōgoku in Edo
1850s
Sanoya Kihei
Ōban, triptych, 361 × 723 mm
Japanese private collection
- 189 Garden with Cherry Trees in Moonlight
1850s
Ebiya Rinnosuke
Uchiwa-e, 208 × 296 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1992
- 190 Moon after Snow at Ryōgoku
Series "Three Famous Views of Snow in the Eastern Capital"
1844
No Publisher mark
Uchiwa-e, 189 × 248 mm
Bequest of John H. Van Vlick, 1980.1991

- 152 Yūhi-no-oka and Taikobashi at Meguro
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 340 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1695
- 153 Kinryūzan Temple in Asakusa
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1856
Uoya Eikichi
Ōban, 339 × 223 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1681
- 154 Fox Fires on New Year's Eve under the Enoki Tree at Ōji
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 337 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1702
- 155 Nihonbashi and Edobashi
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 339 × 221 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1622
- 156 The Precincts of the Tomigaoka Hachiman Shrine at Fukagawa
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid-late 1830s
Tsutaya Kichizō
Ōban, triptych, 360 × 735 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 2213
- 157 Cherry Trees in Full Bloom in the Third Month along Gochōmachi Streets of the Shin Yoshiwara
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid-late 1830s
Tsutaya Kichizō
Ōban, triptych, 374 × 765 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 2217
- 158 Snow Viewing at the Uekiya Restaurant at Mokuboji Temple
Series "Famous Restaurants in Edo"
1835-42
Fujiokaya Hikotarō
Ōban, 229 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1474
- 159 Nikenjaya (teahouse) at the Hachiman Shrine in Fukagawa
Series "Famous Restaurants in Edo"
1835-42
Fujiokaya Hikotarō
Ōban, 221 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1470
- 160 Street Scene in Front of the Clothier Iwaki Masuya Store
Ca. 1850
Sanoya Kihei
Ōban, triptych, 364 × 784 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2210
- 161 Evening Snow on Asukayama
Series "Eight Views of the Environs of Edo"
1837-38
Sanoya Kihei
Ōban, 223 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1463
- 162 Evening Glow at Koganei
Series "Eight Views of the Environs of Edo"
1837-38
Sanoya Kihei
Ōban, 223 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1467
- 163 View of Shiohama Beach at Gyōtoku
Ca. 1839
Wakasaya Yoichi
Horizontal long *surimono*, 155 × 455 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1816
- 164 Bamboo and Sparrow
Mid 1830s
Shōeidō (Wakasaya Yoichi)
Drawn sparrow by Rin (10 year old, girl), perhaps a daughter of Saitō Ryōshin
Chūtan-zaku, 375 × 129 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1871
- 165 Shijūkara (great tit) on Wisteria
Mid 1830s
Shōeidō (Wakasaya Yoichi)
Chūtan-zaku, 384 × 127 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1878
- 166 Mandarin Ducks on Ice, and Falling Leaves
Mid 1830s
No publisher mark
Chūtan-zaku, 369 × 130 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1880
- 167 Kingfisher and Irises
Mid 1830s
Kawashō (Kawaguchi Shōzō)
Chūtan-zaku, 373 × 127 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1873
- 168 Cuckoo Flying over Isozaki in Rain
Ca. 1840
Shōeidō (Wakasaya Yoichi)
Chūtan-zaku, 380 × 128 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1869
- 169 Crescent Moon
Series "Twenty-eight Views of the Moon"
Ca. 1832
Jakurindō (Wakasaya Yoichi)
Ōtan-zaku, 381 × 175 mm
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984.877

- 135 Crowds at the Year-End Market at Kinryūzan Temple in Asakusa
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid 1830s
Sanoya Kihei
Ōban, 229 × 347 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1738
- 136 Kabuki Theaters at Nichōmachi
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid 1830s
Sanoya Kihei
Ōban, 225 × 343 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1742
- 137 Kasumigaseki
Series "Famous Places in Edo"
Late 1830s-early 1840s
Sanoya Kihei
Ōban, 223 × 347 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1754
- 138 Evening Snow at Atagoyama
Series "Eight Views of Shiba in the Eastern Capital"
Ca. 1839
Echizenya Heizaburō
Ōban, 235 × 348 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1803
- 139 The Shinmei Shrine in Shiba
Series "Famous Places in Edo"
Mid-late 1830s
Izumiya Ichibei
Aiban, 197 × 330 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1490
- 140 Snow on the Sumida River
Series "Famous Places in Edo"
Mid-late 1830s
Izumiya Ichibei
Aiban, 189 × 325 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1485
- 141 Evening Bell at Kinryūzan Temple
Series "Famous Places in the Eastern Capital: Eight Views of the Sumida River"
1840-42
Sanoya Kihei
Aiban, 202 × 320 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1787
- 142 Snow at Kinryūzan Temple in Asakusa
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Early 1840s
Jōshūya Kinzō
Aiban, 200 × 325 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1782
- 143 View from the Top of Matsuchiyama
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid 1840s
Sanoya Kihei
Ōban, 220 × 343 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1757
- 144 The Year End Fair at Kinryūzan Temple in Asakusa
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
1856
Sanoya Kihei
Ōban, 217 × 337 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1755
- 145 Snow at Akabane in Shiba
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid 1840s
Sanoya Kihei
Ōban, 221 × 342 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1758
- 146 New Year's Sunrise at Susaki
Series "Famous Places in Edo"
1853
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 218 × 344 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1526
- 147 Nihonbashi and Edobashi
Series "Famous Places in Edo"
1853
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 220 × 343 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1525
- 148 Night View of Matsuchiyama and San'yabori
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 341 × 227 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1612
- 149 Bridge Ōhashi and Atake in Sudden Shower
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 339 × 220 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1632
- 150 Hiroshige II
View of Evening Rain at the Paulownia Plantation at Akasaka
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1859
Uoya Eikichi
Ōban, 337 × 219 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1628
- 151 Eitai Bridge and Tsukuda Island
Series "One Hundred Views of Famous Places in Edo"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 337 × 224 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1581

- 1118 Autumn Moon over the Emonzaka near the Shin Yoshiwara
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid-late 1830s
Fujiokaya Hikotarō
Chūtan-zaku, 352 × 124 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1796
- 1119 Ochanomizu in Hongō
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Ca. 1841
Kawaguchi Shōzō
Chūtan-zaku, 333 × 116 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1800
- 120 The Sumida River
Series "Famous Places in Edo"
1852
Wakasaya Yoichi
Chūtan-zaku, 368 × 125 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1555
- 121 New Year's Sunrise at Shibaura
Series "Famous Places in Edo"
1852
Wakasaya Yoichi
Chūtan-zaku, 365 × 125 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1554
- 122 Night Rain at Fukagawa
Series "Eight Views of Edo (Fan)"
Ca. 1832
Kawaguchi Shōzō
Quarter *Ōban*, 117 × 170 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1568
- 123 Descending Geese at Tsukuda
Series "Eight Views of Edo (Fan)"
Ca. 1832
Kawaguchi Shōzō
Quarter *Ōban*, 116 × 170 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1569
- 124 Autumn Moon at Shinagawa
Series "Eight Views of Edo (Fan)"
Ca. 1832
Kawaguchi Shōzō
Quarter *Ōban*, 116 × 169 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1571
- 125 Evening Glow at Ryōgoku
Series "Eight Views of Edo (Fan)"
Ca. 1832
Kawaguchi Shōzō
Quarter *Ōban*, 116 × 167 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1572
- 126 Twelve Views of Edo (Four designs in a sheet)
a. Low Tide at Susaki (upper right)
b. Shinobazu Pond at Ueno (lower right)
c. Asukayama (upper left)
d. Cherry Trees at Gotenyama (lower left)
Ca. 1830
Izumiya Ichibei
Ōban, 219 × 334 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1573abcd
- 127 Twelve Views of Edo (Four designs in a sheet)
a. Rice Fields by the Yoshiwara (upper right)
b. Takanawa (lower right)
c. Below Dōkanyama (upper left)
d. Clear Weather after Show at Nihonbashi (lower left)
Ca. 1830
Izumiya Ichibei
Ōban, 217 × 335 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1574abcd
- 128 Twelve Views of Edo (Four designs in a sheet)
a. Tsukuda Island (upper right)
b. Evening Cool at Ryōgoku (lower right)
c. Sumida River (upper left)
d. View of Nakazu (lower left)
Ca. 1830
Izumiya Ichibei
Ōban, 219 × 335 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1575abcd
- 129 First Cuckoo Flying over Tsukudajima
Series "Famous Places in the Eastern Capital (Signed Ichiyūsai Hiroshige)"
Ca. 1831
Kawaguchi Shōzō
Ōban, 221 × 360 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1727
- 130 Evening Cherry Trees at Gotenyama
Series "Famous Places in the Eastern Capital (Signed Ichiyūsai Hiroshige)"
Ca. 1831
Kawaguchi Shōzō
Ōban, 221 × 359 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1728
- 131 Cherry Trees in Leaf on the Bank of the Sumida River
Series "Famous Places in the Eastern Capital (Signed Ichiyūsai Hiroshige)"
Ca. 1831
Kawaguchi Shōzō
Ōban, 222 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1726
- 132 Evening Glow at Asakusa
Series "Eight Views in the Eastern Capital (Fan shape)"
Mid 1830s
Fujiokaya Hikotarō
Aiban, 227 × 336 mm
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984. 889
- 133 Evening Snow at Ryōgoku
Series "Eight Views in the Eastern Capital (Fan shape)"
Mid 1830s
Fujiokaya Hikotarō
Aiban, 226 × 329 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1715
- 134 Atagoyama in Shiba
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Late 1830s
Sanoya Kihei
Ōban, 222 × 340 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1746

- 99 Kokokufu Harbor in Etchū Province
Series "Mountains and Seas Likened to Sumo Wrestling Matches"
1858
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 219 × 344 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1447
- 100 Yamabushi Gorge in Mimasaka Province
Series "Pictures of Famous Places in the Sixty-odd Provinces"
1853
Koshimuraya Heisuke
Ōban, 345 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1342
- 101 Yōrō Waterfall in Mino Province
Series "Pictures of Famous Places in the Sixty-odd Provinces"
1853
Koshimuraya Heisuke
Ōban, 345 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1318
- 102 Rough Sea at Naruto in Awa Province
Series "Pictures of Famous Places in the Sixty-odd Provinces"
1855
Koshimuraya Heisuke
Ōban, 345 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1351
- 103 Wakanoura Bay in Kii Province
Series "Pictures of Famous Places in the Sixty-odd Provinces"
1855
Koshimuraya Heisuke
Ōban, 345 × 230 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1349
- 104 Musashino Plain
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1852
Sanoya Kihei
Chūban, 164 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1401
- 105 Ōtsuki-ga-hara Plain in Kai Province
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1852
Sanoya Kihei
Chūban, 163 × 231 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1371
- 106 Kimukai Valley at Ōyama in Sagami Province
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1852
Sanoya Kihei
Chūban, 164 × 229 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1377
- 107 The Ōtsuki-ga-hara (Plain) in Kai Province
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1858
Tsutaya Kichizō
Ōban, 340 × 224 mm trimmed to borderlines at top and bottom
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1435
- 108 The Hoda Coast in Awa Province
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1858
Tsutaya Kichizō
Ōban, 338 × 224 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1440
- 109 Sukiya-gashi (River Bank) in the Eastern Capital
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1858
Tsutaya Kichizō
Ōban, 337 × 220 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1407
- 110 The Izu Mountains
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1858
Tsutaya Kichizō
Ōban, 340 × 219 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1426
- 111 Koshigaya Village in Musashi Province
Series "Thirty-six Views of Mt. Fuji"
1858
Tsutaya Kichizō
Ōban, 338 × 220 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1418
- 112 Pilgrimage to the Original Benzaiten Shrine in the Cave at Enoshima in Sagami Province
Ca. 1850
Sumiyoshiya Masagoro
Ōban, triptych, 366 × 742 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.2206
- 113 Full Moon at Kanazawa of Musashi Province
1857
Tsutaya Kichizō
Ōban, triptych, 375 × 769 mm
Japanese private collection
- 114 Summer Moon at Ryōgoku
Series "Famous Places of Edo in the Four Seasons"
Ca. 1834
Kawaguchi Shōzō
Chūanzaku, 380 × 127 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1707
- 115 Evening View of Kasumigaseki
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid-late 1830s
Fujiokaya Hikotarō
Chūanzaku, 378 × 125 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1797
- 116 Rain at Azuma Bridge below Kinryūzan Temple
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid-late 1830s
Fujiokaya Hikotarō
Chūanzaku, 370 × 125 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1793
- 117 Shell Gathering at Low Tide on the Beach at Susaki
Series "Famous Places in the Eastern Capital"
Mid-late 1830s
Fujiokaya Hikotarō
Chūanzaku, 377 × 124 mm
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1789

- 80 Descending Geese at Katada
Series "Eight Views of Ōmi Province"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 340 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1221
- 81 Evening Glow at Seta
Series "Eight Views of Ōmi Province"
1857
Uoya Eikichi
Ōban, 340 × 225 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1220
- 82 Night Rain at Karasaki
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 169 × 228 mm
Japanese private collection
- 83 Lingering Snow on Mt. Hira
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 168 × 227 mm
Japanese private collection
- 84 Returning Sail at Yubase
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 168 × 228 mm
Japanese private collection
- 85 Autumn Moon at Ishiyama
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 169 × 228 mm
Japanese private collection
- 86 Descending Geese at Katada
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 169 × 228 mm
Japanese private collection
- 87 Evening Glow at Seta
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 169 × 228 mm
Japanese private collection
- 88 Clearing Weather after Storm at Awazu
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 168 × 227 mm
Japanese private collection
- 89 Vesper Bell at Mii Temple
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Late 1840s
(Nunokichi)
Chūban, 169 × 228 mm
Japanese private collection
- 90 The Yodo River
Series "Famous Places in Kyōto"
Ca. 1834
Kawaguchi Shōzō (Eisendō)
Ōban, 222 × 355 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1267
- 91 Red Maple Leaves at Tsūtenkyō
Series "Famous Places in Kyōto"
Ca. 1834
Kawaguchi Shōzō (Eisendō)
Ōban, 222 × 355 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1264
- 92 View of Dōtonbori
Series "Pictures of Famous Places in Ōsaka"
Ca. 1834
Kawaguchi Shozo (Eisendō)
Ōban, 225 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1273
- 93 Kyūken-chō Street in the Shinmachi District
Series "Pictures of Famous Places in Ōsaka"
Ca. 1834
Kawaguchi Shōzō (Eisendō)
Ōban, 225 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1278
- 94 Nunobiki Waterfall in Settsu Province
Series "Famous Places in Japan"
Ca. 1837-39
Fujiokaya Hikotarō (Shōgendō)
Ōban, 221 × 349 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1250
- 95 Shichiri-ga-hama Beach in Sagami Province
Series "Famous Places in Japan"
Ca. 1832
Fujiokaya Hikotarō (Shōgendō)
Ōban, 209 × 347 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1249
- 96 Kiyomi-ga-seki Barrier in Suruga Province
Series "Famous Places in Japan"
Ca. 1837-39
Fujiokaya Hikotarō (Shōgendō)
Ōban, 223 × 347 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1251
- 97 Mt. Zōzu in Sanuki Province
Series "Mountains and Seas Likened to Sumo Wrestling Matches"
1858
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 219 × 344 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1453
- 98 Ōyama in Sagami Province
Series "Mountains and Seas Likened to Sumo Wrestling Matches"
1858
Yamadaya Shōjirō
Ōban, 219 × 344 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980.1452

- 63 Seki Station, 48th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1027
- 64 Rain at Mt. Suzuka, Tsuchiyana Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 242 × 367 mm
Japanese private collection
- 65 Sanjō-Ōhashi Bridge, Kyōto
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 153 × 210 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 896
- 66 Sanjō-Ōhashi Bridge in Kyōto
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 224 × 349 mm plus margin at top
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 841
- 67 Sanjō-Ōhashi Bridge in Kyōto
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya Tatsuzō
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 958
- 68 Sanjō-Ōhashi Bridge in Kyōto
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1118
- 69 Sanjō-Ōhashi Bridge in Kyōto, 55th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1034
- 70 Sanjō Bridge, Kyōto (Right) and River Bank at Shijō, Kyōto (Left)
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1852
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 167 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1063ab
- 71 Karuizawa, 19th Station
Series "Sixty-nine Stations on the Kiso Road"
1837-42
Takenouchi Magohachi (Hōeidō) and Iseya Rihei (Kinjudō)
Ōban, 226 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1158
- 72 Agematsu, 39th Station
Series "Sixty-nine Stations on the Kiso Road"
1837-42
Iseya Rihei (Kinjudō)
Ōban, 224 × 353 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1178
- 73 Suhara, 40th Station
Series "Sixty-nine Stations on the Kiso Road"
1837-42
Iseya Rihei (Kinjudō)
Ōban, 225 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1179
- 74 Takamiya, 65th Station
Series "Sixty-nine Stations on the Kiso Road"
1837-42
Iseya Rihei (Kinjudō)
Ōban, 221 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1204
- 75 Moriyama, 68th Station
Series "Sixty-nine Stations on the Kiso Road"
1837-42
Iseya Rihei (kinjudō)
Ōban, 216 × 346 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1207
- 76 Night Rain at Karasaki
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Ca. 1834
Yamamoto Heikichi (Eikyūdō)
Ōban, 227 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1210
- 77 Returning Sails at Yabase
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Ca. 1834
Yamamoto Heikichi (Eikyūdō)
Ōban, 227 × 352 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1213
- 78 Evening Snow on Mt. Hira
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Ca. 1842-43
Aritaya Seiemon (Yūeidō)
Chūban, 150 × 209 mm
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984. 604
- 79 Returning Sails at Yabase
Series "Eight Views of Ōmi Province"
Ca. 1842-43
Aritaya Seiemon (Yūeidō)
Chūban, 150 × 209 mm
Bequest of Abigail Van Vleck, 1984. 609

- 47 *Torii* Gate at Atsuta Bay in Miya Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 944
- 48 The Shichiri Ferry, *Torii* Gate to the Atsuta Shrine, and Nezame Village near Miya Station, 42nd Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1021
- 49 Miya Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 154 × 210 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 883
- 50 Kuwana (Right) and Yokkaichi (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1852
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 167 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1056ab
- 51 The Mie River near Yokkaichi Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 227 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 831
- 52 Yokkaichi Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 153 × 211 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 885
- 53 The Junction of the Road to Ise Shrine at Hinaga Village near Yokkaichi Station, 44th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1023
- 54 The Junction of the Road to Ise Shrine at Yokkaichi Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya Kichibei
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 946
- 55 Nako Bay and the Mie River at Yokkaichi Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1984. 547
- 56 White Rain at Shōno Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 225 × 348 mm
Japanese private collection
- 57 Clear Weather after Snow at Kameyama Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 225 × 347 mm trimmed along borderline
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 833
- 58 Lightning and Rain Storm at Kameyama Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1110
- 59 Kameyama Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya Kichibei
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 949
- 60 Kameyama Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 153 × 211 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 888
- 61 Kameyama Station, 47th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1026
- 62 Kameyama (Right) and Seki (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1852
Murataya Ichigorō
Chūban, 218 × 167 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1058ab

- 31 Dangerous Spot at the Satta Pass near Yui Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1080
- 32 The Ford over the Yui River in Yui Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya Tatsuzō
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1984. 364
- 33 Yui Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 155 × 209 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 858
- 34 Yui (Right) and Okitsu (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1851
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 168 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1043ab
- 35 Mariko Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 920
- 36 Mariko Station, 21th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1000
- 37 Mitsuke (Right) and Hamamatsu (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1852
Murataya Ichigorō
Chūban, 218 × 166 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1049ab
- 38 Hamamatsu Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 154 × 207 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 871
- 39 The Murmuring Pines at Hamamatsu Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
No publisher mark
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 930
- 40 Hamamatsu Station, 30th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1009
- 41 Winter Desolation at Hamamatsu Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 227 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 815
- 42 The Famous Murmuring Pines at Hamamatsu Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1093
- 43 Snow at Yamanaka Village (known as Mt. Miyaji) near Fujikawa Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1101
- 44 Narumi (Right) and Miya (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1852
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 167 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1055ab
- 45 *Umaoi* (Driving horse race) Divine Service at Atsuta Shrine in Miya Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 227 × 350 mm plus narrowed margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 829
- 46 The Landing of the Shichiri Ferry at Atsuta, Miya Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1105

- 15 The Lake at Hakone
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 230 × 350 mm trimmed along borderline
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 792
- 16 Travelling at Night with Torches at Hakone, 11th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 990
- 17 Hakone Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya Kichibei
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 910
- 18 Hakone Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 157 × 209 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 852
- 19 Hakone (Right) and Mishima (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1851
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 169 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1040ab
- 20 Mt. Fuji and Mt. Ashigara from Numazu Station in Clear Weather after a Showfall
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1076
- 21 Numazu (Right) and Hara (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1851
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 169 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1041ab
- 22 Mt. Fuji in the Morning at Hara station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 227 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1984. 256
- 23 Hara Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with *Kyōka* poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 159 × 208 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 855
- 24 Hara Station, 14th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 993
- 25 Kashiwabara Stopping Place and Fujinonuma near Hara Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 913
- 26 View of Mt. Fuji and Mt. Ashitaka from Hara Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1077
- 27 The Fuji Marsh and Ukishima Plain near Yoshiwara Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1078
- 28 Night Snow at Kambara Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 236 × 358 mm
Japanese private collection
- 29 The Peak of Satta Pass near Yui Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 230 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 800
- 30 Yui Station, 17th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 996

LIST OF PRINTS BY HIROSHIGE

from

THE COLLECTION OF THE ELVEHJEM MUSEUM OF ART University of Wisconsin — Madison

This English list has been prepared by Osamu Ueda

- 1 View of Nihonbashi Bridge at Dawn
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1064
- 2 Morning View at Nihonbashi Bridge
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi) and Senkakudō (Tsuruya Kiemon)
Ōban, 225 × 346 mm trimmed along borderline
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 776
- 3 Nihonbashi Bridge
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1851
Murataya Ichigorō
Chūban, 222 × 170 mm
Japanese private collection
- 4 Nihonbashi Bridge, 1st Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 980
- 5 Setting Out on a Journey at Dawn from Nihonbashi Bridge
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 898
- 6 Nihonbashi Bridge
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with Kyōka poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 154 × 208 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 842
- 7 The Katabira River and Bridge at Hodogaya Station, 5th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 984
- 8 Tora-ga-ame (Courtesan Tora's tears: Legend of Soga Monogatari) at Ōiso Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Hōeidō Tōkaidō)"
1833-34
Hōeidō (Takenouchi Magohachi)
Ōban, 230 × 350 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 789
- 9 The Hut of the Poet Saigyō at Shigitatsusawa near Ōiso Station, 9th Station
Series "Tōkaidō Road (Reisho Tōkaidō)"
Ca. 1848
Maruya Seijirō
Ōban, 220 × 348 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 988
- 10 Ōiso Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (Gyōsho Tōkaidō)"
Ca. 1841-42
Ezakiya Tatsuzō
Aiban, 198 × 319 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 908
- 11 Ōiso Station
Series "Fifty-three stations on the Tōkaidō Road (with Kyōka poem)"
Ca. 1840
Kikakudō (Sanoya Kihei)
Chūban, 158 × 209 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 850
- 12 The Hut of the Poet Saigyō at Shigitasusawa near Ōiso Station
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1072
- 13 Ōiso (Right) and Odawara (Left) Stations
Series "Fifty-three stations (Jinbutsu or Figure Tōkaidō)"
1851
Murataya Ichigorō
Chūban, 220 × 169 mm plus margins (each)
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1039ab
- 14 Traveling at Night in the Hakone Mountains
Series "Pictures of Famous Places on the Fifty-three Stations (Vertical Tōkaidō)"
1855
Tsutaya Kichizō
Ōban, 343 × 226 mm plus margins
Bequest of John H. Van Vleck, 1980. 1074

本展覧会開催にあたり、下記の方々のご協力を賜りました。(敬称略)

ウィスコンシン大学マディソン校・エルヴィエム美術館

フランク・ロイド・ライト財団

安達以乍牟

平野英夫

(株)羽黒洞 木村東介

竹下三郎

角匠

三田アート(株)

上田収

鈴木重三

竹内道敬

花咲一男

生誕200年記念 広重展

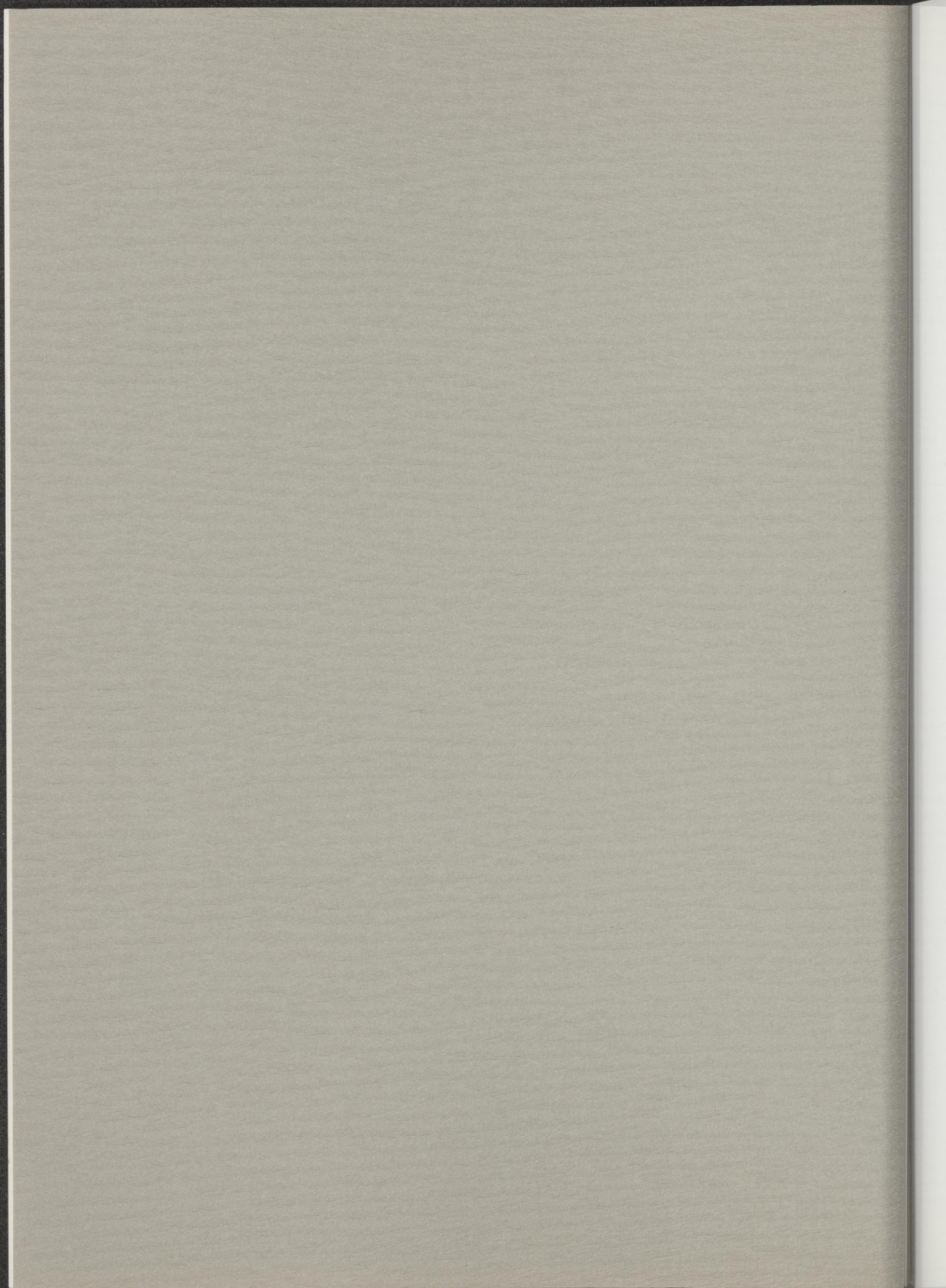
フランク・ロイド・ライトが発掘した知られざる名品、日本初公開

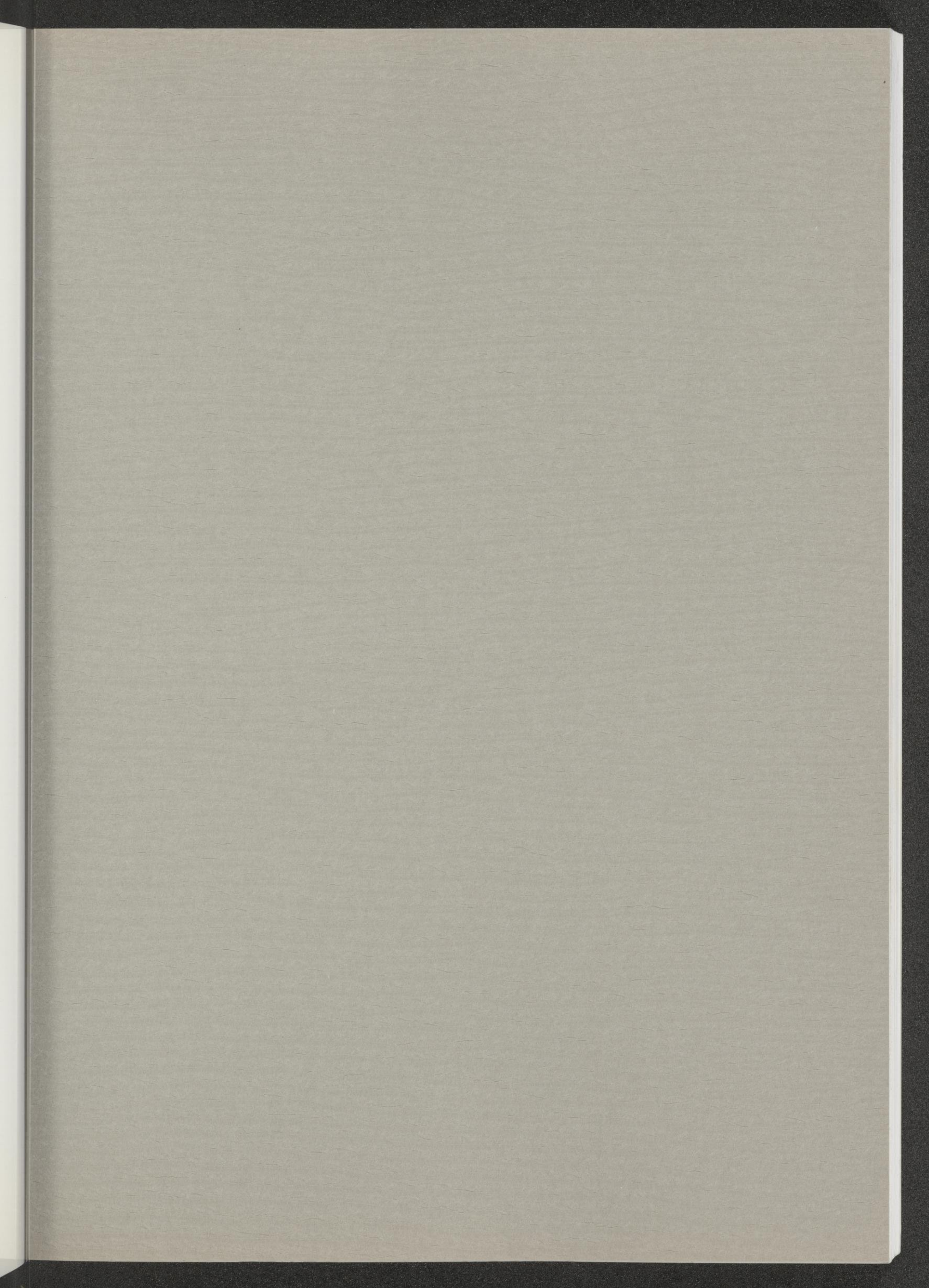
編集 染矢清一郎 (青游社)

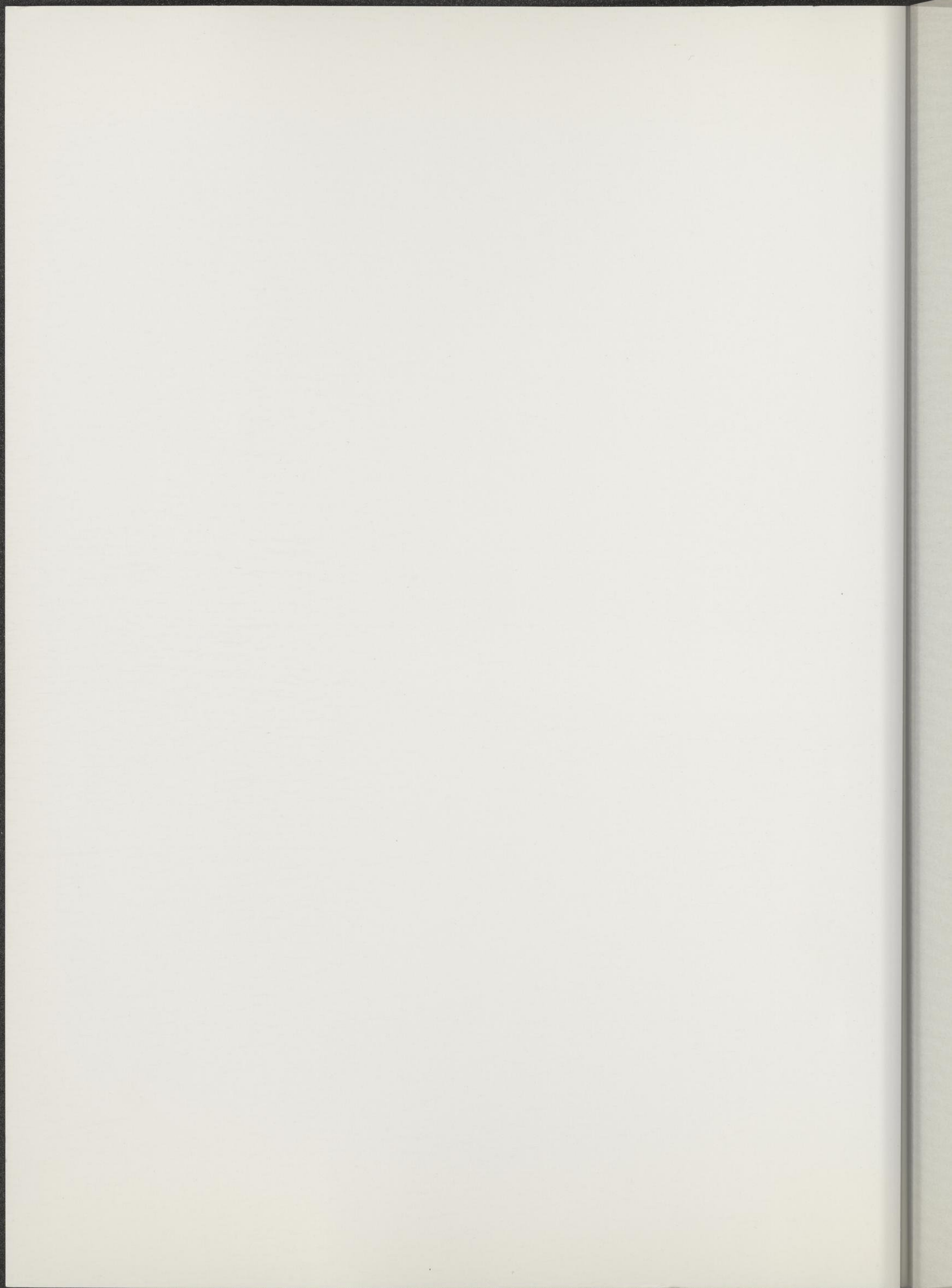
編集協力 中山吉秋

印刷製本 大東印刷工業(株)

発行 (株)ブンユー社







廣重

Chezen Museum Shop
Hiroshige publi

MUSEU



003218

307

\$ 29.95

ISBN 0-932900-82-8



9 780932 900821

90000>